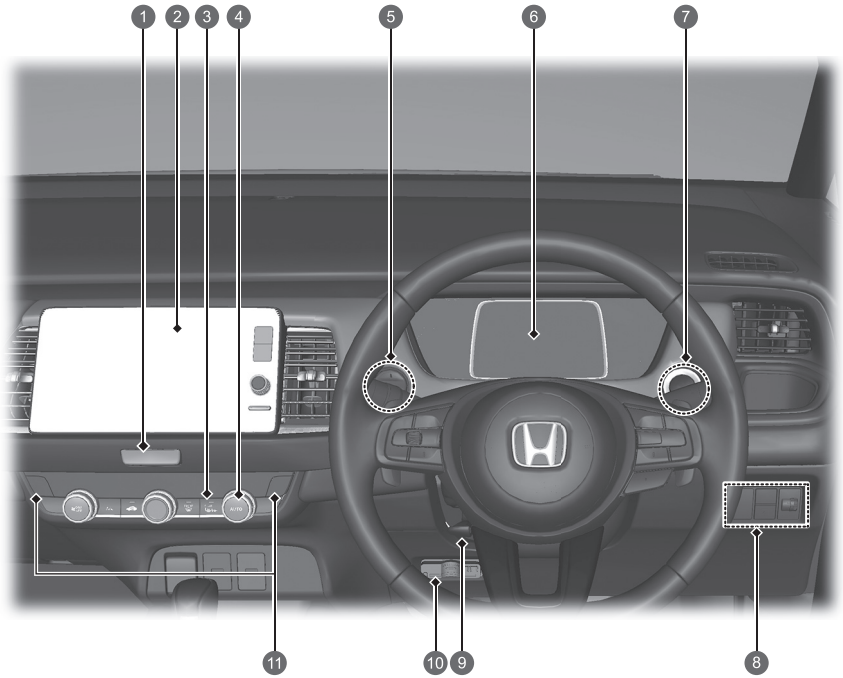
FIT e:HEV

オーナーズマニュアル

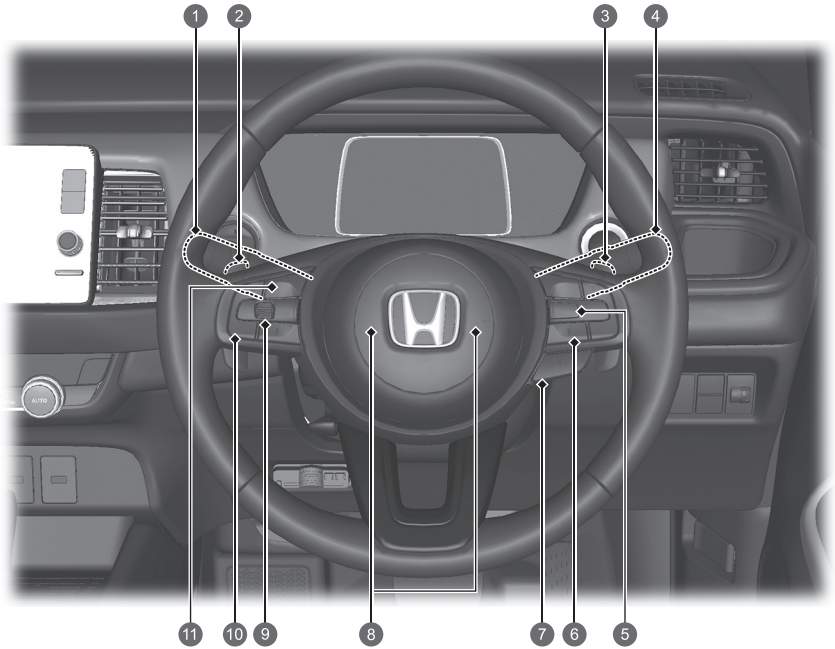
クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



1. 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
2. ナビゲーションまたはオーディオ*※1
3. リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ P. 160
4. オートエアコン P. 195
5. ドライブモードスイッチ* P. 220
6. メーター P. 92
   警告灯 P. 79
   表示灯 P. 87
   マルチインフォメーションディスプレイ P. 96
7. POWER スイッチ P. 147
8. (VSA OFF)スイッチ P. 224
   フロントガラス熱線スイッチ* P. 160
   ヘッドライトレベリングダイヤル P. 154
9. ハンドル位置調節レバー P. 161
10. ETC 車載器*※2
11. シートヒータースイッチ* P. 192

※1 ：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。
※2 ：ETC 車載器については、同梱の取扱情報をご覧ください。

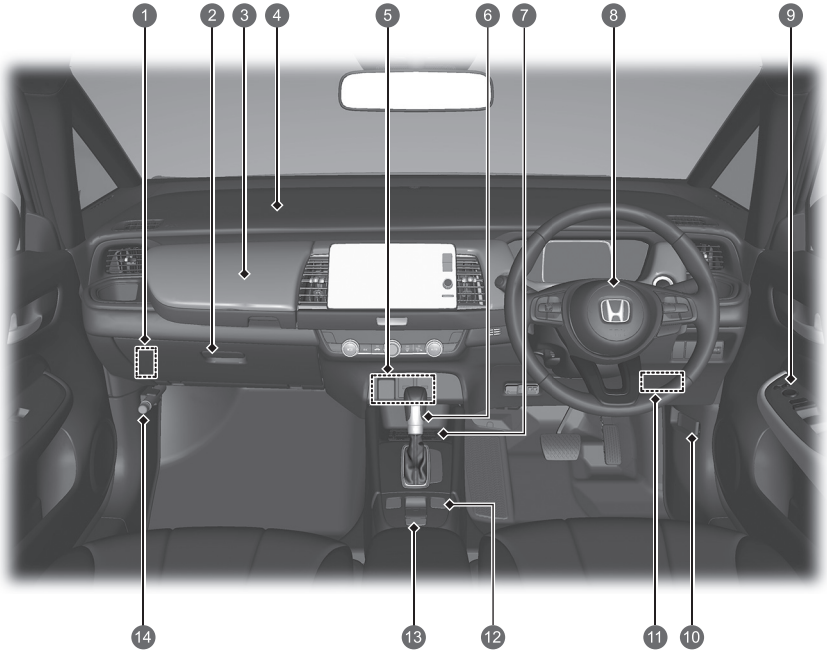


❶ ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 158
マルチビューカメラシステム* P. 353
❷ 減速セレクター(−)* P. 215
❸ 減速セレクター(+)* P. 215
❹ ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 150, 151
❺ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)スイッチ P. 273
❻ 車線維持支援システム(LKAS)スイッチ P. 296
ディスタンススイッチ P. 283
❼ ステアリングヒーター* P. 193
❽ ホーンスイッチ(周辺)
❾ スイッチ P. 96
レフトセレクターホイール P. 96
❿ オーディオリモートコントロールスイッチ*※
⓫ 発話スイッチ*※

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

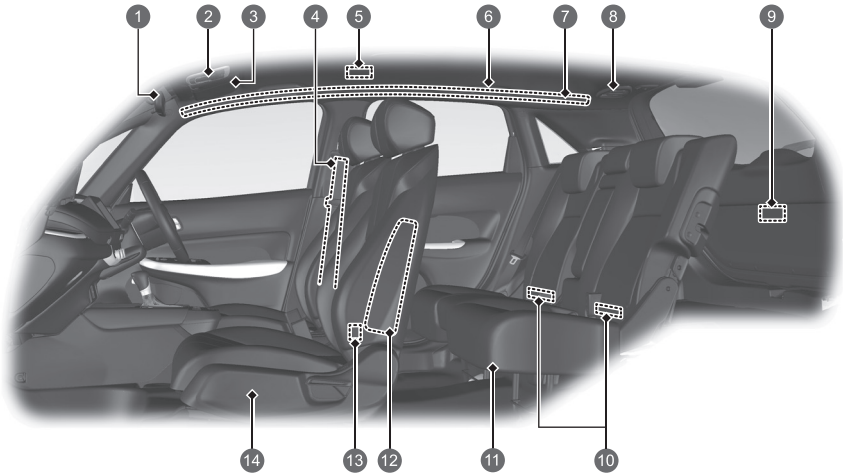
この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



❶ 室内助手席側ヒューズボックス P. 451
❷ グローブボックス P. 180
❸ 助手席アッパーボックス P. 180
❹ SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 49
❺ アクセサリーソケット P. 185
USB ジャック*※
充電専用 USB ジャック* P. 186
❻ シフトレバー P. 212
❼ ワイヤレス充電器* P. 187
❽ SRS エアバッグシステム（運転席用） P. 49
❾ ドアミラー調節スイッチ P. 163
パワーウィンドースイッチ P. 142
マスタードアロックスイッチ* P. 135
❿ ボンネット解除ノブ P. 374
⓫ 室内運転席側ヒューズボックス P. 449
⓬ ECON スイッチ* P. 218
⓭ パーキングブレーキスイッチ P. 327
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 332
⓮ 発炎筒 P. 412

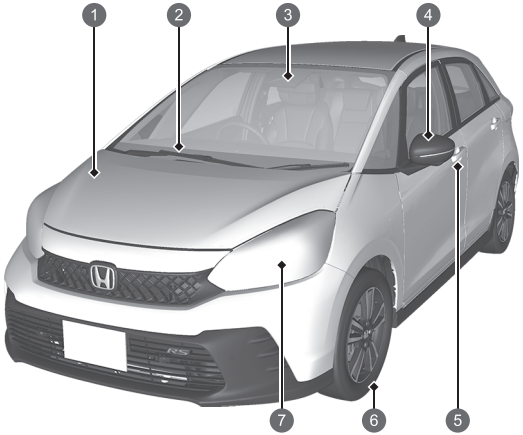
※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



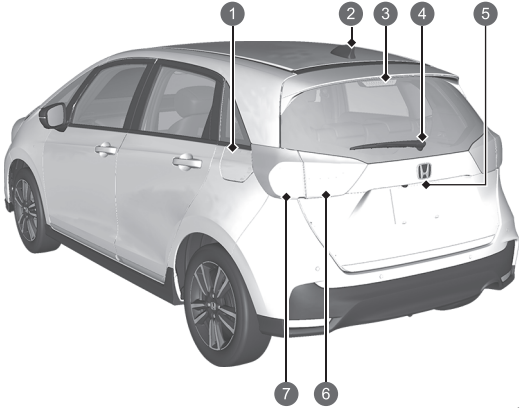
❶ ルームミラー P. 162
❷ マップランプ P. 178, 382
❸ サンバイザー
バニティミラー*
❹ シートベルト P. 35
❺ 室内灯 P. 177, 382
❻ グラブレール
コートフック P. 183
❼ サイドカーテンエアバッグシステム P. 55
❽ 分離収納式シートベルト P. 42
❾ カーゴスペース照明灯 P. 179, 384
❿ ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 69
⓫ リヤシート P. 168
⓬ サイドエアバッグシステム P. 52
⓭ 充電専用 USB ジャック* P. 186
⓮ フロントシート P. 165

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



❶ エンジンルーム内のメンテナンス P. 373
❷ ワイパー P. 158, 385
❸ フロントワイドビューカメラ P. 323
❹ ドアミラー P. 163
ドアミラーウィンカー P. 150, 378
❺ ドアの施錠 / 解錠 P. 123
❻ タイヤ P. 390, 413
❼ ヘッドライト P. 151, 378
車幅灯 / デイタイムランニングライト P. 151, 153, 378
ウィンカー P. 150, 378



❶ 給油のしかた P. 367
❷ マイクロアンテナ* P. 401
❸ ハイマウントストップランプ P. 381
❹ リヤワイパー P. 159, 388
❺ テールゲートの開閉 P. 138
番号灯 P. 151, 381
リアワイドカメラシステム*※
❻ 尾灯* P. 151, 378
後退灯 P. 380
❼ 制動灯 / 尾灯 P. 151, 378
ウィンカー P. 150, 379

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。
サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

■車両特有部分について

●緊急通報* P. 458
●トラブルサポート* P. 461

e:HEV

e:HEV 車は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーやジェネレーター(発電機モーター)から供給された電気により駆動します。高電圧バッテリーは、エンジンとジェネレーターによる発電、または回生ブレーキにより充電されます。充電された程度に応じて、電力のみで走行することができます。

モーター、ガソリンエンジン、ハイブリッド(モーターとエンジン)による走行の、合計 3 種類の走行状態があります。どのような運転が適切かをシステムが判断し、走行状態を自動的に選択します。

- **エネルギー効率について**

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。急加速や高速で走行すると、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が短くなります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

- **バッテリーのタイプ**

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

■ハイブリッド車について

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

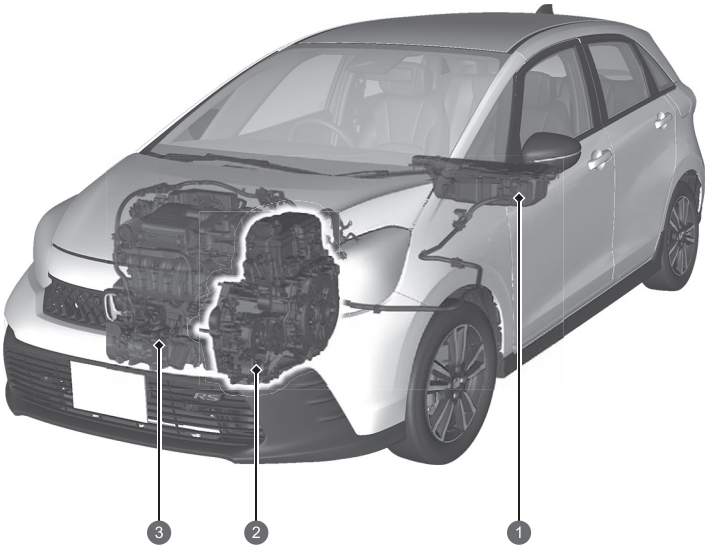
e:HEV の構成部品

エンジン – ジェネレーターを回します。状況によっては車軸を直接駆動することもあります。

ジェネレーター – エンジンを始動します。エンジンが作動中はジェネレーターで発電してモーターに電力を供給したり、高電圧バッテリーを充電します。

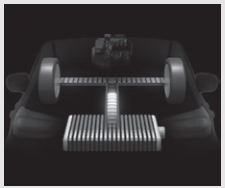
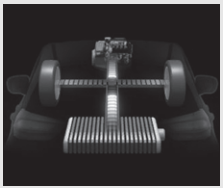
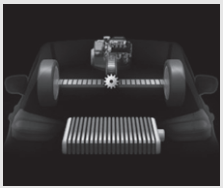
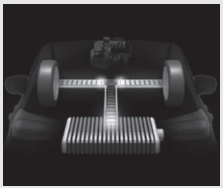
モーター – 車軸を直接駆動します(状況によってはエンジンと連動します)。また回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。

高電圧バッテリー – 電気をためておき、モーターに電気を供給します。
高電圧バッテリーの特性を理解しておくことが、EV 走行の距離を伸ばすことにつながります。P. 226



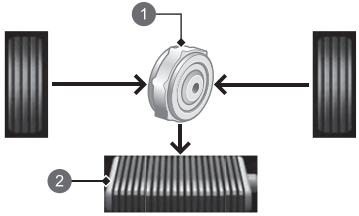
1. 高電圧バッテリー
2. ジェネレーターとモーター
3. エンジン



走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行（直接駆動）	回生
走行状態	停車中または低速走行中 • モーターの動力のみで走行	走行中かつ強い負荷がかかっているとき（加速中や登坂中など） • モーターの動力で走行 • エンジンが作動してジェネレーターを回し、電気を供給することでモーター駆動を補助、または高電圧バッテリーを充電します。	高速走行中かつ負荷が少ないとき • 主にエンジンの動力で走行 • 高電圧バッテリーからの電力供給によりモーターアシストします。また、モーターを発電機として作動させ高電圧バッテリーを充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき • モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター				
モーター	停止 / 作動	作動	発電 / 作動	回生
ジェネレーター	停止	発電	出力なし	停止 / 出力なし
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	充電 / 放電	充電

回生エネルギーと回生ブレーキ

回生ブレーキが作動しているとき



減速セレクター非装備車

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電気を取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをし、シフトレバーを B にすると、回生ブレーキが強く効きます。

減速セレクター装備車

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電気を取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをし、減速セレクターを操作して、減速の強さを変更できます。

❶ モーター
❷ 高電圧バッテリー

エンジンは自動で停止 / 始動します

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

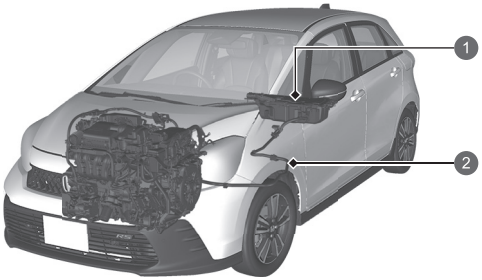
- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき
- 高電圧バッテリーの充電状態が非常に低いとき

ハイブリッド車特有の音について

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

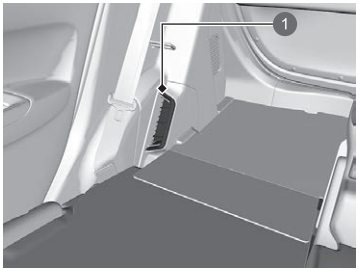
聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意



❶ 高電圧バッテリー
❷ 配線

冷却風取り入れ口をふさがない



❶ 冷却風取り入れ口

冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する
▶車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない
▶高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する
▶少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける
▶車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的にOFFになり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、Honda 販売店にご相談ください。

安全なドライブ P. 32

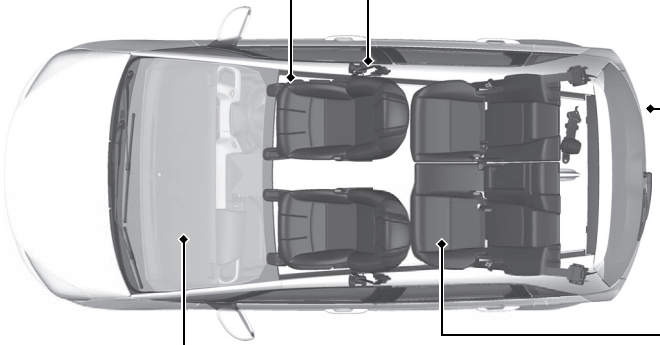


●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 33

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト P. 35

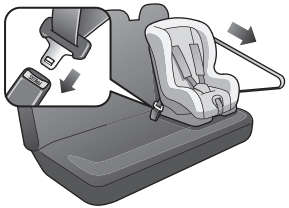


排気ガスについて P. 75

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 59

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

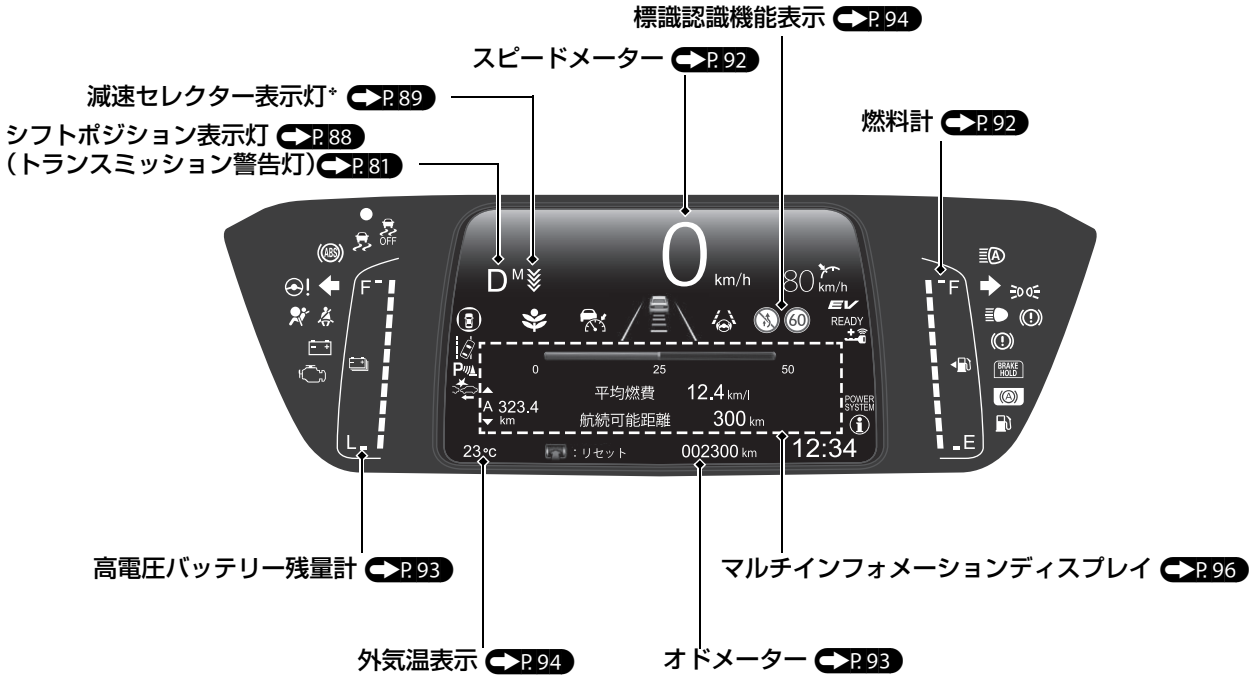


エアバッグ P. 47

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

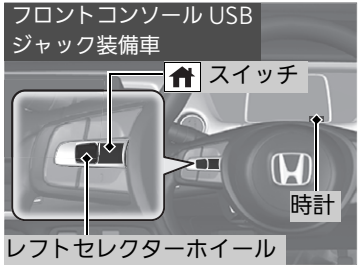
計器の見かた P. 76

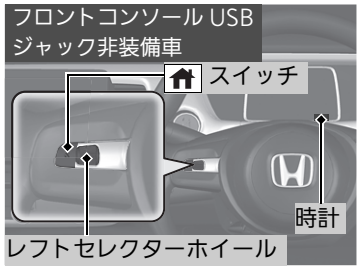
警告灯 P. 79/ 表示灯 P. 87/ メーター P. 92/ マルチインフォメーション ディスプレイ P. 96



各部の操作 P. 119

時刻を合わせる* P. 120





スイッチを押し、レフトセレクターホイールを操作する

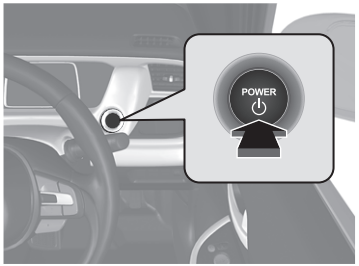
▶ 時計 / 車両設定から時刻を合わせることができます。

P. 120

スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイに時計設定が無い場合は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

POWER スイッチ P. 147

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



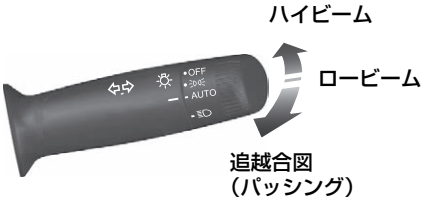
ウィンカー P. 150

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト P. 151

ライトスイッチ



この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ワイパー P.158

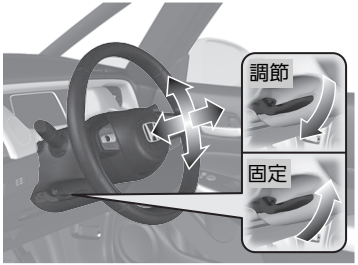
ワイパー / ウォッシャースイッチ



- OFF　停止
- INT　間欠(雨量が少ないとき)
- LO　低速(普通の雨量のとき)
- HI　高速(雨量の多いとき)

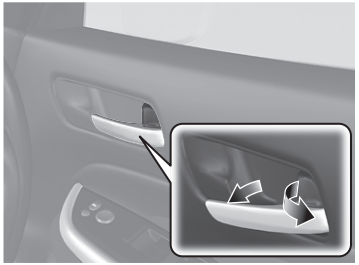
ハンドル位置の調節 P.161

●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



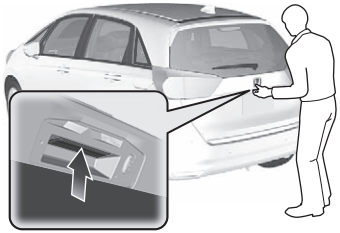
運転席ドアハンドルでの解錠 P.134

●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



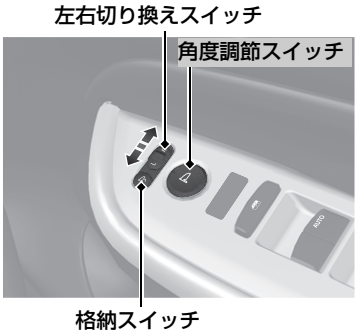
テールゲート P. 138

●施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートハンドルを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。
P. 126



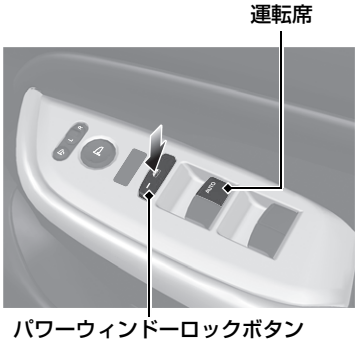
ドアミラー P. 163

●パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



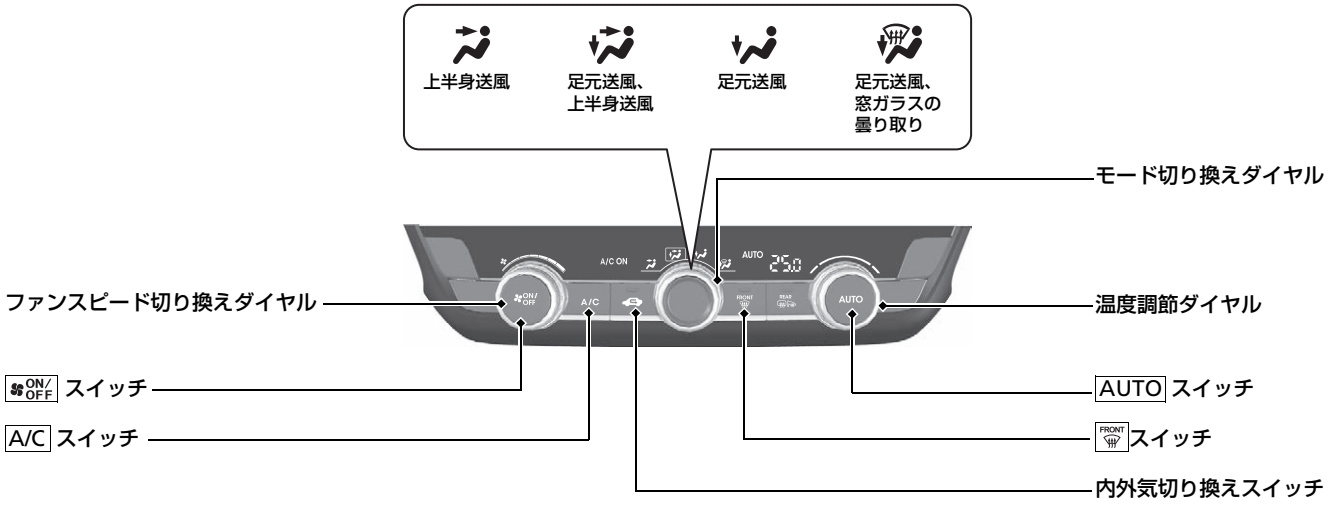
パワーウィンドー P. 142

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。
●パワーウィンドーロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。
●パワーウィンドーロックボタンが ON のとき、 運転席以外のウィンドーが非作動になります。



エアコン P.194

- AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
- 温度調節ダイヤルで温度を調節します。
- ON/OFF を押すと、止まります。
- FRONT を押します。

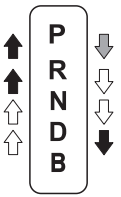


運転 P. 201

トランスミッション P. 212

●シフトレバーを P に入れ、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。P. 205

シフトポジションの選択



ブレーキペダルを右足で踏み、シフトレバーボタンを押して操作

シフトレバーボタンを押さずそのまま操作

シフトレバーボタンを押して操作



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

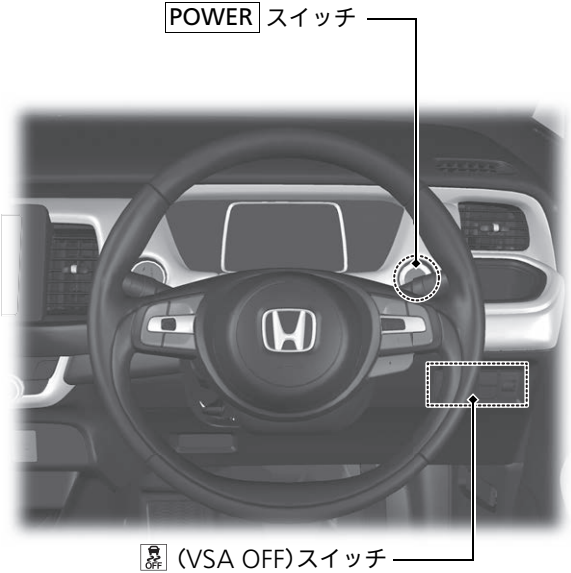
N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行

減速セレクター装備車
- 一時的に減速セレクターを使用するとき
- 減速セレクターを使用するとき（SPORT モード走行時）

B ドライブ(B)
- 長い下り坂や強い回生ブレーキが必要なとき

減速セレクター装備車
- 減速セレクターを使用するとき



減速セレクター P. 215

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さを
ハンドルから手を離さずに、4 段階で変更できます。

SPORT モードが OFF のとき

●ハンドルにあるセレクターを引くと、一時的に減速の強さが変更され、
メーター内に減速の強さを表示します。

P. 215

SPORT モードが ON またはシフトポジションが B のとき

●減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと **M** が表示されます。

P. 215



−のセレクター　＋のセレクター

SPORT モードが
OFF のとき

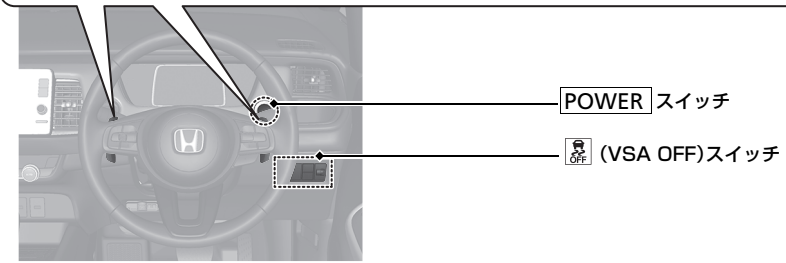


減速の強さ

SPORT モードが ON
またはシフトポジション
が B のとき
M とともに点灯



減速の強さ



CMBS の ON と OFF

P. 237

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS の ON と OFF を切り換えるには、マルチインフォメーションディスプレイの安全支援情報を使用します。

VSA の ON と OFF

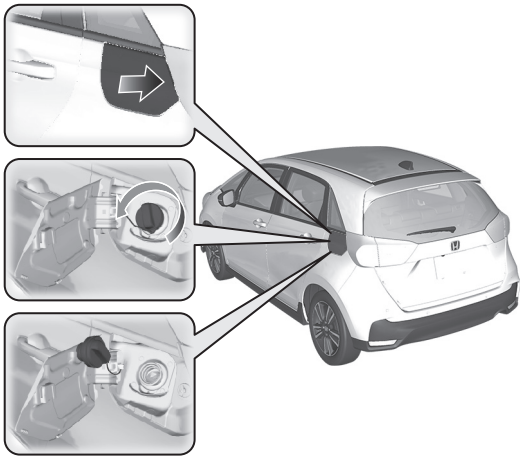
P. 224

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる P. 367

指定燃料： **無鉛レギュラーガソリン** **レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)**
タンク容量：40 リットル

1. 運転席ノブで運転席ドアを解錠する。
   ▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。P. 134
2. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押して、手を離すとリッドが少し浮き上がる。
3. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、キャップを開ける。
4. キャップをホルダーにかける。



Honda SENSING P. 231

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 234

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

踏み間違い衝突軽減システム P. 244

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。フロントおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 255

システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 264

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

急アクセル抑制機能* P. 250

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） P. 271

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

車線維持支援システム（LKAS） P. 293

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

P. 303

トラフィックジャムアシストは、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

先行車発進お知らせ機能

P. 312

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 317

走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム P. 155

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション* P. 227

隣接する車線後方の検知エリアに他の車両がいることを知らせ、運転者の車線変更等の操作の際の負担を軽減するシステムです。

後退出庫サポート* P. 348

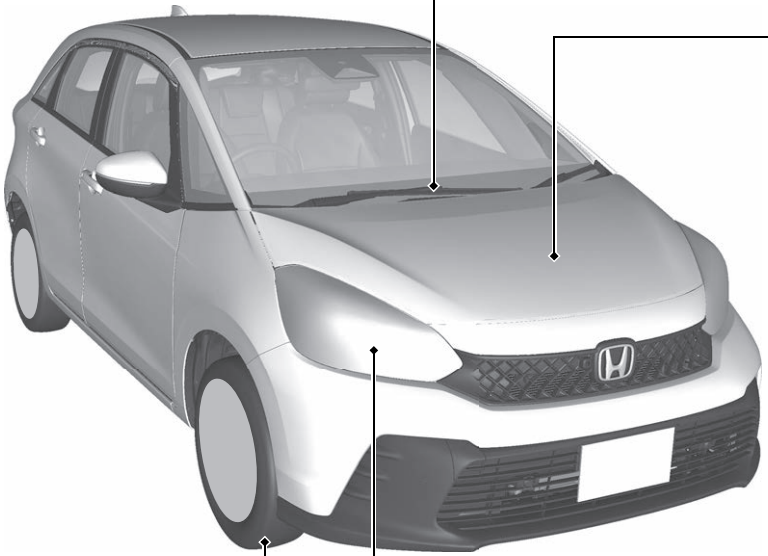
駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー側面にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

パーキングセンサーシステム P. 342

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイとオーディオ / インフォメーション画面* で知らせます。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

メンテナンス P. 370



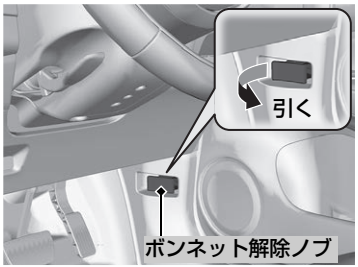
ワイパーブレード P. 385

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

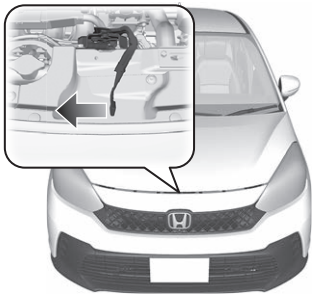
エンジンルーム P. 373, 377, 438

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを左に押してボンネットを開ける。



ライト P. 378, 407

●後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 P. 453

タイヤ P. 390

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

万一の場合には P. 410

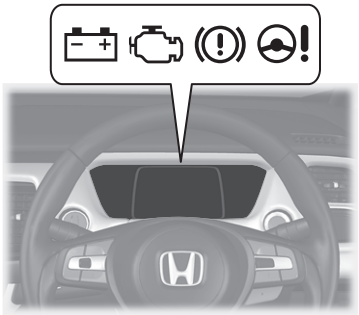
パンクした P. 413

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



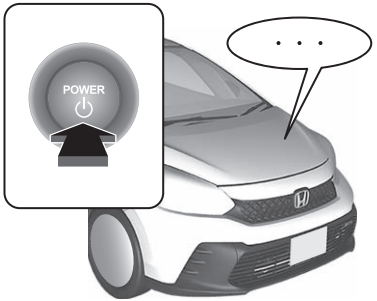
警告灯が点灯した P. 441

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



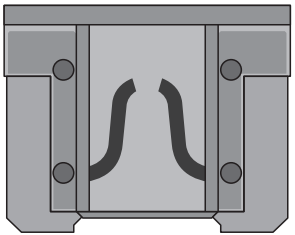
パワーシステムが起動しない P. 430

●12V バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた P. 446

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした P. 438

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい P. 454

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

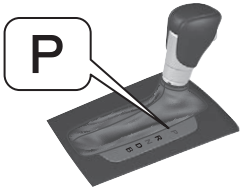
Q パワーモードが OFF モードからアクセサリモードにならない

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、POWER を押してください。



Q パワーモードが OFF モードにならない

A
- シフトレバーが P 以外の位置になっていませんか？



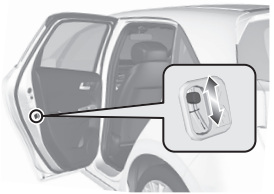
Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ ABS(アンチロックブレーキシステム) P. 336

Q 後席ドアが車内から開けられない

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

施錠するには（降車時オートドアロック機能） P.129

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席、助手席または後席のシートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
- シフトポジションが P 、 N 以外になっていますか？

Q **走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする**

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q **レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？**

A
- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。
各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します(車内の映像や音声は記録しません)。

- 車両の状態(車速など)
- 運転状態(アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況)
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意(リース車、レンタカーの場合は借主の同意)がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

ワイヤレスによるシステムアップデートについて*

この車のアプリケーションは、お客様のオーディオ装置及び接続されたデバイス固有の Honda ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を定期的に Honda のサーバーに送信します。

車両および接続されたデバイス情報、車台番号、モデルタイプ識別番号、ハードウェアおよびソフトウェアの部品番号、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、設定言語、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ(アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス等)

お客様の個人情報
Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト(https://www.honda.co.jp/privacy/hm/)を参照してください。

取扱説明書表示機能について*

取扱説明書を表示するアプリケーションが搭載されているオーディオ装置が装備されている場合は、ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容をHondaの定める任意のタイミングでHondaのサーバーに送信します。

車台番号、オーディオ装置のシリアル番号、設定言語、取扱説明書バージョン、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ(アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス、表示ページおよび検索キーワード等)

お客様の個人情報
Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト(https://www.honda.co.jp/privacy/hm/)を参照してください。

※:取扱説明書表示機能は予告なくサービスを終了する場合があります。サービス終了の際は引き続き Honda ホームページの取扱説明書をご利用ください。
既に取扱説明書をインストールされている車両においては、工場出荷状態に戻さない限り引き続きご利用いただけます。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

目次

安全なドライブ P.32

安全なドライブのために 33　シートベルト 35　エアバッグ 47　お子さまの安全 59
排気ガスの危険性 75

計器の見かた P.76

警告灯と表示灯 77　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 92

各部の操作 P.119

時刻の設定 120　ドアの施錠と解錠 123　テールゲート 138　セキュリティシステム 140
ウィンドーの開閉 142　ハンドルまわりのスイッチ操作 147　ミラー類の調節 162
シートの調節 165　室内装備品 177　エアコン 194

オーディオ P.199

運転 P.201

運転の前に 202　運転操作 205　Honda SENSING 231　ブレーキ操作 327
駐停車操作 340　リアワイドカメラシステム* 352　給油 367

メンテナンス P.370

メンテナンスの前に 371　エンジンルーム内のメンテナンス 373　電球の交換 378
ワイパーブレードラバーの点検と整備 385　タイヤの点検と整備 390　Honda スマートキー 397
エアコンのお手入れ 399　アンテナ 401　清掃 402　アクセサリーと改造 408

万一の場合には P.410

工具、発炎筒 411　パンクしたとき 413　ジャッキの取り扱い 427
パワーシステムが起動しない 430　12V バッテリーがあがったとき 433
シフトレバーが動かない 437　オーバーヒート 438　警告灯の点灯 / 点滅 441
ヒューズ 446　けん引 454　フューエルリッドが解錠できないとき 456
テールゲートが開かないとき 457　緊急時や車両トラブルのとき 458

資料 P.462

仕様 463　オープンソースライセンス 464

本書に記載されているイラストは代表例です。実際の車両と異なる場合があります。
車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ P.32
計器の見かた P.76
各部の操作 P.119
オーディオ P.199
運転 P.201
メンテナンス P.370
万一の場合には P.410
資料 P.462
索引 P.465



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 33
シートベルト
シートベルトについて 35
シートベルトの着用 39
シートベルトの点検 46
エアバッグ
エアバッグの種類 47
SRS エアバッグ 49
サイドエアバッグ 52
サイドカーテンエアバッグ 55
エアバッグシステム警告灯 57
エアバッグのお手入れ 58
お子さまの安全 59
乳幼児の安全 60
大きなお子さまの安全 73
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 75

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➡ **車内での施錠 / 解錠** P.134
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➡ **フロントシート** P.165
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➡ **フロントシート** P.165
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➡ **シートベルトの着用** P.39
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➡ **エアバッグ** P.47
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➡ **お子さまの安全** P.59

安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
➡ **マルチインフォメーションディスプレイ** P.96

次ページに続く

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.212
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

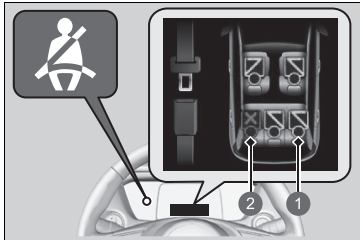
次ページに続く

■シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

■リヤシート

パワーモードをONモードにしたときや、パワーモードがONモードのときに後席ドアを開閉したり、リヤシートベルトを着脱すると、マルチインフォメーションディスプレイに各座席の装着状態が表示されます。

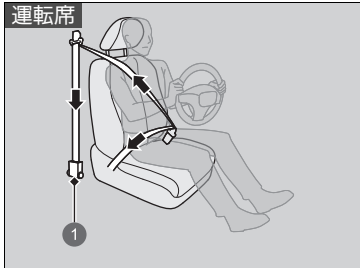
運転中にリヤシートベルトを外すと、ブザーと警告灯でお知らせします。

シートベルトリマインダー

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを R にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートとリヤシート外側2 座席にはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



❶ シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナー

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

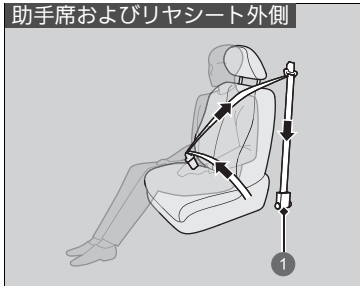
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、両側のシートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

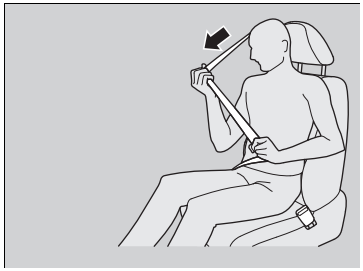
次ページに続く

助手席およびリヤシート外側

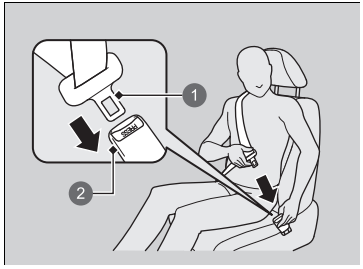


❶ シートベルトプリテンショナー

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

❶ タングプレート
❷ バックル

シートベルトの着用

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

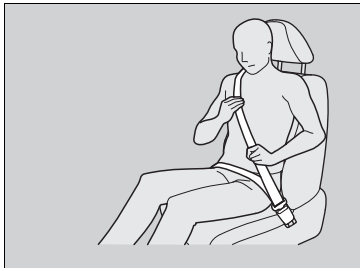
肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

次ページに続く



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

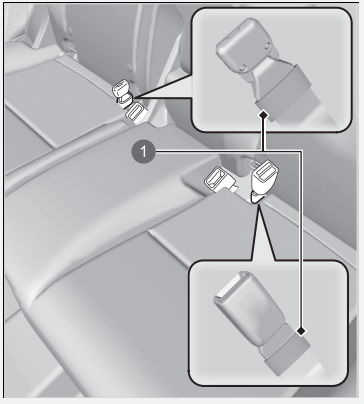
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

シートベルトの着用

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することができない場合、そのシートに着座しないでください。

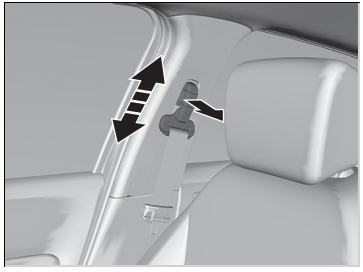
シートベルトについて P.35
シートベルトの点検 P.46

リヤシートのシートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。
シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



❶ゴムバンド

■ショルダーアンカーの高さ調節*



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

ショルダーアンカーの高さ調節*

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

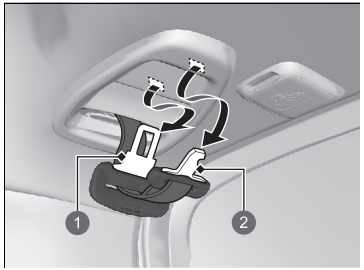
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

次ページに続く

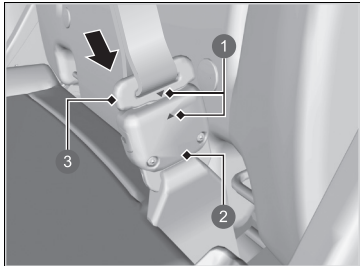
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■分離収納式シートベルト



❶ タングプレート
❷ ラッチプレート

1. 天井の固定部からシートベルトのタングプレートとラッチプレートを外す。

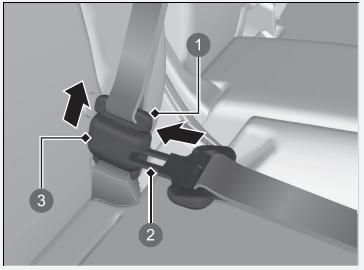


❶ ▲/▼ マーク
❷ バックル
❸ ラッチプレート

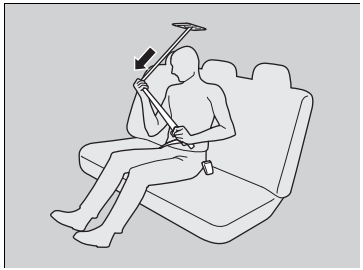
2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。
▶ ラッチプレートの ▼ マークとバックルの ▲ マークを合わせて差し込みます。

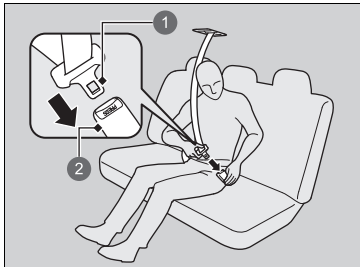
≫分離収納式シートベルト

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。



❶ ラッチプレート
❷ タングプレート
❸ バックル





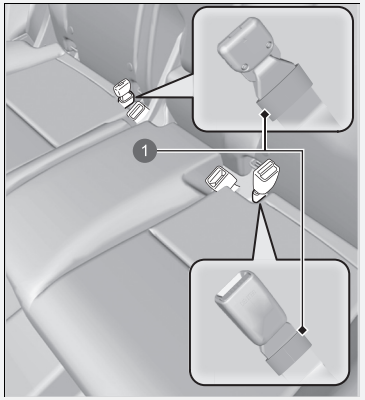
❶ タングプレート
❷ バックル

3. 正しい姿勢でシートにすわる。
4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

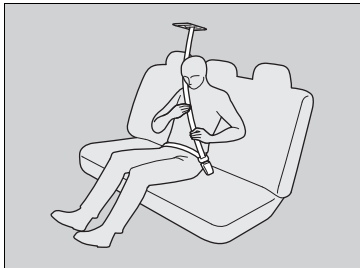
分離収納式シートベルト

シートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。シート操作などのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



❶ゴムバンド

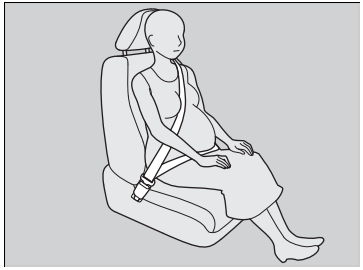
次ページに続く



6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

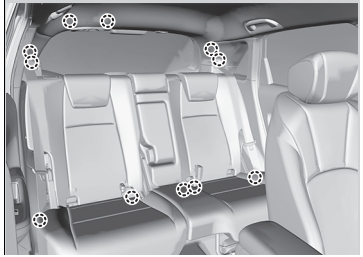
シートベルトのアンカーポイント

フロントシート



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

リヤシート



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

エアバッグの種類

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

次ページに続く

エアバッグの種類

この車にはイベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。
SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。

車両データの記録 P.27

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

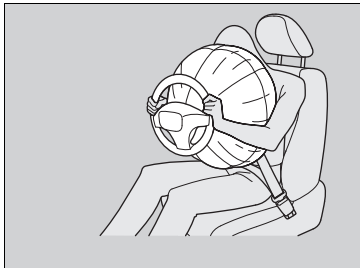
運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

次ページに続く

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

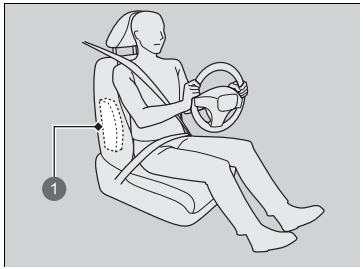
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

❶ 格納場所

▶サイドエアバッグ

⚠注意

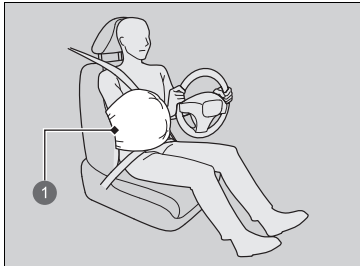
ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

❶ サイドエアバッグ

次ページに続く

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

≫サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

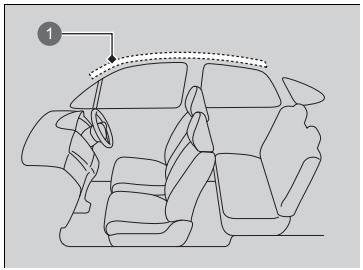
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



❶ サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

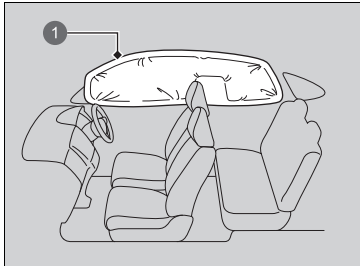
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

次ページに続く

■作動のしくみ



❶ サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➡ **作動条件** P.54

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

➡サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

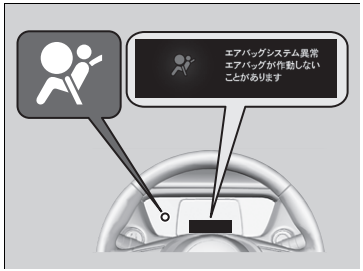
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

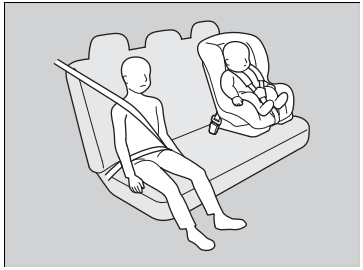
一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

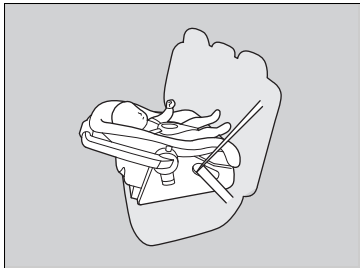
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

- ▶推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。
- ▶設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

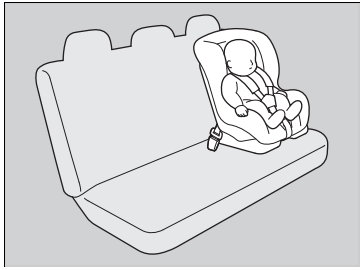
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

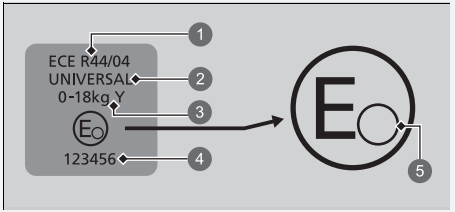
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

≫チャイルドシートの選びかた

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

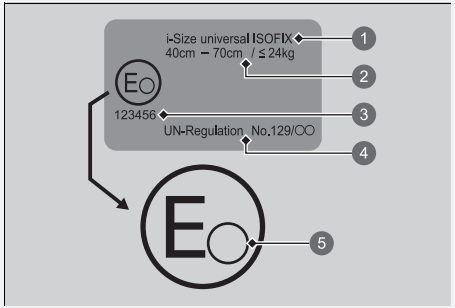
UN R44 認可表示(例)



❶法規番号
❷カテゴリー
❸体重範囲
❹認可番号
❺国番号

チャイルドシートの選びかた

UN R129 認可表示(例)



❶ カテゴリー
❷ 身長範囲 / 体重範囲
❸ 認可番号
❹ 法規番号
❺ 国番号

次ページに続く

■シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサルチャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1 ：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。
※2 ：UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、ヘッドレストは取り外す事。取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。また、ジュニアシートを取り外し大人が着座する場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。取り付け方についてはヘッドレストのページ参照
➔ ヘッドレストの取り外しと取り付け P.175
※3 ：後席中央席にチャイルドシートを取り付けると片側席のシートベルトが使用できなくなります。
※4 ：後席左席にチャイルドシートを取り付けると中央席のシートベルトが使用できなくなります。
※5 ：後席右席にチャイルドシートを取り付けると中央席のシートベルトが使用できなくなる可能性があります。
※6 ：後席右席に ISOFIX チャイルドシートを取り付けると中央席のシートベルトが使用できなくなる可能性があります。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
但し、中央席は除く。

次ページに続く

チャイルドシート装着に関する情報

シート位置番号	シートの位置			
	①	②	③	④
	助手席※1	後席（左側）	後席（中央）	後席（右側）
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向き搭載のみ	有※4	有※3	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向き搭載のみ	有※4	有※3	有※5
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	無	R3※4	無	R3※6
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	無	F3※4	無	F3※6
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	B3※2	B3※4	B3※3	B3※5

▶シート位置別チャイルドシート情報

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	ー
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

※1 ：チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。
※2 ：UN R129 の認可を受けた前向きジュニアシートを取り付ける場合、ヘッドレストは取り外す事。取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。また、ジュニアシートを取り外し大人が着座する場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。取り付け方についてはヘッドレストのページ参照
➔ ヘッドレストの取り外しと取り付け P.175
※3 ：後席中央席にチャイルドシートを取り付けると片側席のシートベルトが使用できなくなります。
※4 ：後席左席にチャイルドシートを取り付けると中央席のシートベルトが使用できなくなります。
※5 ：後席右席にチャイルドシートを取り付けると中央席のシートベルトが使用できなくなる可能性があります。
※6 ：後席右席に ISOFIX チャイルドシートを取り付けると中央席のシートベルトが使用できなくなる可能性があります。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
但し、中央席は除く。

次ページに続く

■推奨チャイルドシート

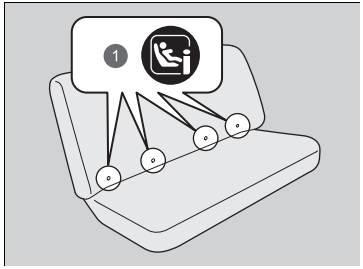
適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size（後向き）
身長 71cm 以上 かつ月齢 15 か月以上ー身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size（前向き）
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

▶推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

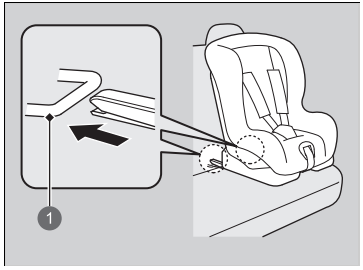
■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



❶ マーク

1. マークの下にある下部取付金具を確認する。



❶ 下部取付金具

2. ノブを押しながら、ヘッドレストを一番下まで下げる。

3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

▶チャイルドシートと座席背もたれのすき間ができるだけ小さくなるように設置してください。

次ページに続く

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

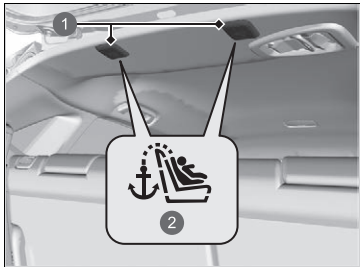
⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

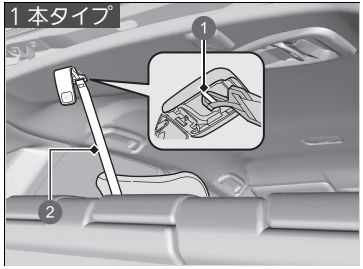
チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



❶ カバー
❷ トップテザー取付金具シンボル

1 本タイプ



❶ トップテザー取付金具
❷ トップテザーストラップ

トップテザーストラップ付きチャイルドシート

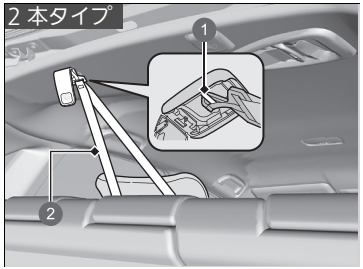
4. カバーを開ける。
5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

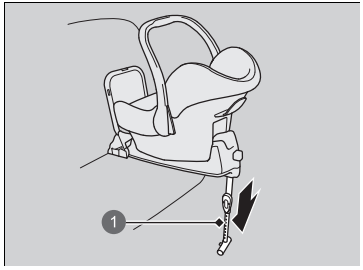
⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

2 本タイプ



❶ トップテザー取付金具
❷ トップテザーストラップ



❶ サポートレッグ

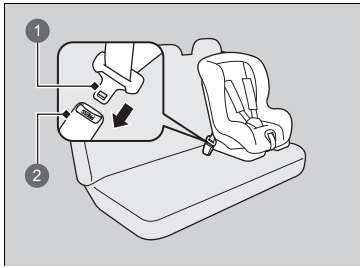
サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。
▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

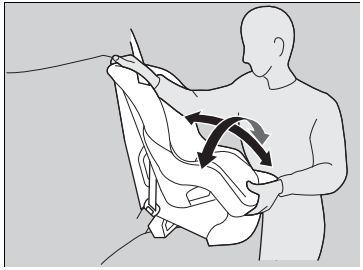
次ページに続く

■シートベルトでの取り付け



❶ タングプレート
❷ バックル

1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

≫シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

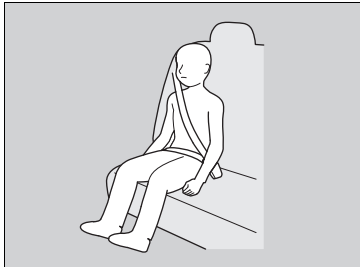
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

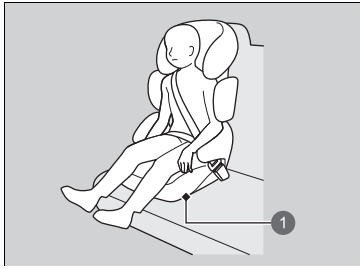
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

❶ ジュニアシート

次ページに続く

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

➔ **やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合** P.74

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

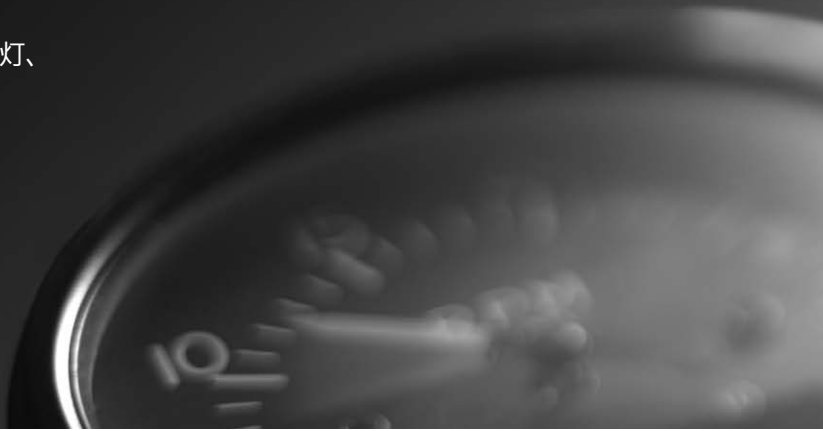
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯
警告灯 79
表示灯 87
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ
メーター..... 92
マルチインフォメーションディスプレイ..96

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。
点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従い Honda 販売店に連絡するなどして対処してください。

※1 ブレーキ警告灯(レッド) P.79
※1 ブレーキシステム警告灯(オレンジ) P.80
※1 パワーシステム警告灯 P.80
※1 PGM-FI 警告灯 P.80
※1 12V バッテリー充電警告灯 P.80
シートベルト非着用警告灯 P.81
トランスミッション警告灯 P.81
燃料残量警告灯 P.81
※1 ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 P.81

※1 エアバッグシステム警告灯 P.82
※1 VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯 P.82
※1 VSA OFF 警告灯 P.82
※1 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.83
パーキングセンサー警告灯 P.83
方向指示器/非常点滅表示灯 P.87
ライト点灯表示灯 P.87
ハイビーム表示灯 P.87
※1 オートハイビーム表示灯 P.87

急アクセル抑制機能表示灯* P.87
シフトポジション表示灯 P.88
減速セレクター表示灯* P.89
※2 ※3 ECON モード表示灯 P.89
NORMAL モード表示灯* P.89
SPORT モード表示灯* P.89

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。
※2 ：ドライブモードスイッチ非装備車
※3 ：ドライブモードスイッチ装備車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

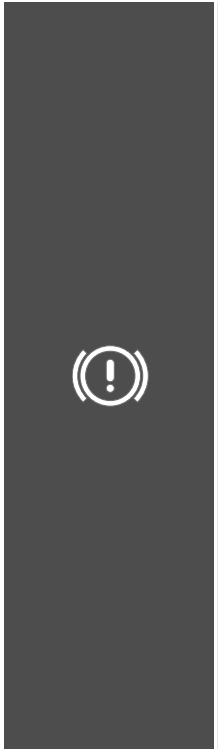
次ページに続く

BRAKE HOLD ※1	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	P.89
Ⓐ ※1	オートマチックブレーキホールド表示灯	P.89
ⓘ	インフォメーション表示灯	P.90
READY	READY 表示灯	P.90
EV ※1	EV 表示灯	P.90
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	P.91
※1	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	P.83
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.90
※1	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	P.83
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(グリーン)	P.90
※1	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	P.84
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	P.91
※1	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	P.84
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	P.91
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	P.84
※1	安全支援情報警告灯(オレンジ)	P.85
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	P.91
○	イモビライザーシステム表示灯	P.88
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯*	P.88

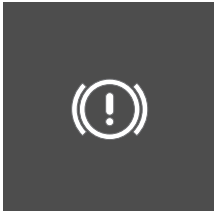
※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パーキングブレーキをかけると点灯	• パワーモードがアクセサリーモードまたは　OFF モードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードを OFF モードにするとしばらく点灯した後、消灯
		• ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 **➔ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.443
		• ブレーキシステムが異常のときに点灯	• ABS　警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。 **➔ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.443
		• 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• パーキングブレーキが故障して作動しません。 **➔ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.443

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	パワーシステム警告灯	• パワーシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムまたはパワーシステムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.442
	12V バッテリー充電警告灯	• 充電システムに異常があるときに点灯	• 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.442

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードが ON モードのときに、リヤシートのシートベルトを外すとしばらく点灯 • 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.36
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットルになったときです。
		• 燃料計に異常があるときは点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABSは作動しません。 ➔ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.336

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	エアバッグシステム警告灯	• エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• VSA が作動しているときは点滅	—
		• VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、ブレーキアシストシステム、電動サーボブレーキシステム、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **➡ VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.223
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	**➡ VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.223
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.444
	パーキングセンサー警告灯	• パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅	➡ **パーキングセンサーシステム** P.342
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	• 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	• CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➔ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.85
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➔ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.85
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	• 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	➔ **路外逸脱抑制機能** P.255

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、CMBSが異常のときに点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
		• パーキングセンサーが異常のときに点灯	• パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 **パーキングセンサーシステム** P.342
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。

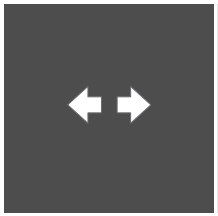
*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。
		ブラインドスポットインフォメーション装備車 • ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーが汚れると点灯 • ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーの温度が高温になると点灯	• 安全な場所に停車してブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサー周辺の汚れをふき取ってください。 • 温度が下がるとシステムは復帰します。 ➡ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.227
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• バンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	• 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➡ **ソナーセンサー** P.325 ➡ **踏み間違い衝突軽減システム** P.244

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➡ **電球の交換** P.378, 379
		• 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	➡ **エマージェンシーストップシグナル** P.339
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➡ **ライトの使い方** P.151
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯	—
	オートハイビーム表示灯	• オートハイビームの作動条件がそろったときに点灯	➡ **オートハイビーム** P.155
	急アクセル抑制機能表示灯*	• 急アクセル抑制機能が ON のときに点灯	• マルチインフォメーションディスプレイのメッセージを消すには、⌂スイッチを押してください。 ➡ **急アクセル抑制機能*** P.250

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	イモビライザーシステム表示灯	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯*	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ セキュリティアラームシステム* P.140
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	➔ シフト操作 P.212

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	減速セレクター表示灯*	• 減速セレクター作動時に減速の強さを表示 • 減速セレクターを操作しても減速の強さが変わらないと点滅 • SPORT モードのときに減速セレクターを作動させると M が点灯	➔ **減速セレクター*** P.215
	ECON モード表示灯	ドライブモードスイッチ非装備車 • ECON モードが ON のときに点灯 ドライブモードスイッチ装備車 • ドライブモードがECON モードのときに点灯	➔ **ECON スイッチ*** P.218 ➔ **ドライブモードスイッチ*** P.220
	NORMAL モード表示灯*	• ドライブモードが NORMAL モードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ*** P.220
	SPORT モード表示灯*	• ドライブモードがSPORTモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ*** P.220
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.332
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• オートマチックブレーキホールドが作動しているときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.332

※1 ：ドライブモードスイッチ非装備車
※2 ：ドライブモードスイッチ装備車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージは、警告が解除されるか、HOMEスイッチを押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにHOMEを押し、「警告メッセージ」を選択すると、メッセージを再表示させることができます。 ➡ **表示の切り換えかた** P.96
READY	READY 表示灯	• 走行の準備が完了すると点灯	➡ **パワーシステムの起動** P.205
	EV 表示灯	• モーターだけでの走行になると点灯	—
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	• スイッチを押すとホワイトで点灯 • RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを押し、渋滞追従機能付 ACC が作動するとグリーンで点灯	➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.271
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(グリーン)	• LKAS スイッチを押すと点灯	➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.293 ➡ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.303

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	• クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 • RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを押し、クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	➔ **クルーズモードへの切換え** P.288
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	• CMBS をOFF にしているときに点灯	➔ **安全支援情報** P.106
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	• 路外逸脱抑制機能を OFF にしているときに点灯	➔ **安全支援情報** P.106
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS、パーキングセンサー警報が ON のときにグリーンで点灯 • いずれかがONのときにグリーン / グレーで点灯 • すべてが OFF のときにグレーで点灯	➔ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.227 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.234 ➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.244 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.264 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.255 ➔ **パーキングセンサーシステム** P.342

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

≫燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

少量給油(約5L以下)を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合があります。

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

オドメーター

マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。

➔ **表示の切り換えかた** P.96

次ページに続く

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定を使用します。

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

補正するには、オーディオ / インフォメーション画面の車両設定を使用します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。
認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

➔ **標識認識機能** P.317

▶外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンルームの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。
パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■時計

時刻を表示します。

■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) 表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) の現在の状態を表示します。

➔ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.271
➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.293
➔ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.303

≫時計

時計表示(24h/12h)* を変えたり時刻調整* をすることができます。

➔ **時刻の設定** P.120

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

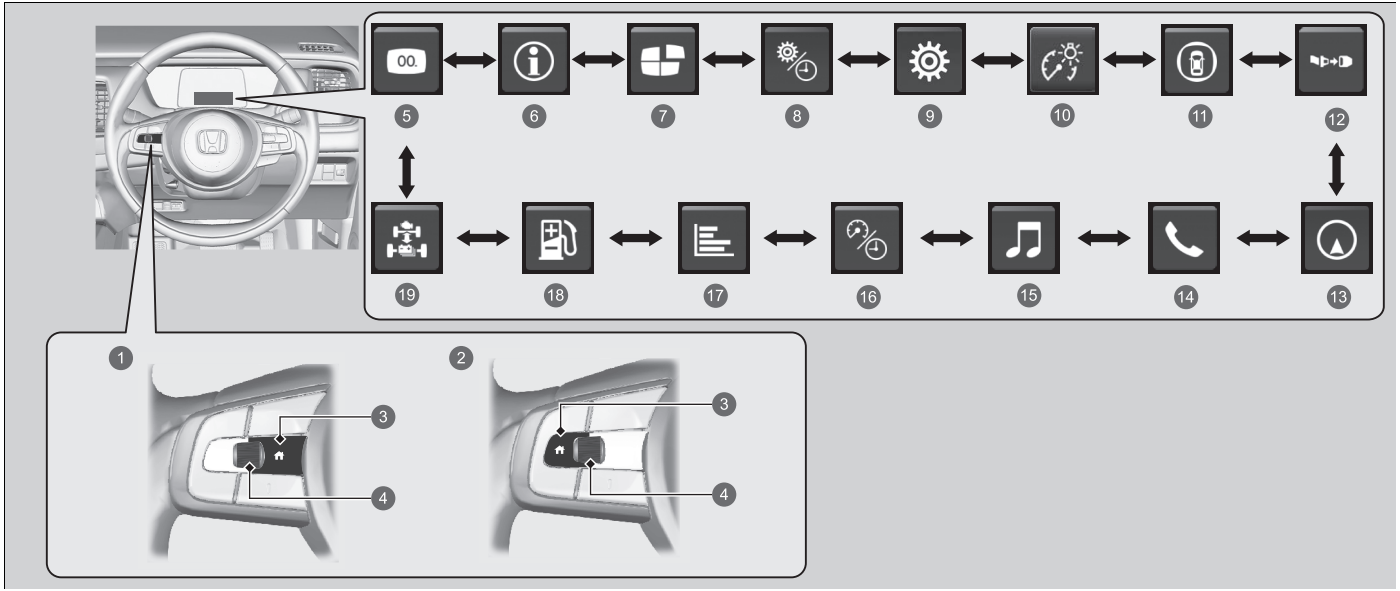
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」または、「エンジン冷却水高温」が表示した場合は、下記を参照してください。

➔「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された P.441
➔ オーバーヒート P.438

■表示の切り換えかた

スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセレクターホイールを押して決定してください。



❶ フロントコンソール USB ジャック装備車
❷ フロントコンソール USB ジャック非装備車
❸ スイッチ
❹ レフトセレクターホイール
❺ シンプル P.98
❻ 警告メッセージ P.110
❼ カスタマイズ表示 P.110
❽ 時計 / 車両設定* P.111
❾ 車両設定* P.111
❿ 明るさ設定 P.109
⓫ 安全支援情報 P.106
⓬ 全席シートベルト P.105
⓭ ナビゲーション* P.105
⓮ 電話* P.105
⓯ オーディオ* P.105
⓰ 車速 / 経過時間 P.103
⓱ 燃費履歴 P.102
⓲ 航続距離 / 燃費 P.100
S パワーフロー P.99

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

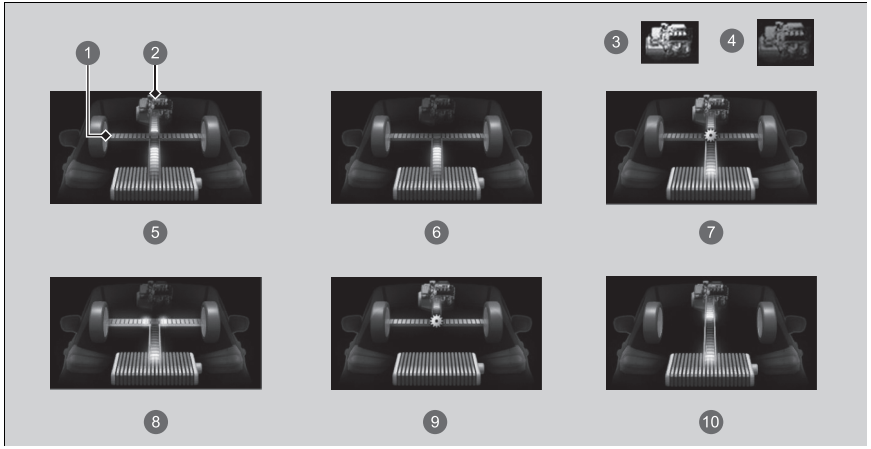
次ページに続く

■シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

■パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。

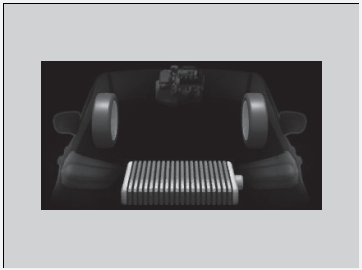


❶ パワーフロー表示
❷ エンジン作動表示
❸ 作動中
❹ 停止中
❺ **ハイブリッド走行**：エンジン作動とモーターアシスト(ブルー)
❻ **EV 走行**：モーターのみ作動(ブルー)
❼ **エンジン走行**：エンジン作動し高電圧バッテリーへ充電中(ブルー/ グリーン)
❽ **回生**：高電圧バッテリーへ充電中(グリーン)
❾ エンジンのみ作動(ブルー)
❿ エンジン作動し高電圧バッテリーへ充電中(グリーン)

次ページに続く

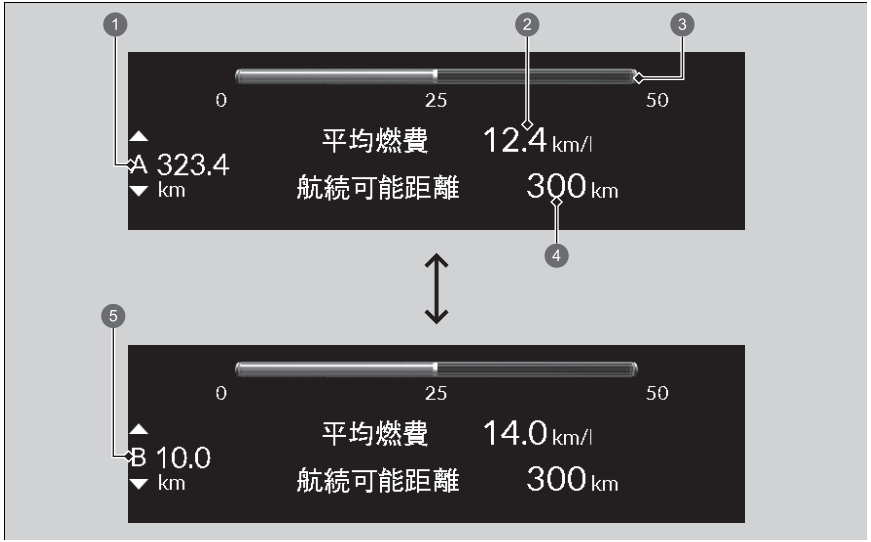
パワーフロー/ エンジン作動表示

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



■航続距離 / 燃費 / トリップメーター

レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



❶ トリップメーターA
❷ 平均燃費
❸ 瞬間燃費
❹ 航続可能距離
❺ トリップメーターB

■トリップメーター
リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには
リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。
また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

■平均燃費表示
トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

■瞬間燃費表示
瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
Honda CONNECT ディスプレイ非装備車
➔ **時計*/ 車両設定** P.111
Honda CONNECT ディスプレイ装備車
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーと燃料の残量、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■燃費履歴

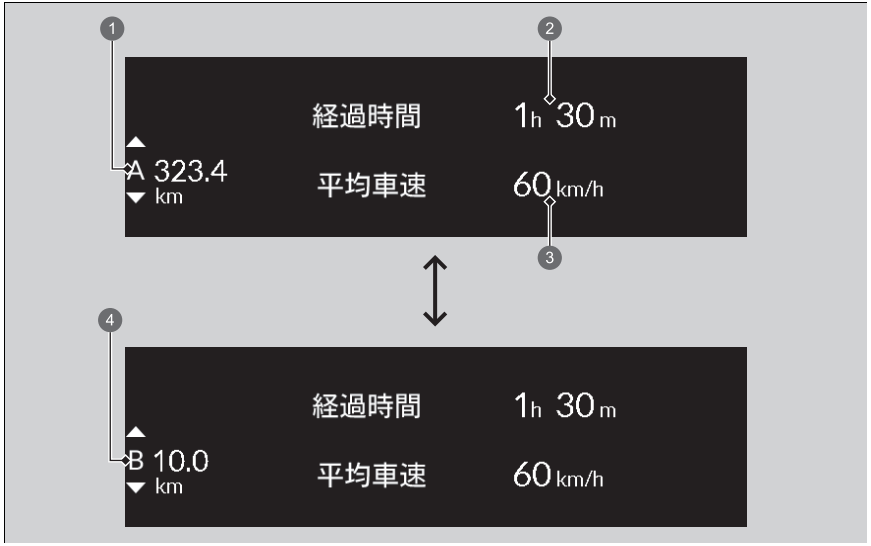
走行時の平均燃費履歴を過去 3 回分表示します。
パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

≫航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■車速 / 経過時間 / トリップメーター

レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



❶ トリップメーターA
❷ 経過時間
❸ 平均車速
❹ トリップメーターB

次ページに続く

■トリップメーター

➔ **トリップメーター** P.101

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■オーディオ*

各種音楽メディアの表示を行います。

■電話*

ハンズフリー電話の表示を行います。

■ナビゲーション*

■コンパス

コンパスが表示されます。

■交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

■全席シートベルト

全席シートベルトの使用状況を表示します。

➔ **シートベルトリマインダー** P.36

ナビゲーション*

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、パーキングセンサー警報の作動状態を表示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

▶安全支援情報

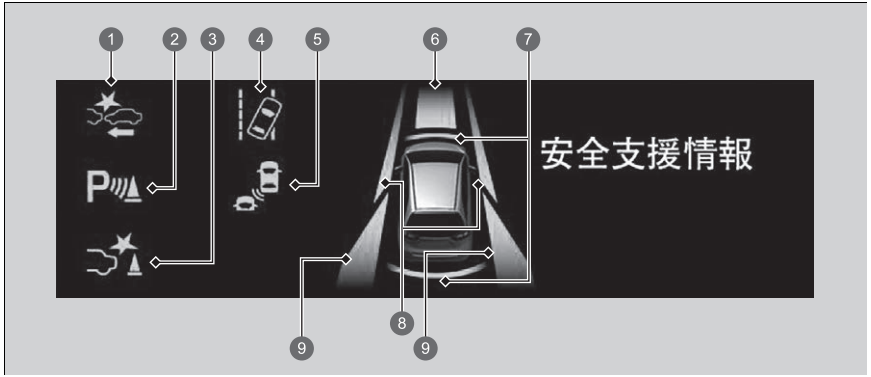
オレンジで表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセレクターホイールを押してON/OFF を切り換えます。

➔ **路外逸脱抑制機能** P.255
➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.234
➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.244
➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.264
➔ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.227
➔ **パーキングセンサーシステム** P.342

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ 衝突軽減ブレーキアイコン
❷ パーキングセンサー警報アイコン
❸ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン
❹ 路外逸脱抑制機能アイコン
❺ ブラインドスポットインフォメーションアイコン*
❻ 衝突軽減ブレーキ作動状態
❼ パーキングセンサー警報作動状態 / 踏み間違い衝突軽減システム作動状態
❽ 路外逸脱抑制機能作動状態
❾ ブラインドスポットインフォメーション作動状態*

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

安全支援情報

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

➔ **路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)** P.84
➔ **路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯** P.84
➔ **路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)** P.91
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)** P.84
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)** P.91
➔ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.85
➔ **安全支援情報表示灯(グリーン/グレー)** P.91

踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

安全支援情報

パーキングセンサー警報アイコンがグリーンのときでも「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後退時のパーキングセンサー警報は作動しません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

時計*/ 車両設定 P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。

レフトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。
明るくする：レフトセレクターホイールを上に回す
暗くする：レフトセレクターホイールを下に回す

レフトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

明るさ設定

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。
- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

次ページに続く

■カスタマイズ表示

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1. 「カスタマイズ表示」の画面が表示されますので、レフトセレクターホイールを回し「表示 / 非表示」を選択し、押して決定する。
2. レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。



3. レフトセレクターホイールを押して決定する。
   ▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

■警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

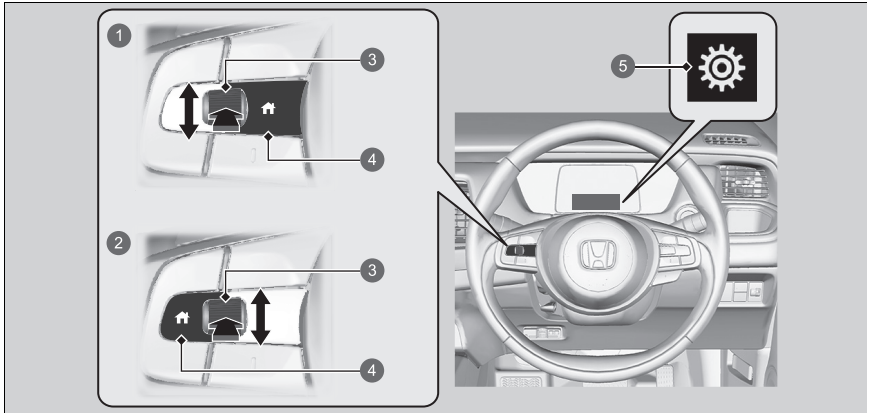
»カスタマイズ表示

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

■時計*/ 車両設定

パワーモードがONモードでシフトポジションがPのときに、スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回して、⚙を選択します。レフトセレクターホイールを押したあと、レフトセレクターホイールを回すと、設定を変更することのできる「グループ」画面に切り換わります。



❶ フロントコンソールUSBジャック装備車
❷ フロントコンソールUSBジャック非装備車
❸ レフトセレクターホイール
回す：選択する
押す：決定する
❹ スイッチ
❺ マルチインフォメーションディスプレイ

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

≫時計*/ 車両設定
➲ **設定の例** P.114

■設定項目

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせて設定を変更することができます。

項目		選択できる設定内容
時計設定*	時刻調整	時間(00 ～ 12※/00 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	12h/24h	24h、12h※、非表示
運転支援システム設定	CMBS 警報距離	遠め、標準※、近め
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ、アシストタイミング早め
	レーンキープアシストシステム制御解除警報音	ON、OFF※
	ブラインドスポットインフォメーション設定*	警報音 / 警報表示※、警報表示
	標識認識機能表示	ON※、OFF
	標識認識機能速度超過お知らせ	注意喚起する※、注意喚起しない
	標識認識機能速度超過量	+0km/h※、+5km/h、+10km/h、+15km/h
	リアパーキングセンサー警報設定	ON※、OFF
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※
	アラーム音量	大、中※、小
	交差点案内表示*	ON※、OFF
	リアシートリマインダー	ON※、OFF
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

項目		選択できる設定内容
ライティング設定	オートハイビーム	ON※、OFF
	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	デイタイムランニングライト	ON※、OFF
	ワンタッチターンシグナル	ON※、OFF
ドア設定	降車時オートドアロック	作動、非作動※
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
初期化設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

次ページに続く

■設定の例

例えば「TRIP A　自動リセットタイミング」を「満タン給油時」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A　自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. [⌂]スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回して、⚙が表示されたら、レフトセレクターホイールを押す。



2. レフトセレクターホイールを回す。
▶「グループ」画面に切り換わりますので、レフトセレクターホイールを回し、「メーター設定」を選択します。

▶▶時計*/ 車両設定

操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにする
- シフトポジションを[P]以外にする

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



3. レフトセレクターホイールを押す。
▶「メニュー」画面に切り換わります。



4. レフトセレクターホイールを回し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、レフトセレクターホイールを押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「満タン給油時」、「IGN OFF 時」、「手動のみ」が選択できます。



5. 「満タン給油時」が選択されていることを確認し、レフトセレクターホイールを押す。
▶「“満タン給油時” に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。

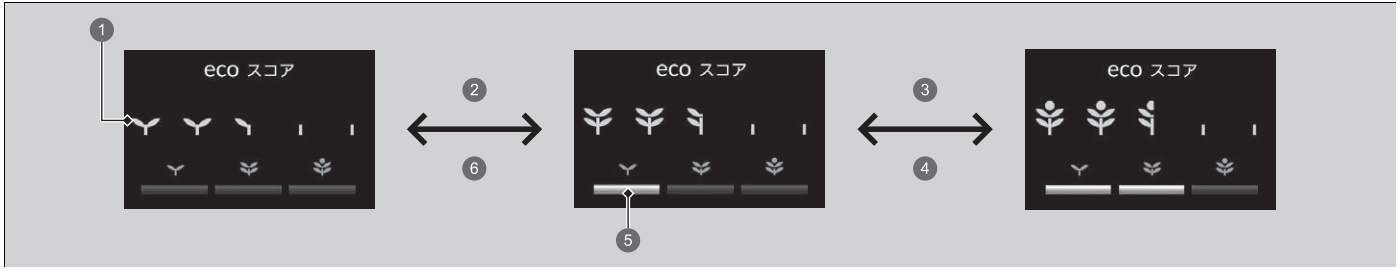
次ページに続く



6. 「戻る」が表示されたら、レフトセレクターホイールを押す。
7. **手順6**の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

■ ECO スコア

パワーモードを OFF モードにすると、数秒表示されます。
1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。



❶ ECO スコア
❷ 2nd ステージへランクアップ
❸ 3rd ステージへランクアップ
❹ 2nd ステージへランクダウン
❺ 生涯得点(ライフタイムポイント)
❻ 1st ステージへランクダウン

次ページに続く

■ECO スコアのリセット

ドライブモードスイッチ非装備車

1. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECONモードがONのときは、ECONスイッチを押してECONモードをOFFにする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
▶ 手順 4 ～ 6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
7. パワーモードを OFF モードにする。

ドライブモードスイッチ装備車

1. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECON モードを選択しているときは、ドライブモードスイッチを押して NORMAL モードを選択する。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
▶ 手順 4 ～ 6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
6. ドライブモードスイッチを押して ECON モードを選択して、次に NORMAL モードを選択する。
7. パワーモードを OFF モードにする。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



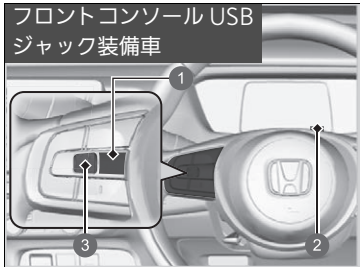
時刻の設定 120
ドアの施錠と解錠
キー 123
車外でのドアの施錠 / 解錠 126
車内での施錠 / 解錠 134
チャイルドプルーフ 136
テールゲート 138
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 140
セキュリティアラームシステム* 140
ウィンドーの開閉 142
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 147
方向指示器(ウィンカースイッチ) 150
ライトの使い方 151
ヘッドライトレベリングダイヤル 154
オートハイビーム 155
ワイパー/ ウォッシャー 158
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ 160
フロントガラス熱線スイッチ* 160
ハンドルの調節 161
ミラー類の調節 162
シートの調節 165
ヘッドレスト 173
アームレスト* 176
室内装備品 177
エアコン
エアコンの吹き出し口 194
オートエアコンの使いかた 195
オートエアコンのセンサー 198

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻を合わせる*

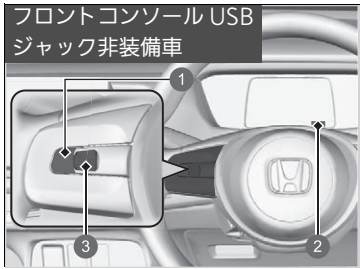
時計はメーターに表示されます。

フロントコンソールUSBジャック装備車



❶ [⌂] スイッチ
❷ 時計
❸ レフトセレクターホイール

フロントコンソールUSBジャック非装備車



❶ [⌂] スイッチ
❷ 時計
❸ レフトセレクターホイール

パワーモードがONモードでシフトポジションが [P] のときに、[⌂]スイッチを押します。
レフトセレクターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

»時刻の設定

[⌂]スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイに時計設定が無い場合は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

✣：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■時刻の調整



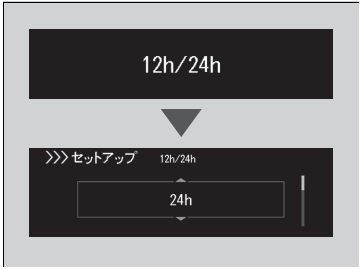
1. レフトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。



3. レフトセレクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
▶「時」の調整ができます。
4. レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「分」が設定されます。

次ページに続く

■時間表示の選択

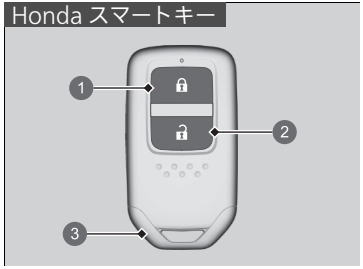


1. レフトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
3. レフトセレクターホイールで「12h/24h」を表示させ、決定する。
▶時計表示設定ができます。
4. レフトセレクターホイールで希望の項目を表示させ、決定する。
▶「12h」または「24h」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り替わります。
▶「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

キー

この車には、以下のキーが付いています。

Honda スマートキー



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン
❸ 内蔵キー

キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

➡ **イモビライザーシステム** P.140

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

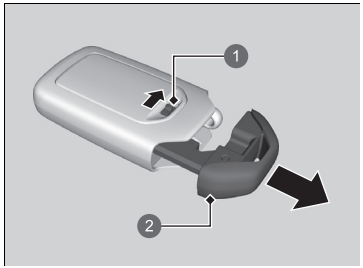
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■内蔵キー



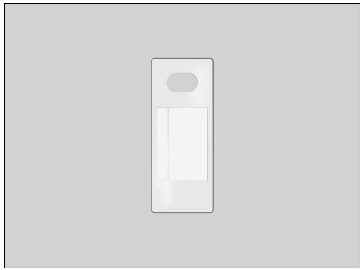
❶ レバー
❷ 内蔵キー

Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

≫内蔵キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.431

≫キーナンバータグ

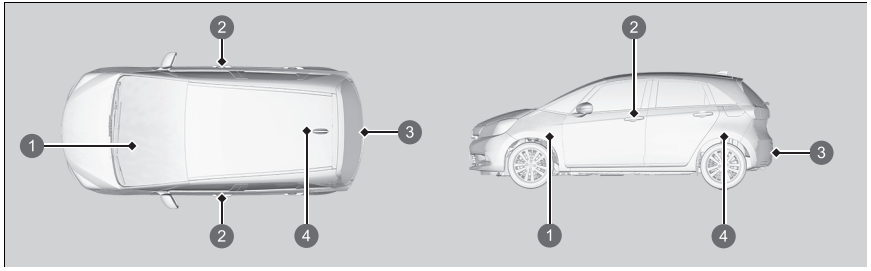
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠/解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Hondaスマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



❶ 車室内発信機(インストルメントパネル内)
❷ 車室外発信機(前席アウターハンドル内)
❸ 車室外発信機(リヤバンパー内)
❹ 車室内発信機(リヤシート後方下)

Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

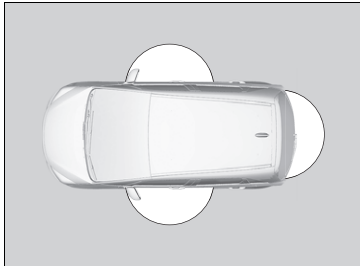
植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約3秒長押しするとインジケーターが2回点滅し、電波の受信が停止します。
Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ドアロックセンサー、ドアハンドル、テールゲートハンドルを操作することでドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠や解錠ができます。

施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲート解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。

約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドア、テールゲート施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

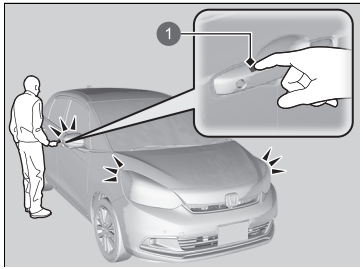
➔ **室内灯** P.177

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

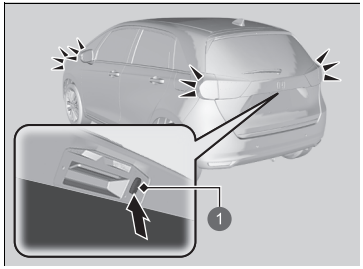
Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

ドア、テールゲートが開いているときは、Honda スマートキーシステムで施錠できません。



❶ ドアロックセンサー



❶ ロックボタン

■施錠するには

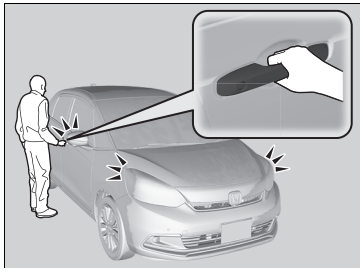
運転席ドア、助手席ドアのドアロックセンサーに触れる、またはテールゲートのロックボタンを押します。

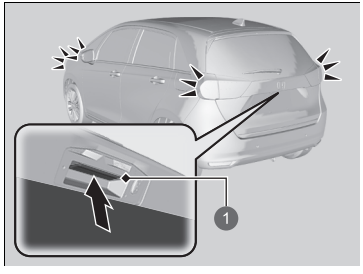
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもドアロックセンサーやドアハンドル、テールゲートハンドル、ロックボタンで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアロックセンサーやドアハンドルでの施錠 / 解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはテールゲートハンドルを押した直後はドア、テールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、テールゲートハンドルを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドル、テールゲートハンドルより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

次ページに続く





❶ テールゲートハンドル

■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

Hondaスマートキーシステムでの施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、音量を変えたり、ブザーが鳴らないように設定を変更することができます。

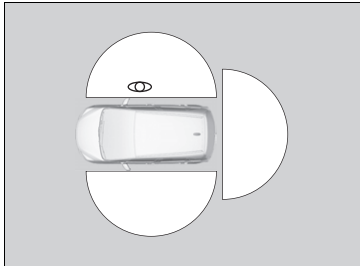
Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

時計*/ 車両設定 P.111

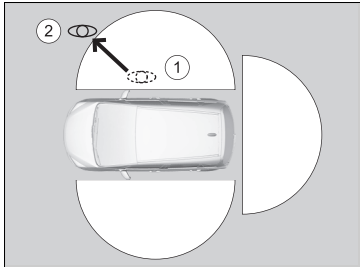
Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



オートロック機能の作動範囲



■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドア、テールゲート、フューエルリッドが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは設定を変更してください。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。

- Honda スマートキーが車内にあるとき
  ▶ 警告ブザーは鳴りません
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
  ▶ 警告ブザーが鳴ります

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチ* または運転席ドアのノブを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。
- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには（降車時オートドアロック機能）

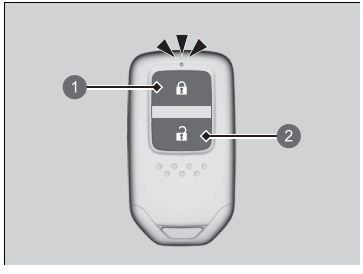
次のような場合は、オートロック機能は作動しません。
- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。
- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン

■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目：

▶非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

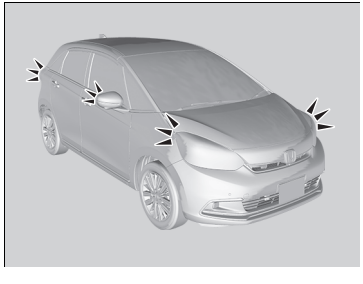
2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内)：

▶アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。



✣：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。
キーレスリロック時間の設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

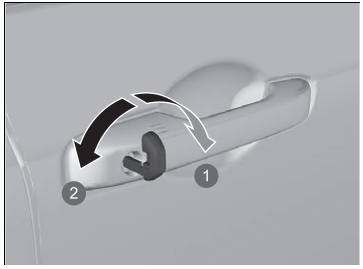
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

➡ **電池交換のしかた** P.397

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

➡ **電池交換のしかた** P.397



キーを確実に差し込んで、回します。

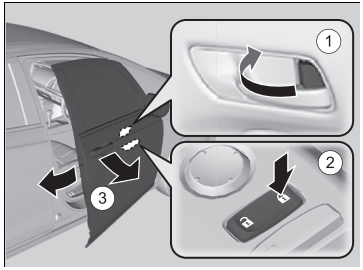
❶ 施錠
❷ 解錠

≫キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアとテールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(①)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(②)* を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(③)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じこみ防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

キーを使わない施錠

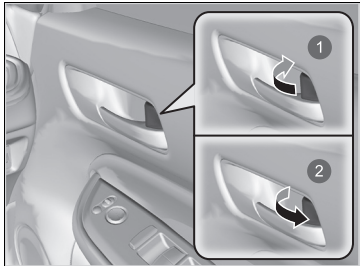
運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



❶ 施錠
❷ 解錠

■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠

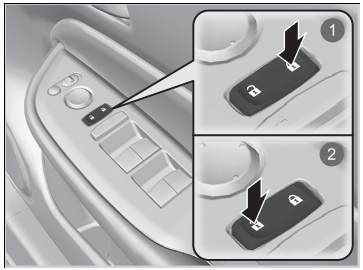


運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠*



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

❶ 施錠
❷ 解錠

≫マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠*

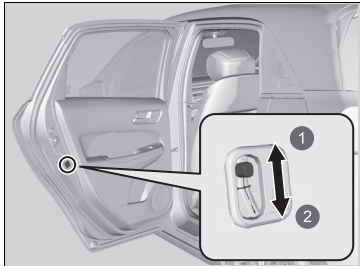
運転席のマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

❶ 解錠
❷ 施錠

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
  ➔ **一酸化炭素について** P.75

≫テールゲート開閉時の注意

⚠警告

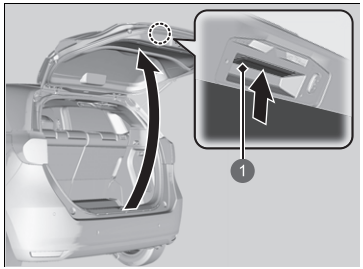
テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

テールゲートを開ける



❶ テールゲートハンドル

解錠されているときに、テールゲートハンドルを押して引き上げます。

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートハンドルを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠
P.126

テールゲートを開ける

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートハンドルでテールゲートを解錠することができます。

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとパワーシステムの起動が出来ないシステムです。

POWER を押すときは、下記の点に注意してください。
- POWER スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム*

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには
Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム*

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

セキュリティアラームシステム*

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

≫パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

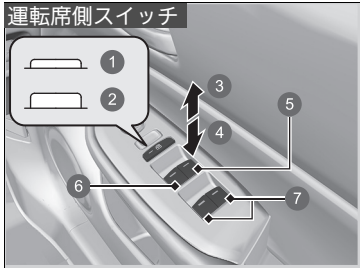
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



❶ パワーウィンドーロックボタン ON
❷ パワーウィンドーロックボタン OFF
❸ ウィンドーを閉める
❹ ウィンドーを開ける
❺ 運転席用スイッチ
❻ 助手席用スイッチ*
❼ 後席用スイッチ*

■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

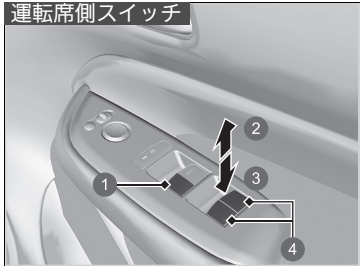
開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉*

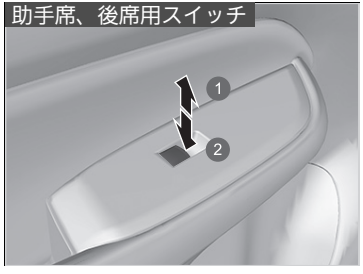
運転席側スイッチ



開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。

❶ 助手席用スイッチ
❷ ウィンドーを閉める
❸ ウィンドーを開ける
❹ 後席用スイッチ

助手席、後席用スイッチ



❶ ウィンドーを閉める
❷ ウィンドーを開ける

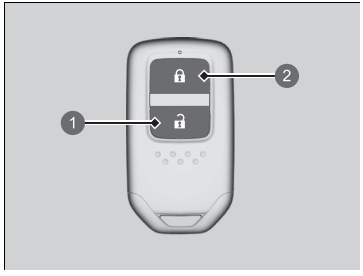
パワーウィンドーの開閉

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉*



❶ 解錠ボタン
❷ 施錠ボタン

キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

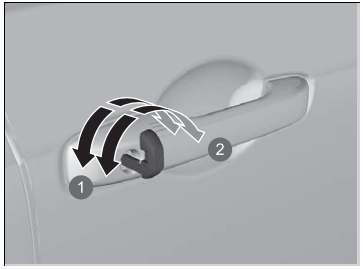
開けるとき：キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける
閉めるとき：キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を放すことで、ウィンドーの開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■キーシリンダーでのパワーウィンドーの開閉*



❶ 開
❷ 閉

運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

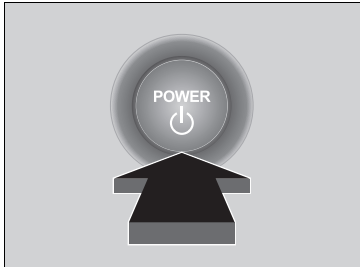
開けるとき*：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする
閉めるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を放すことで、ウィンドーの開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



Honda スマートキーを携帯し、ブレーキを踏まずに POWER を押すと OFF モード→アクセサリーモード→ ON モード→ OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード：
車両の電源が OFF の状態です。
アクセサリーモード：
オーディオなど一部のアクセサリーが使用できます。
ON モード：
すべてのアクセサリーが使用できます。

»POWER スイッチ

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

パワーモードがONモードのとき、シフトポジションがP以外の状態でPOWERスイッチを押した場合はアクセサリーモードに切り換わります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60分経過すると、12Vバッテリー保護のため自動的にパワーモードがOFFモードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。 POWER を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

■ Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外のときに Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外からの警告ブザーと車内からの警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

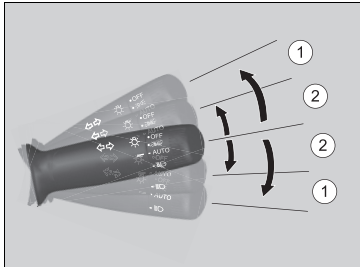
窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■①：方向指示器

進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■②：ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が3回点滅します。

▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

≫方向指示器(ウィンカースイッチ)

ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

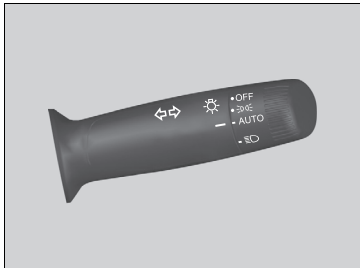
➔ **表示灯** P.87

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ライトの使い方

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードがONモードのとき、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを ≣D にします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを ≣D にして手を離します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを ≣D にしたあと、AUTO にします。

ライトの使い方

ライト類が点灯するとメーター内の表示灯が点灯します。

➔ **表示灯** P.87

ヘッドライト・車幅灯

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを ≣D にしたままパワーモードをOFF モードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ライトが消灯します。

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリー上がりの原因となります。

次ページに続く

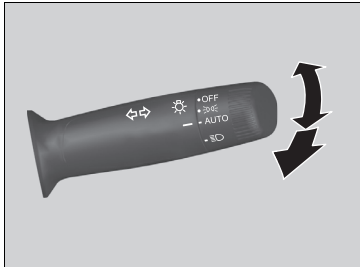
ヘッドライト・車幅灯の消灯：

停車中にライトスイッチを OFF にして手を離します。

▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。



■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

■ヘッドライトオートオフ機能

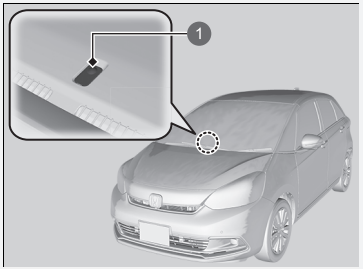
パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

»ヘッドライト・車幅灯

照度感知センサーは、図の位置にあります。



❶ 照度感知部

■デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

停車しているときにライトスイッチを OFF にして手を放すとデイタイムランニングライトは消灯します。

車両を発進させると再び点灯します。

デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトと車幅灯は光源を共用しています。

デイタイムランニングライトは車幅灯よりも明るく点灯します。

車幅灯を手動点灯させたときはデイタイムランニングライトは点灯しません。

デイタイムランニングライトの ON/OFF 設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

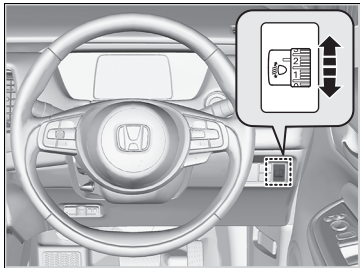
➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヘッドライトレベリングダイヤル



車幅灯、ヘッドライトが点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
3～5名乗車時	1
2～5名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

▶ヘッドライトレベリングダイヤル

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。
- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

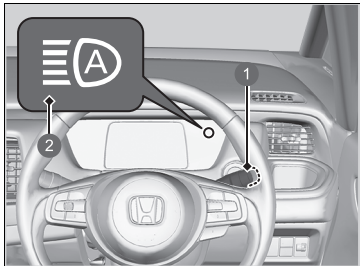
カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■オートハイビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを≡Dに回したあと、 AUTO に戻す

≫オートハイビームの使いかた

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム		ロービーム
以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。 • 車速が 30km/h 以上 • 前方にライトを点灯した車両がいない • 前方に街灯などの光が少ない	⇔	以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。 • 車速が 24km/h 以下 • 前方にライトを点灯した車両がいる • 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTOに戻す

  このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを≡Dに回す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチをAUTOに戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

オートハイビームの使いかた

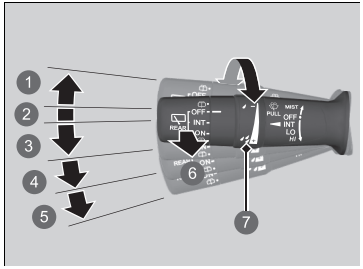
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペース内に重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



❶ MIST：（レバーを操作している間作動）
❷ OFF：停止
❸ INT：間欠（雨量が少ないとき）
❹ LO：低速（普通の雨量のとき）
❺ HI：高速（雨量が多いとき）
❻ ウォッシャー
❼ 間欠時間の調節
　－: 間欠間隔が長い
　＋: 間欠間隔が短い

パワーモードがON モードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

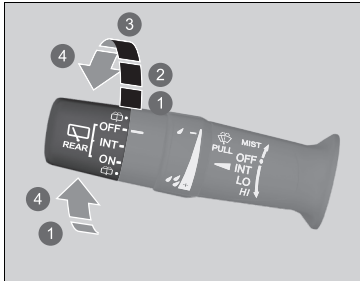
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー



❶ **OFF**：停止
❷ **INT**：間欠動作
❸ **ON**：低速作動
❹ ⛲：ウォッシャー

パワーモードがON モードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF, INT, ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを⛲まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを R にするとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速) HI(高速)	連続作動

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ワイパー/ ウォッシャー

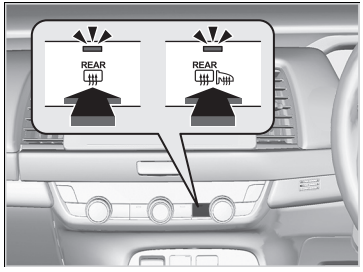
間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線✤でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ



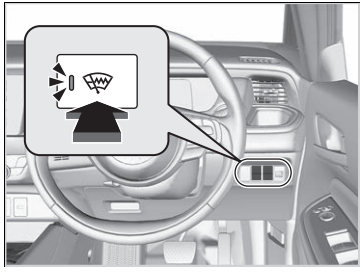
パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがON モードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線がON になります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

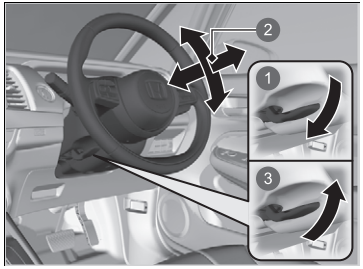
フロントガラス熱線スイッチ*

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



❶ 解除
❷ 調節
❸ 固定

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの左側にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドルの調節

⚠警告

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■手動式防眩ミラー



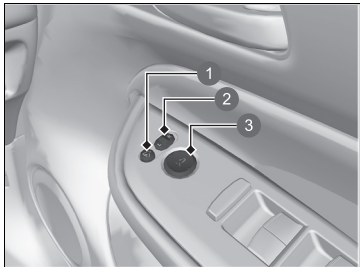
夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

❶ 昼
❷ 夜

≫ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

ドアミラー



❶ 格納スイッチ
❷ 左右切り換えスイッチ
❸ 角度調節スイッチ

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

次ページに続く

■オートリトラミラー*

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

■格納するとき

- Hondaスマートキーの施錠ボタンもしくはHondaスマートキーを携帯し、ドアのドアロックセンサーに触れてください。

■元の位置に戻すとき

- Hondaスマートキーの解錠ボタンもしくはHondaスマートキーを携帯しドアを解錠してください。

≫オートリトラミラー*

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オートリトラミラーの設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

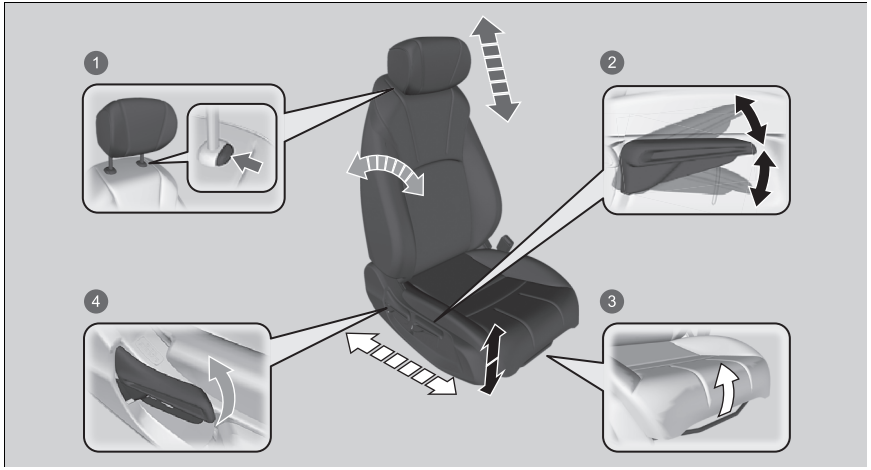
シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

次ページに続く

■シートの動かしかた



❶ ヘッドレストの調節
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

❷ 高さの調節(運転席)
レバーを繰り返し引き上げ / 引き下げし、高さを調節

❸ 前後位置の調節
レバーを引き上げながら、前後位置を調節

❹ 背もたれの角度調節
レバーを引き上げながら調節

▶▶シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

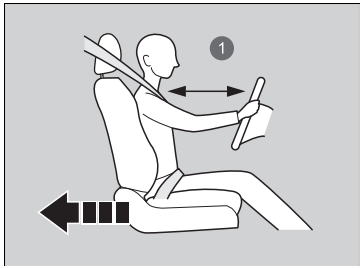
フロントシートの下にものを置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

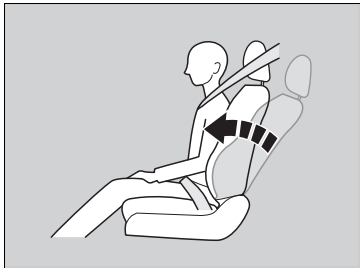
■フロントシートの調節



❶ 十分な距離をとる

■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

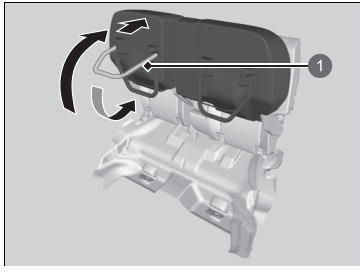
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■座面をはね上げて固定する(チップアップ)



❶ フット

座面は、左右別々にはね上げることができます。

■座面のはね上げかた

左側

1. アームレスト* を収納する。

共通

2. 座面を引き上げる。

3. 座面を背もたれに押しつけながらフットを格納して、固定する。

≫リヤシート

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

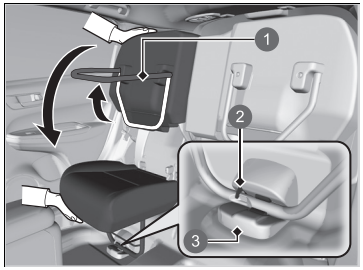
≫座面をはね上げて固定する(チップアップ)

⚠注意

座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ フット
❷ フック
❸ ガイド

■戻しかた

1. 座面を押さえながら、フットをいっぱいに開く。
▶ 座面が前に倒れ込むので必ず手を添えて操作してください。
2. 座面を静かに前方に倒して、フットをガイドに入れる。
▶ ガイドからフックが出ていることを確認してください。

≫座面をはね上げて固定する(チップアップ)

⚠注意

座面を戻すときは、以下のことを確認する。
- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にものやシートベルトを置いていないか

異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

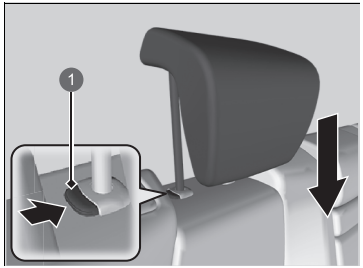
フットを格納した状態で座面を倒さないでください。

アドバイス

座席を戻すときは、シートベルトやバックルをはさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

次ページに続く

■背もたれの倒しかた



❶ ノブ

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。

片側ずつ独立して行えます。

■倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。
   ➡ **分離収納式シートベルト** P.42
2. ヘッドレストを下げ、アームレスト* を元に戻す。

≫背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

シートバックポケット装備車

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。

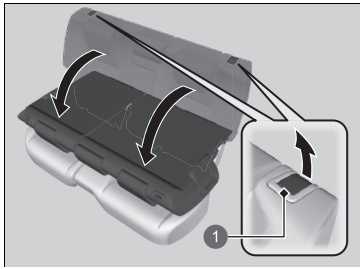
- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにものが入ったままリヤシートを格納するとき

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ レバー

3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

▨背もたれの倒しかた

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

リアシートリマインダー

後席への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードをONモードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。



作動後、パワーモードをOFFモードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

リアシートリマインダー

パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードをONモードにしなかった場合は作動しません。

このシステムは後席の人や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に人や荷物がある可能性をお知らせします。

お知らせ機能が作動しないように設定することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

時計*/ 車両設定 P.111

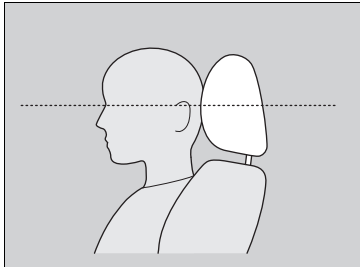
Honda CONNECT ディスプレイ装備車

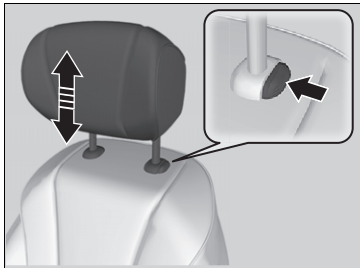
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヘッドレスト

■フロントシートヘッドレストの調節





後頭部の中心が、ヘッドレストの中心にくるようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

ヘッドレスト

⚠警告

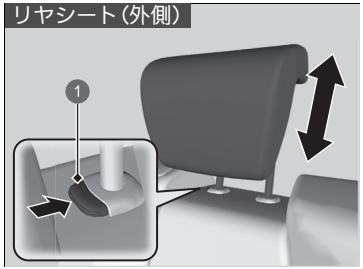
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

次ページに続く

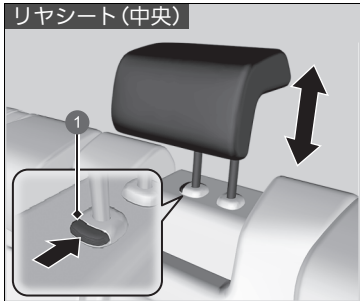
■リヤシートヘッドレストの位置変更

リヤシート(外側)



❶ ノブ

リヤシート(中央)



❶ ノブ

乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

≫リヤシートヘッドレストの位置変更

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

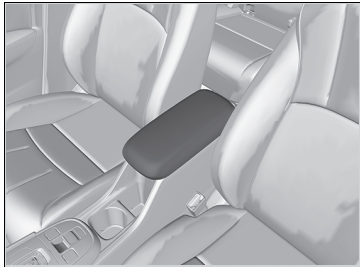
ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

ヘッドレストの取り外しと取り付け

天井とシートバックのスペースが限られているため、リヤシートヘッドレストの取り外しや取り付けを行うときは、シートバックを少し前に倒してください。

アームレスト*

■フロントシートアームレスト*



■リヤシートアームレストの操作*



前に倒して使います。

▶▶アームレスト*

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

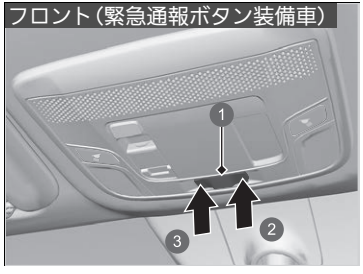
アドバイス
アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内灯

■室内灯スイッチ

フロント（緊急通報ボタン装備車）



❶ ドア連動
❷ ON
❸ OFF

■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

リヤ



❶ ドア連動
❷ ON
❸ OFF

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

⩺室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

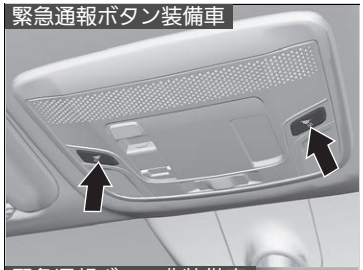
室内灯の消灯する時間の設定を変更することができます。
Honda CONNECT ディスプレイ非装備車
➲ **時計*/ 車両設定** P.111
Honda CONNECT ディスプレイ装備車
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

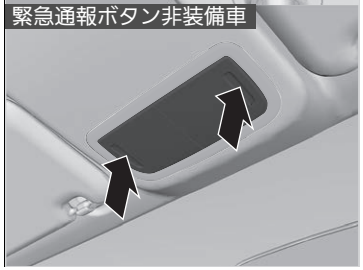
12V バッテリーが上がるおそれがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

■マップランプ

緊急通報ボタン装備車



緊急通報ボタン非装備車



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

緊急通報ボタン装備車

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

緊急通報ボタン非装備車

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

≫室内灯

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

≫マップランプ

緊急通報ボタン装備車

以下のときマップランプのスイッチを押しても消灯できません。

- フロントの室内灯スイッチが ON のとき
- フロントの室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

■カーゴスペース照明灯



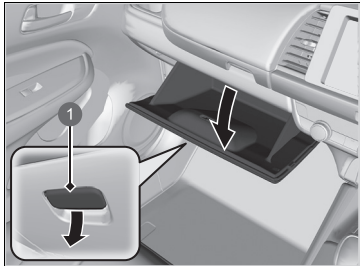
テールゲートを開けると点灯します。

≫カーゴスペース照明灯

パワーモードが OFF モードまたはアクセサリーモードのときは 12V バッテリー保護のため、点灯したままにしていると約 30 分後に消灯します。

収納装備

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

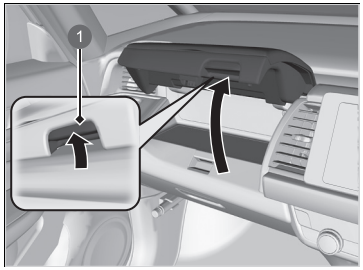
❶ ノブ

▶グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■助手席アッパーボックス



ノブを引き上げて開きます。

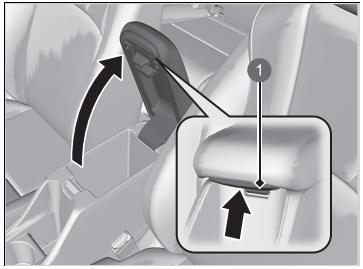
❶ ノブ

▶助手席アッパーボックス

⚠警告

走行中は必ず助手席アッパーボックスを閉める。
助手席アッパーボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負う恐れがあります。

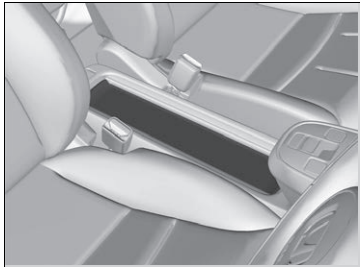
■センターコンソールボックス*



ノブを引き上げて開きます。

❶ ノブ

■フレキシブルアタッチメントテーブル*



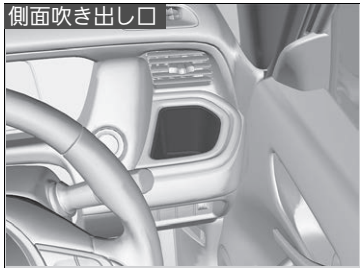
フレキシブルアタッチメントテーブル*

フレキシブルアタッチメントテーブルが破損するおそれがありますので、重いもの(約55kg 以上)や転がりやすいものを置かないでください。

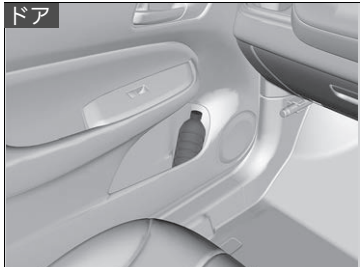
次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー



ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。



■リヤシート用ドリンクホルダー

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

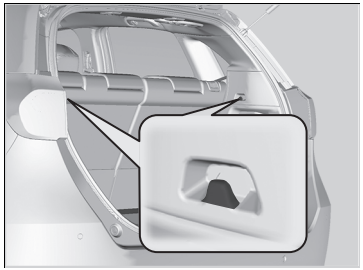
ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■コンビニフック



■カーゴスペースコンビニフック

軽い荷物をかけておくのに便利です。

■コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

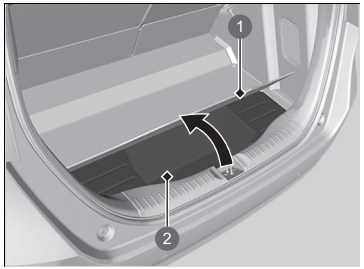
コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

次ページに続く

■カーゴフロアボックス



カーゴリッドを開けます。

❶ カーゴリッド
❷ カーゴフロアボックス

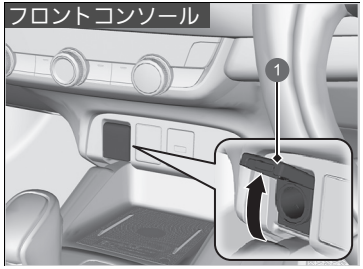
≫カーゴフロアボックス

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

その他の室内装備品

■アクセサリーソケット



❶ カバー

パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。

■フロントコンソール

カバーを開けて使います。

次ページに続く

その他の室内装備品

⚠注意

アクセサリーソケットやUSBジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

アクセサリーソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流12Vの電源を供給します。

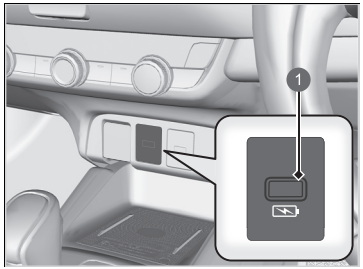
12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

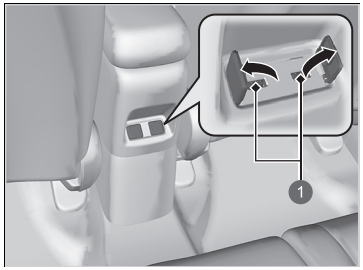
■充電専用 USB ジャック*



■フロントコンソール*

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック(2.4A)に接続します。

❶ USB ジャック



■リヤコンソール*

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック(3.0A)に接続します。

❶ USB ジャック

充電専用 USB ジャック*

接続した機器を車内に放置しないでください。

接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。

USB 延長コードを使用すると、充電できない場合があります。

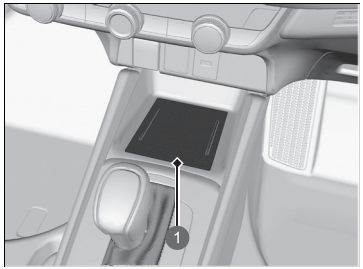
ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバー* を閉めてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ワイヤレス充電器*



❶ ワイヤレス充電器

パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。
ワイヤレス充電規格 Qi に適合した機器をワイヤレス充電器の充電エリアの上に置くことで充電できます。

ワイヤレス充電器*

⚠注意

充電エリアと充電される機器の間に金属製の物体があると、高温になり、やけどをするおそれがあります。

- ワイヤレス充電器と対応機器の間に金属類を挟んだ状態で充電しない。
- タオルなどをかぶせた状態やほこりが被った状態で充電しない。
- 水や飲料物等で機器を濡らさない。
- 油類、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしない。

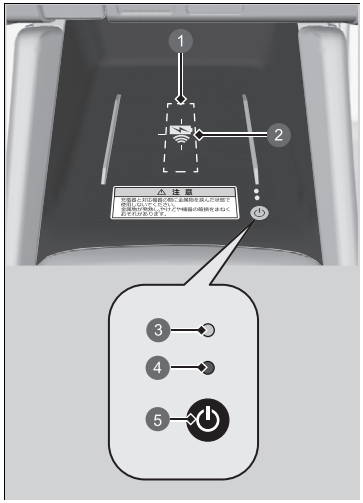
ワイヤレス充電を行う際は、対応機器に付属の取扱説明書もお読みください。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ワイヤレス充電器は最大15W充電に対応していますが、機器や条件によって充電の電力は変化します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ 充電エリア
❷ マーク
❸ インジケータ（オレンジ）
❹ インジケータ（グリーン）
❺ 電源スイッチ

電源スイッチを長押しすることで、電源のON/OFF が切り替わります。

▶電源が ON のときはインジケーター(グリーン)が点灯します。

ワイヤレス充電器が ON のとき、対応機器を充電エリアに置くと、充電を開始します。このとき、インジケーター(オレンジ)が点灯します。

▶対応機器の充電面を下にして、充電エリアの中央に置いてください。

充電が完了すると、インジケーター(グリーン)が点灯します。

▶対応機器によっては、充電完了後もインジケーター(オレンジ)が点灯し続ける場合があります。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

■充電周波数の変更

充電中に電源スイッチを 1 回押すと、充電周波数が変更されラジオのノイズを低減することができます。

▶ インジケーター(オレンジ)が 3 回点滅します。

▶ 周波数を変更する前に、一度ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ラジオのノイズが低減することを確認してください。

ワイヤレス充電器*

⚠注意

ペースメーカ(植え込み型心臓ペースメーカおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)およびICD装着のお客様は、充電時にはワイヤレス充電器から 22cm 以内に植込み部位を近づけない。

充電によりペースメーカおよびICDの動作に影響を与える恐れがあります。ご使用になる前に医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

充電中に充電エリア内に磁気記録メディアや精密機器などを置かない。

磁気の影響により、クレジットカードや ETC カードなどのデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器は故障するおそれがあります。

“Qi” 及び、 マークはワイヤレスパワーコンソーシアム(WPC) の登録商標です。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ワイヤレス充電器上の対応機器が充電状態のときに、Honda CONNECT ディスプレイの画面上に マークが表示されます。

次ページに続く

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■充電できないときは

次の表に基づき、対処してください。

インジケーター		エラー原因	対処方法
グリーン & オレンジ	同時点滅	対応機器と充電エリアの間に異物がある	対応機器と充電エリアの間にある異物を取り除く。
		充電エリアから対応機器がずれている	充電エリア中央の(( ))マーク付近に置き直す。
		ワイヤレス充電器内部の温度上昇	一旦充電を停止し、しばらくたってから充電を開始してください。
オレンジ	点滅 ※1	ワイヤレス充電器の故障	Honda 販売店へご相談ください。

※1 ：Honda CONNECT ディスプレイ非装備車は、電源スイッチを 1 回押すとインジケーター(オレンジ)が 3 回点滅しますが、このときは異常ではありません。

➡ **充電周波数の変更** P.189

≫ワイヤレス充電器*

次のような場合は充電できないことがあります。

- 対応機器が満充電
- 対応機器が高温になっているとき
- テレビ塔や発電所、ガソリンスタンドなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ワイヤレス充電に対応していないカバーやアクセサリーが対応機器に取り付けられている

充電エリアに対応機器の充電面を接地できない形状、サイズの機器には本機能を使用できません。また、機器によっては、正常に作動しない場合があります。

充電するときは、同時に複数の機器を充電しないでください。

充電中や充電直後は、充電エリアと対応機器が温かくなりますが、異常ではありません。

次のような場合、充電を一時的に停止することがあります。その後、自動的に充電は再開します。

- Honda スマートキーシステムへの影響を避けるため、すべてのドアを閉めたとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

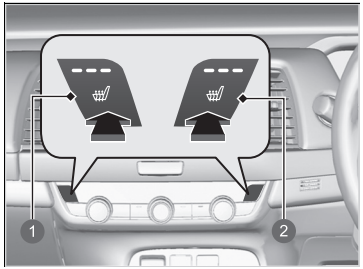
ワイヤレス充電器*

対応機器が高温になり、対応機器のバッテリー保護機能が作動した場合、充電速度が著しく低下し、または、充電停止する場合があります。
バッテリー保護機能が作動する温度は対応機器によって異なります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■フロントシートヒーター*



❶ 助手席用スイッチ
❷ 運転席用スイッチ

パワーモードがONモードのときに使用できます。

スイッチを押すたびに設定が切り換わります。
1 回目 - 高：インジケーターが 3 個点灯
2 回目 - 中：インジケーターが 2 個点灯
3 回目 - 低：インジケーターが 1 個点灯
4 回目 -OFF：インジケーターが消灯

パワーモードを一度OFFモードにしてから再度ONモードにしても、前回と同じ設定で復帰します。

▶フロントシートヒーター*

⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

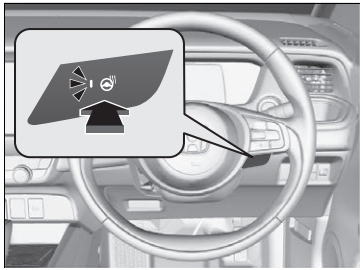
また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

一定時間経過するとシートヒーターの設定が自動で 1 段階低くなり、最終的に OFF になります。設定が自動で低くなるまでの時間は室内温度などによって異なります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ステアリングヒーター*



パワーモードが ON モードのときに使用できます。
スイッチを押すと表示灯が点灯し、ハンドルを暖めることができます。停止するときは、再度スイッチを押し、表示灯を消します。

ステアリングヒーター*

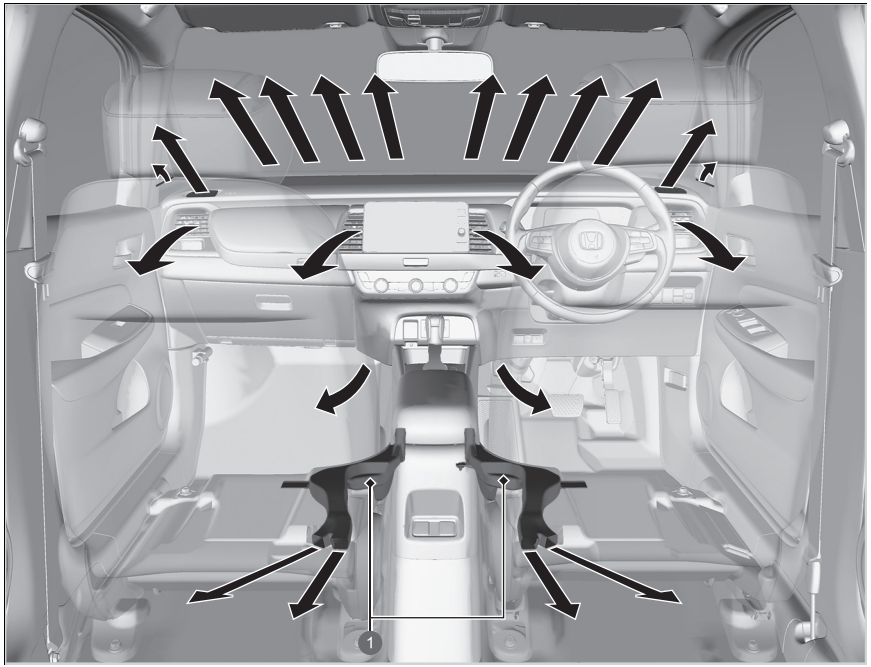
⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムを起動した状態で使用してください。
12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアコンの吹き出し口



❶ 後席吹き出し口

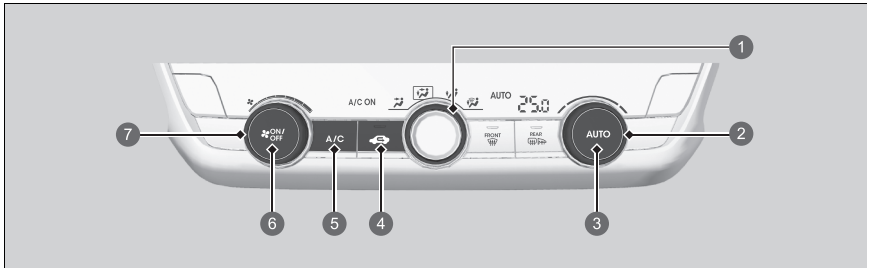
オートエアコンの使いかた

パワーシステムが起動している状態で使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節ダイヤルを回して温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。



❶ モード切り換えダイヤル
- 上半身送風
- 足元送風、上半身送風
- 足元送風
- 足元送風、窓ガラスの曇り取り

❷ 温度調節ダイヤル
❸ AUTO スイッチ
❹ 内外気切り換えスイッチ
❺ A/C スイッチ
❻ ON/OFF スイッチ
❼ ファンスピード切り換えダイヤル

オートエアコンの使いかた

オート（AUTO）で使用中いずれかのアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。

このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「**Lo**」は最大冷房を、「**Hi**」は最大暖房を示します。

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

次ページに続く

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて  を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

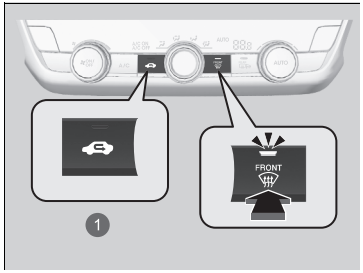
AUTO で使用中、自動で除湿暖房となります。
AUTO ではないとき、暖房中に A/C を押して A/C ON にすると除湿暖房となります。

▶オートエアコンの使いかた

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

高電圧バッテリーの残量が少ないときエアコンの効きが弱くなることがあります。

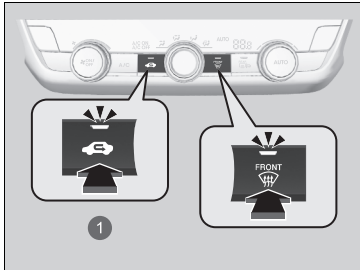
■前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



❶ 外気導入(表示灯消灯)

FRONT を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



❶ 内気循環(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

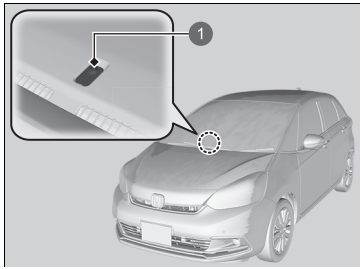
1. FRONT を押す。
2. を押す。

前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

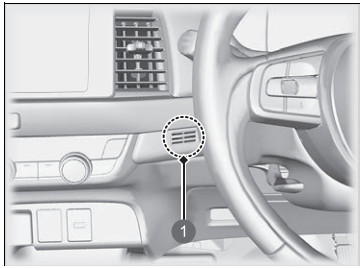
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

❶ センサー



❶ センサー



オーディオ

オーディオに関する情報は、
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に 202
運転操作
- パワーシステムの起動 205
- 走行時の注意点 209
- トランスミッションについて 211
- シフト操作 212
- ECON スイッチ* 218
- 車両接近通報装置 219
- VSA（ビークルスタビリティアシスト） ...223
- 4WD（四輪駆動機構）* 226
- 高電圧バッテリーの特性 226

Honda SENSING 231
- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） 234
- 踏み間違い衝突軽減システム 244
- 急アクセル抑制機能* 250
- 路外逸脱抑制機能 255
- 歩行者事故低減ステアリング 264
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） 271
- 車線維持支援システム（LKAS） 293
- トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） 303
- 先行車発進お知らせ機能 312
- 標識認識機能 317
- フロントワイドビューカメラ 323
- ソナーセンサー 325

ブレーキ操作
- ブレーキシステム 327
- ABS（アンチロックブレーキシステム） ... 336
- 電子制御ブレーキアシスト 338
- エマージェンシーストップシグナル .. 339

駐停車操作 340
リアワイドカメラシステム* 352
マルチビューカメラシステム* 353
給油 367

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.390
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

» 車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  車内での施錠 / 解錠 P.134
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶不適切なシート位置での走行は危険です。
  シートの調節 P.165
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ミラー類の調節 P.162
  ハンドルの調節 P.161

次ページに続く

≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

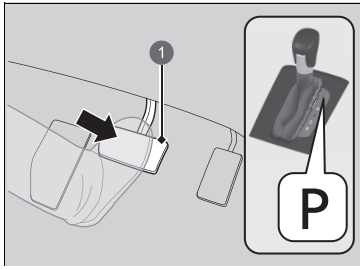
車に合ったフロアマットをお使いください。

- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.39
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.79

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
▶パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約30 秒間点灯します。



2. シフトポジションがPであることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶Nでも起動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

❶ ブレーキペダル

パワーシステムの起動

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

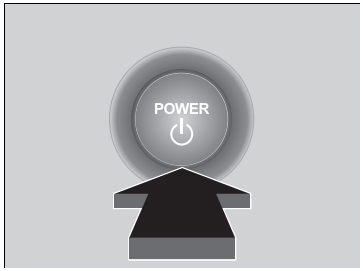
⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

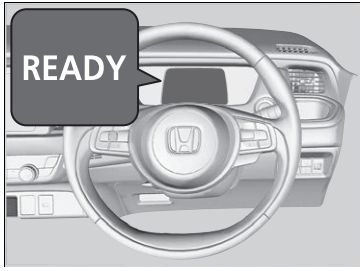
寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く



3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
- ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

➡ **表示灯** P.87

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. POWER を押す。

パワーシステムの起動

POWER は、パワーシステムが起動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.431

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、パワーシステムが起動しないことがあります。

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。
READY 表示灯が点灯していれば走行可能です。
READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで POWER を押すとパワーモードが OFF になり、走行できなくなります。

➡ **READY 表示灯** P.90

パワーシステムの起動

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。
➔ **イモビライザーシステム** P.140

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

次ページに続く

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.327

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

⚠注意

減速の強さを変更する際の車速には、十分注意する。 滑りやすい路面では、急激な回生ブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

次ページに続く

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。モーターや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫走行時の注意点

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

トランスミッションについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが P N 以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

シフトポジションが D B で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、オートマチック車のキックダウンのように、力強い加速を得ることができます。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

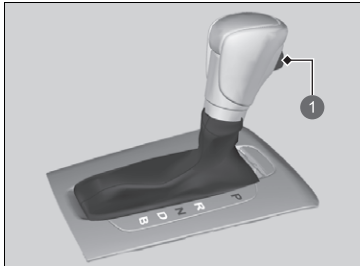
キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、エンジン回転数が上がり、モーターの出力が大きくなることで速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてシフトレバーで切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



❶ シフトレバーボタン

P パーキング

駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース

車を後退

N ニュートラル

駆動力が伝達されない状態

D ドライブ

通常走行

減速セレクター装備車

- 一時的に減速セレクターを使用するとき
- 減速セレクターを使用するとき(SPORTモード走行時)

B ドライブ(B)

長い下り坂や強い回生ブレーキが必要なとき

減速セレクター装備車

- 減速セレクターを使用するとき

シフト操作

高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限されることがあります。

Nのポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
ブレーキペダルを踏み、シフトポジションをDまたはRにしてください。

シフトポジションがP以外のときは、パワーモードがOFFモードになりません。

高電圧バッテリーの充電量が極端に少ないときに下記の操作を行っても車両が動き出すまでに通常より長い時間がかかることがありますが、異常ではありません。

- シフトポジションをRにしたとき
- ブレーキペダルを放したとき
- アクセルペダルを踏んだとき

■シフトレバーの操作

シフトレバーは、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



❶ シフトポジション表示灯(トランスミッション警告灯)
❷ READY 表示灯
❸ ブレーキペダルを右足で踏み、シフトレバーボタンを押して操作
❹ シフトレバーボタンを押さず、そのまま操作
❺ シフトレバーボタンを押して操作

次ページに続く

シフトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーを操作してください。
車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

選択しているシフトポジションが点滅しメッセージが表示された場合は、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

外気温が非常に低い(− 30 ℃以下)とき、シフトポジションの表示の切り換わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトレバーが R に入っていることを知らせます。

❻ 減速セレクター非装備車
❼ 減速セレクター装備車
❽ M 表示灯
❾ 減速セレクター表示灯

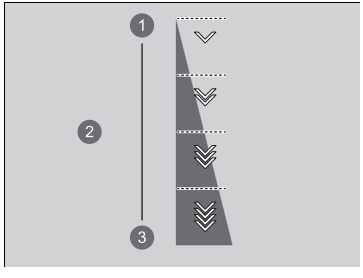
シフトレバーの操作

シフトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、シフトレバーの操作ができないことがあります。
先にブレーキペダルを踏んでください。

減速セレクター*

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4段階で変更できます。前走車との車間調整や坂道などで減速の強さを変更したいときに使用してください。

■共通の操作



1回のセレクター操作で、減速の強さを1段変更します。

▶ セレクターを引き続けても連続では変更しません。

❶ 弱
❷ 減速の強さ
❸ 強

減速の強さを変更するには

- ＋のセレクター(右側)を引くと減速の強さが弱くなる
- －のセレクター(左側)を引くと減速の強さが強くなる

減速セレクター*

⚠注意

減速する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激な減速がタイヤのスリップを招くことがあります。

左右のセレクターを同時に操作すると、変更しないことがあります。

以下の状態のときはセレクターを引いても減速の強さが変更されずに表示が点滅します。
また、自動的に減速の強さが弱くなったり解除することがあります。

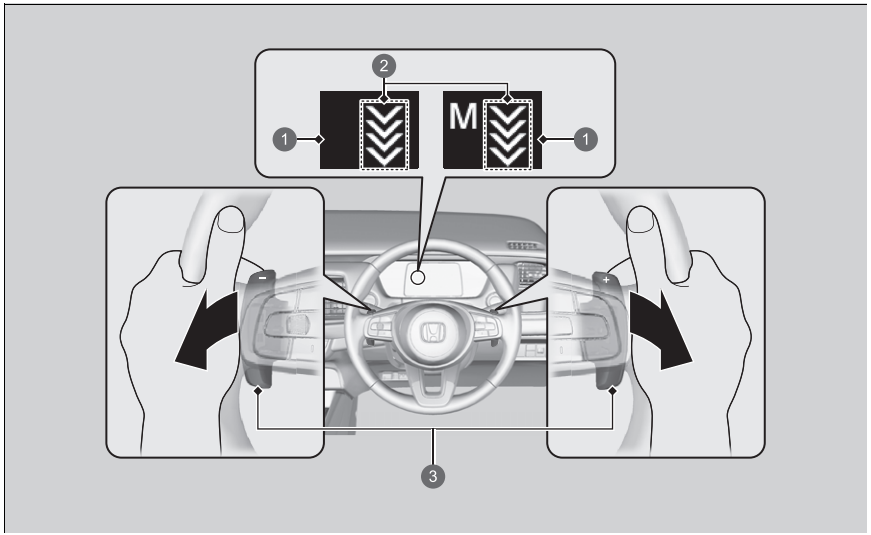
- 高電圧バッテリーが満充電時、低温時、高温時
- 車速が減速の強さの許容範囲外のとき
- ハイブリッドシステムの保護が必要なとき

渋滞追従機能付 ACC が作動しているときは減速セレクターを使用できません。
走行中にセレクターを操作すると渋滞追従機能付 ACC 作動は解除されます。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■減速セレクターの操作方法



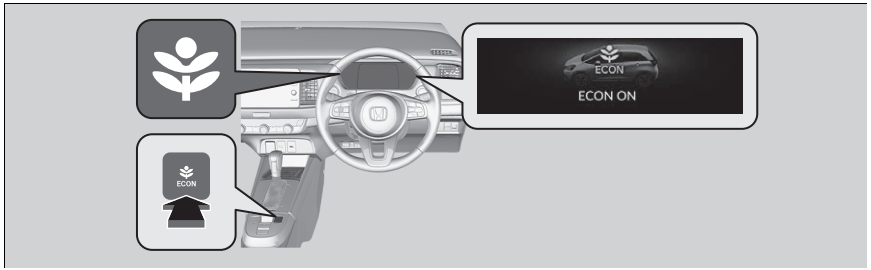
❶ 減速セレクター表示灯
❷ 減速の強さ
❸ セレクター

■シフトポジションがDのとき
セレクターを引くと一時的に減速の強さが表示され、アクセルペダルを離したときの減速の強さが強くなります。加減速を行わずに定速走行したり、停止間際まで減速すると減速セレクターは自動的に解除され、減速セレクター表示灯が消灯します。

■シフトポジションがDでSPORTモードのとき
SPORTモードにすると減速の強さとMが表示され、アクセルペダルを離したときの減速の強さが強くなります。減速セレクターを解除する場合はSPORTモードを解除してください。減速セレクターが解除されると減速セレクター表示灯が消灯します。

■シフトポジションがBのとき
シフトポジションをBにすると減速の強さとMが表示され、アクセルペダルを離したときの減速の強さが強くなります。減速セレクターを解除する場合はシフトポジションをDにし、SPORTモードを解除してください。減速セレクターが解除されると減速セレクター表示灯が消灯します。

ECON スイッチ*



パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り換えてください。

▶ ECONモードがONのときは、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

スイッチを押すとモーター、エアコンの作動を制御して、省燃費運転をしやすくするように制御します。

ECON スイッチ*

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

緊急ブレーキが作動したときや、運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。

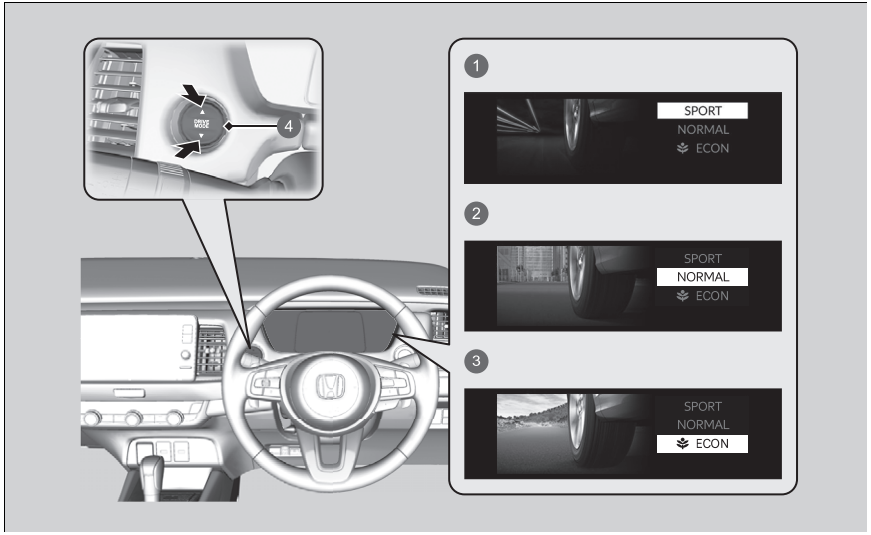
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車両接近通報装置

約 25km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

ドライブモードスイッチ*

選択したモードに応じた走行性能へ車両を制御します。
ドライブモードスイッチでSPORT モード、NORMAL モード、ECON モードの3 つのモードから走行モードを切り換えることができます。
選択しているモードはマルチインフォメーションディスプレイに表示され、それぞれのモードに応じて表示の内容が変化します。



❶ SPORT モード
❷ NORMAL モード
❸ ECON モード
❹ ドライブモードスイッチ

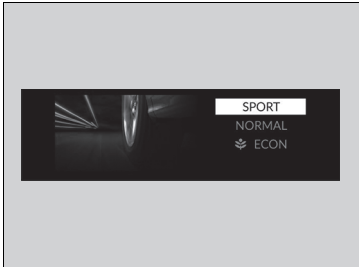
ドライブモードスイッチ*

運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。
また、車両に異常があるときなども下記のメッセージが表示され、モードの変更ができません。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ SPORT モード



運転操作に対しての応答性を高めたモードです。

■ NORMAL モード



操作性と快適性のバランスを最適化したモードです。

次ページに続く

■ ECON モード



省燃費運転をしやすくしたモードです。

■再度パワーモードを ON にしたときのモード

再度パワーモードを ON にしたときのモードは、以下のとおりです。
最後に使用したモードは、Honda スマートキーの DRIVER1 と DRIVER2 に応じて記憶されます。

パワーモードを ON にする前のモード	パワーモードを ON にしたときのモード
SPORT モード	NORMAL モード
NORMAL モード	NORMAL モード
ECON モード	ECON モード

»ECON モード

ECON モードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

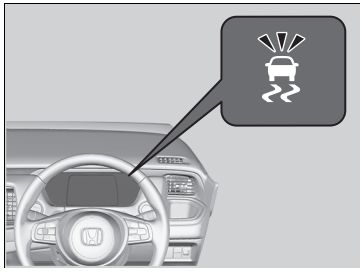
■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.336

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
電子制御ブレーキアシスト P.338

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

▨VSA(ビークルスタビリティアシスト)

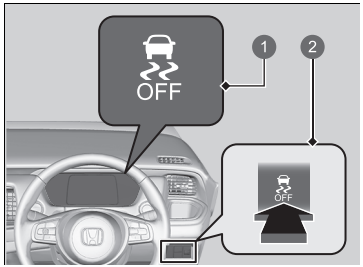
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

次ページに続く

■ VSA の ON と OFF



❶ VSA OFF 警告灯
❷ (VSA OFF)スイッチ

VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA の ON と OFF

新雪やぬかるみから脱出したいときに、でVSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、前輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

4WD(四輪駆動機構)*

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3 か月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。充電量が0の状態で長期間放置するとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ブラインドスポットインフォメーション*

隣接する車線後方の検知エリアに他の車両がいることを知らせ、運転者の車線変更等の操作の際の負担を軽減するシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション*

⚠警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。
状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

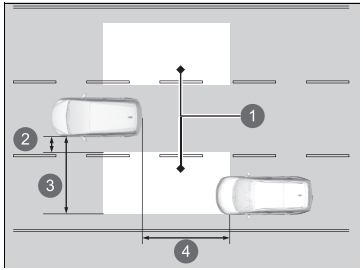
下記のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 他の車両が2秒以上検知範囲にいなかったとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- 自車が隣接する車線を走行する車両を約10km/h以上の速度差で追い越したとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動条件



❶ 検知範囲
❷ 約 0.5m
❸ 約 3m
❹ 約 3m

レーダーセンサー：リヤバンパー側面にあります。

自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲にいる車両を検知

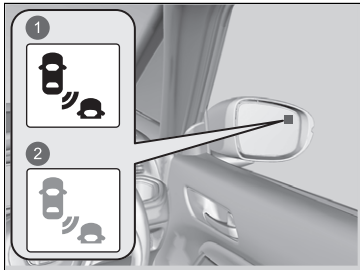
ブラインドスポットインフォメーション*

他の車両が検知範囲内にある場合でも、以下のように作動することがあります。

- 水しぶきなどにより、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサー汚れ/高温のため作動しません」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーション異常システムは作動しません」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムが車両を検知したとき



❶ 点灯
❷ 点滅

ブラインドスポットインフォメーション警告灯：両側のドアミラー鏡面にあります。

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から検知範囲に入ったとき
- 約 20km/h 以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：検知範囲に他の車両があるときに、検知された車両がある方向に方向指示器スイッチを操作すると、警報音が 3 回鳴ります。

ブラインドスポットインフォメーション*

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）を検知したとき
- 自動二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- リヤバンパーの側面部は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの側面部にシールなどを貼り付けない

リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったときや修理を行う際は、Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➲ **表示の切り換えかた** P.96

➲ **安全支援情報** P.106

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

ブラインドスポットインフォメーション*

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの ON と OFF

警報音の設定をカスタマイズすることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➲ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔P.234
- 踏み間違い衝突軽減システム ➔P.244
- 急アクセル抑制機能* ➔P.250
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.255
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.264
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.312
- 標識認識機能 ➔P.317
- オートハイビーム ➔P.155
- ブラインドスポットインフォメーション* ➔P.227
- 後退出庫サポート* ➔P.348
- パーキングセンサーシステム ➔P.342

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） ➔P.271
- 車線維持支援システム（LKAS） ➔P.293
- トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） ➔P.303

Honda SENSING

⚠警告

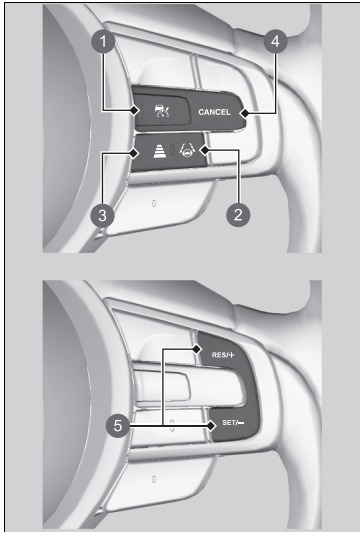
Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



❶ スイッチ
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)の待機状態の設定を行います。

❷ 車線維持支援システム(LKAS)スイッチ
車線維持支援システム(LKAS)およびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の待機状態の設定を行います。

❸ ディスタンススイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❹ CANCEL スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。

❺ RES/+ / SET/− スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

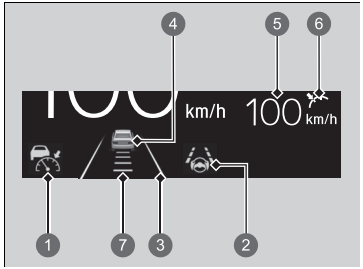
Honda SENSING

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■メーターの表示

渋滞追従機能付ACC、LKASおよびトラフィックジャムアシストの現在の状態を表示します。



❶ 渋滞追従機能付 ACC の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❷ LKASおよびトラフィックジャムアシストの作動状態
- グリーン：作動中もしくは待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❸ LKASおよびトラフィックジャムアシストの ON と OFF の状態と制御状態
- 実線：作動中
- 二重線：待機状態

❹ 渋滞追従機能付 ACC の先行車検知状態

❺ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速
- ホワイト：設定車速
- グレー：解除前の設定車速

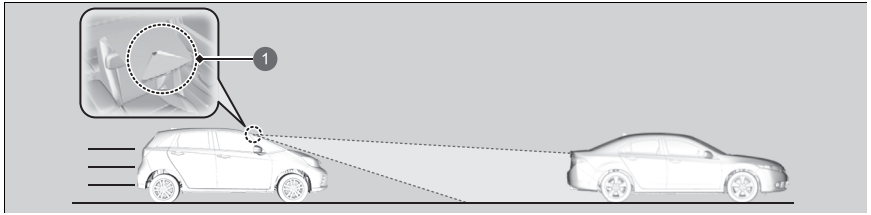
❻ 渋滞追従機能付 ACC の設定状態
- グリーン：作動中
- グレー：解除中

❼ 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ
▶ フロントガラスの上部にカメラを装備。

自車の車速が約 5km/h 以上になるとカメラが前方の車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

▶衝突軽減ブレーキ（CMBS）

⚠警告

CMBS は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

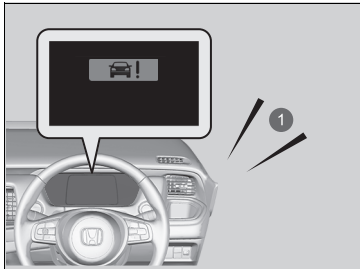
周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

このシステムのカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
▶ マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーによる警告が発生します。

❶ 警告音

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。
Honda CONNECT ディスプレイ非装備車
時計*/ 車両設定 P.111
Honda CONNECT ディスプレイ装備車
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

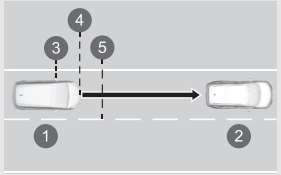
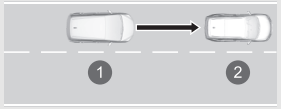
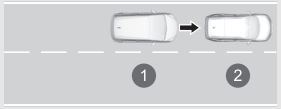
遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 Honda CONNECT ディスプレイ非装備車 ➡ **時計*/ 車両設定** P.111 Honda CONNECT ディスプレイ装備車 ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽い ブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況		強い ブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

❶ 自車
❷ 車両
❸ 遠め
❹ 標準
❺ 近め

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ CMBS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.96
➔ **安全支援情報** P.106

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温のとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次ページに続く

次のような場合、カメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 前方の車両(二輪車含む)による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

»衝突軽減ブレーキ(CMBS)

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき

次ページに続く

■前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両（タンクローリーなど）が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

■その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作（交差点などでの右折時を除く）※ をしながら、前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき

※：右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

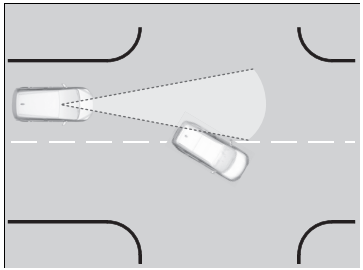
次ページに続く

■衝突の可能性が高くない場合の作動について

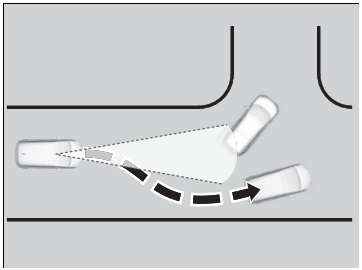
衝突の可能性が高くなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき

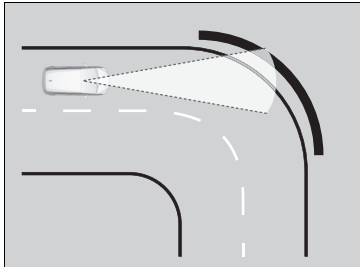


- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合

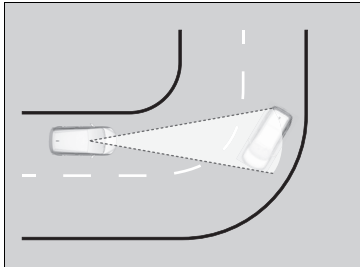


- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき

- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両(二輪車含む)、および自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両(二輪車含む)、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。
フロントおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

≫踏み間違い衝突軽減システム

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

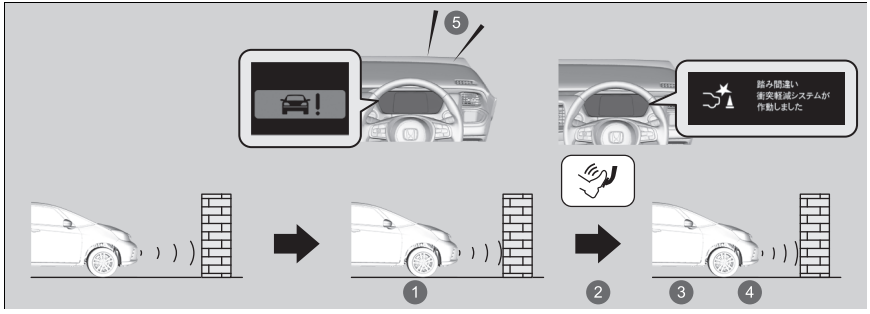
踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

■システムの作動

■近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



❶ 緊急ブレーキ作動開始
❷ ブレーキ
❸ 停車
❹ 停止保持後ブレーキ解除
❺ 警告音

パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の近距離衝突軽減ブレーキが作動しません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ 時計*/ 車両設定 P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⩙踏み間違い衝突軽減システム

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ ソナーセンサー P.325

システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションをPにしてください。

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動するおそれがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

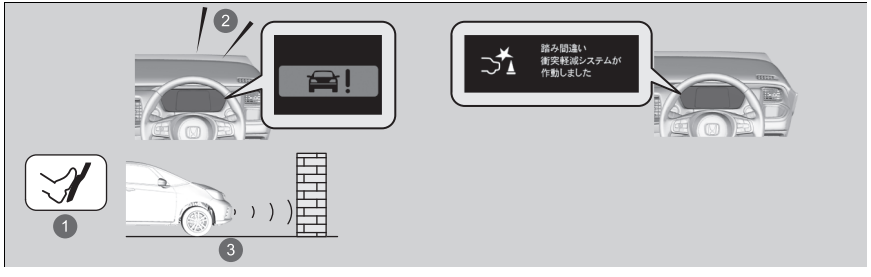
➔ 時計*/ 車両設定 P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約 10 ㎞ /h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



❶ アクセル誤踏み込み
❷ 警告音
❸ パワーシステムの出力を抑制

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
前進：急な坂道やシフトポジションが、[P]、[R]、[N]のとき
後退：

- 急な坂道やシフトポジションが[R]以外のとき
- パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしているとき

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた P.96

安全支援情報 P.106

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

システムの ON と OFF

バッテリー再接続後、踏み間違い衝突軽減システムが一時的に OFF になる場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると自動で ON になります。

ON にならないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の解除条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

近距離衝突軽減ブレーキの解除条件

近距離衝突軽減ブレーキが作動してから、一定時間経過したとき

▶作動解除の条件

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。
作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。
（例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する）
ただし近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

■踏み間違い衝突軽減システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例
- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

■その他システムが正しく作動しない事例
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

急アクセル抑制機能*

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

≫急アクセル抑制機能*

⚠警告

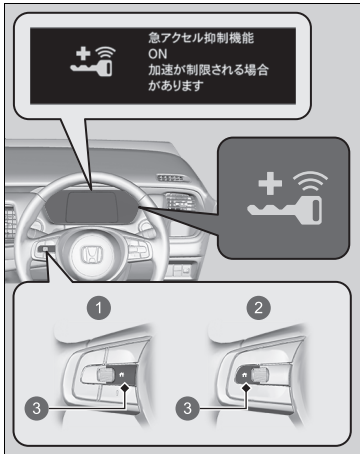
急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

急アクセル抑制機能はHonda販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。
設定についてはHonda販売店にご相談ください。

急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。
同時持ち込みすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。
起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムを作動させるには



❶ フロントコンソール　USB ジャック装備車
❷ フロントコンソール　USB ジャック非装備車
❸ 🏠スイッチ

急アクセル抑制機能が作動するように設定された Honda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

▶パワーシステムを起動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

▶起動メッセージを消すには、🏠スイッチを押してください。

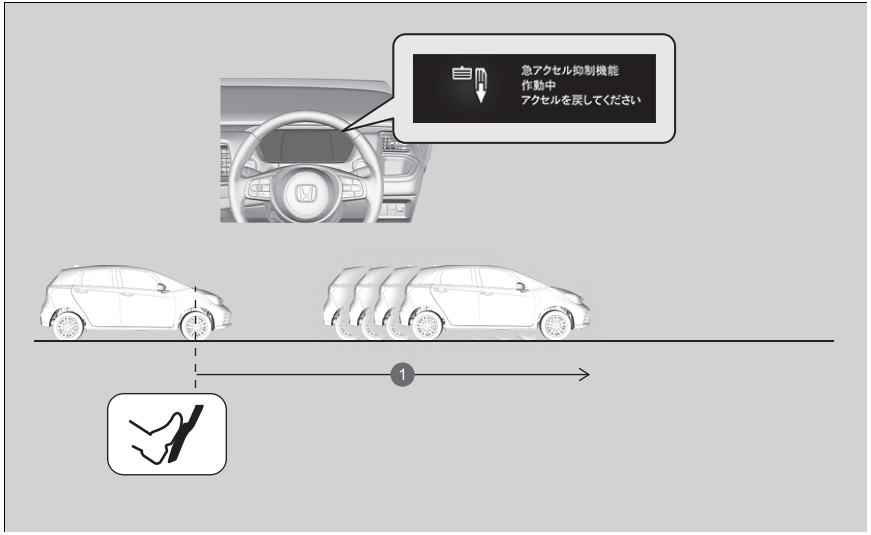
▨システムを作動させるには

電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

次ページに続く

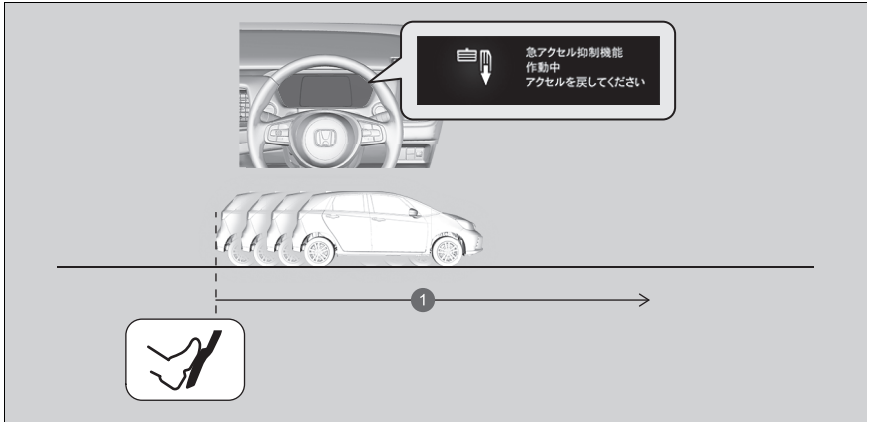
■システムの作動

車速が約 30km/h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



❶ 急加速を抑制

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。



❶ 一定の速度まで徐々に加速

次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
  ▶ オートマチックブレーキホールド作動時に急発進しようとすると、急アクセル抑制機能が作動する場合があります。
- 上り坂を走行しているとき

次ページに続く

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき

■急アクセル抑制機能の条件と制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。
また、加速したい場合に作動することがあります。

■道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

■自車の状態

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

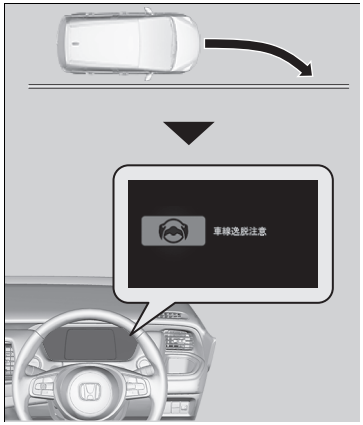
■その他

- 惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

▶▶路外逸脱抑制機能

⚠警告

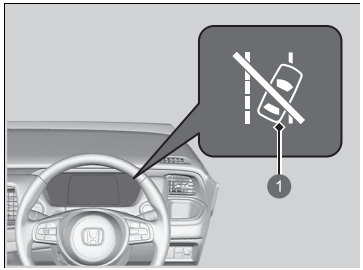
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

次ページに続く



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
フロントワイドビューカメラ P.323

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。
路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.260

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

路外逸脱抑制機能

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

車線維持支援システム (LKAS) を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

時計*/ 車両設定 P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき
- 白線(黄線)の場合
  車速が約 60km/h ～ 120km/h のとき
  ▶ 対向車両が走行している場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)および路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

警告灯 P.79

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.96

➡ **安全支援情報** P.106

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイ* またはオーディオ/インフォメーション画面*を使用してシステムの設定を変更することができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- サスペンションを変更したとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例
- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

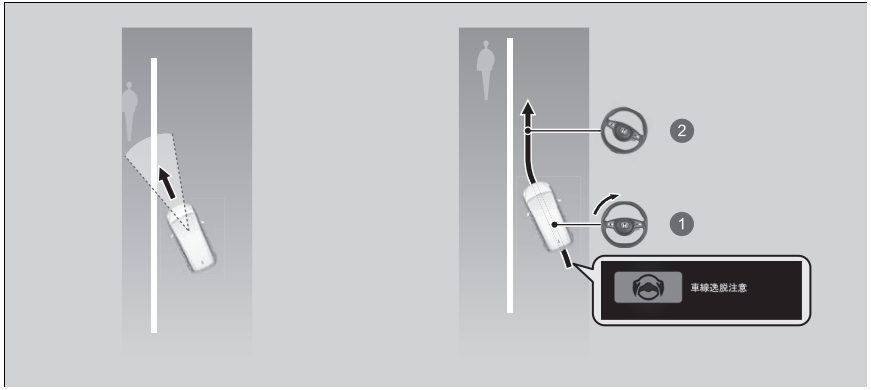
■その他、作動できない事例
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作

カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。
路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。

≫歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

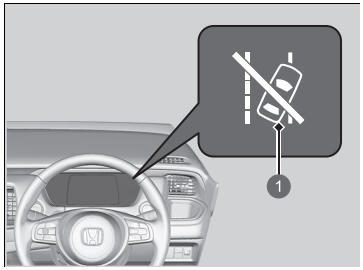
取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

➲ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.267

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■システムの ON と OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能がONのときに作動します。マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.96

➡ **安全支援情報** P.106

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

≫システムの ON と OFF

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

次ページに続く

■歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。
渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

渋滞追従機能付ACCシステムは、シフトポジションがDのときに使用することができます。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

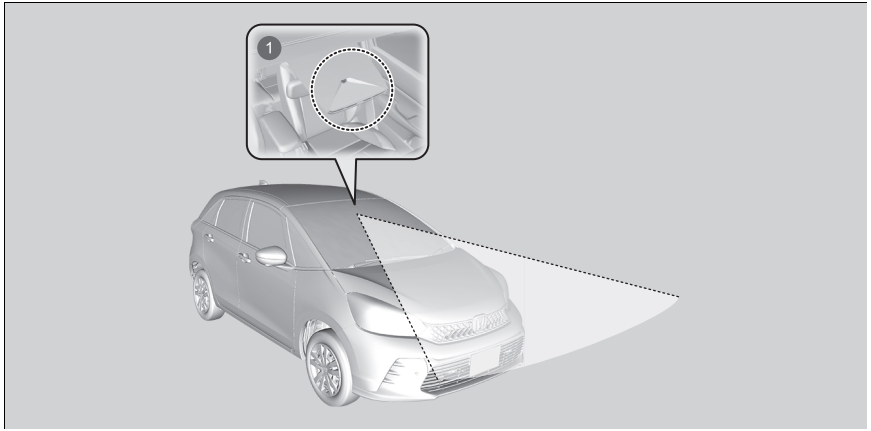
⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

次ページに続く



❶ フロントガラス上部にカメラを装備

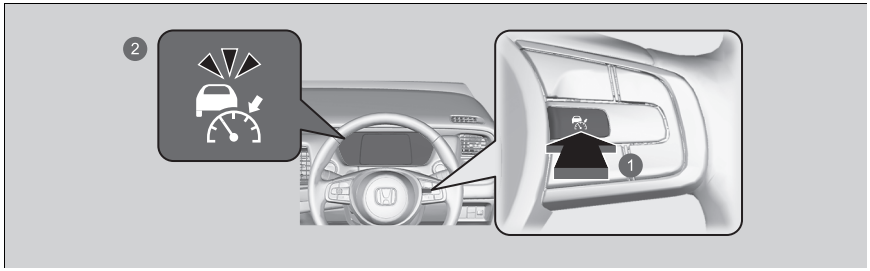
ブレーキペダルを操作しての減速中は、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。悪天候などで、フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

▶渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

■システムを作動させるには



❶ ハンドルの スイッチを押す
❷ メーター内に (ホワイト)が点灯し、渋滞追従機能付 ACC が操作可能になります。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

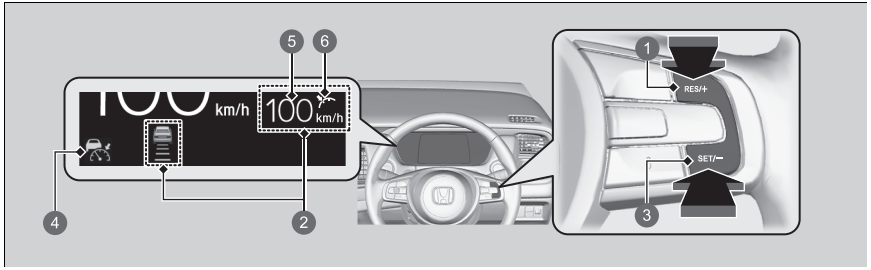
使用上の注意：
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
フロントワイドビューカメラ P.323

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■車速をセットするには



❶ RES/+ スイッチ
❷ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
❸ SET/– スイッチ
❹ (グリーン)
❺ 設定車速(ホワイト)
❻ 設定状態インジケーター(グリーン)

ブレーキペダルを操作していないときに RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

≫車速をセットするには

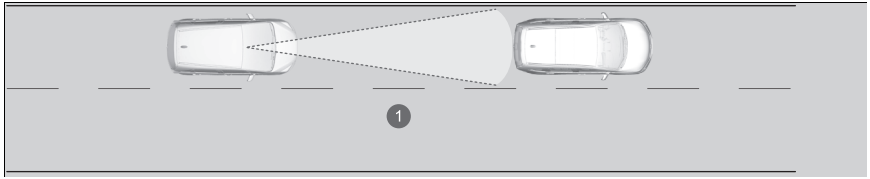
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

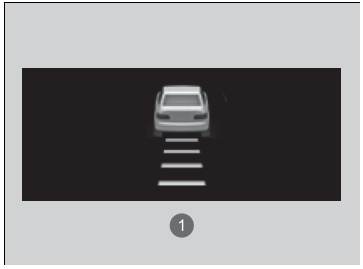
■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がフロントワイドビューカメラの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



❶ 渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m



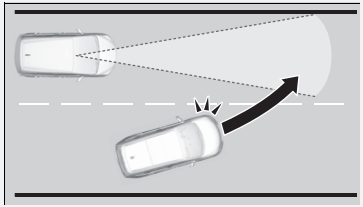
❶ メーターに車のアイコンが表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

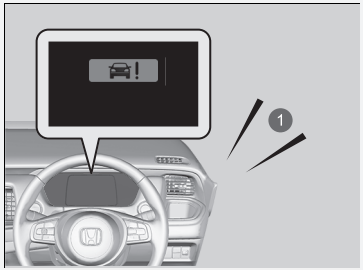
次ページに続く

⊠渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。

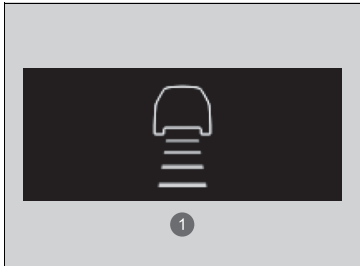


ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



❶ 警告音

■先行車がいないとき



❶ メーターに実線の車のアイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行いますが、設定した車速を超えてしまう場合があります。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

≫渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

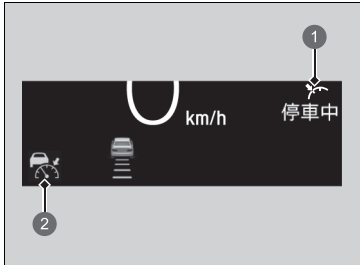
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.278
➡ **車間距離を設定するには** P.283

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■先行車が減速して停車するとき

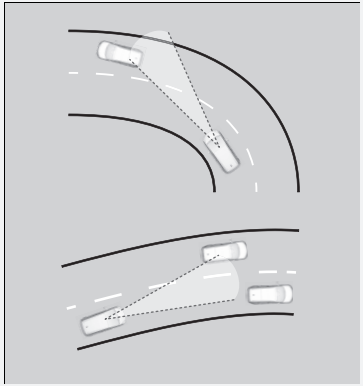


❶ 設定状態インジケーター(グリーン)
❷ (グリーン)

先行車が停車すると、自車も自動で停車します。メーターにメッセージが表示されます。
先行車の動きに合わせて RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

渋滞追従機能付 ACC の作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

次ページに続く

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

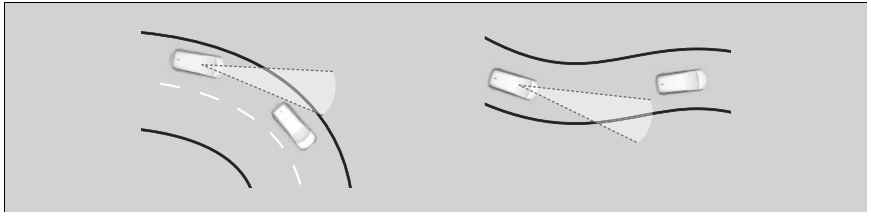
➔ フロントワイドビューカメラ P.323

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

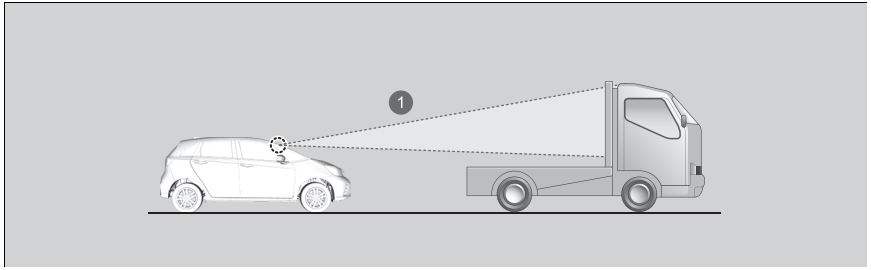
■前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 前方の車両の車高が低いとき
- 暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

次ページに続く

■その他、システムが正しく作動しない事例

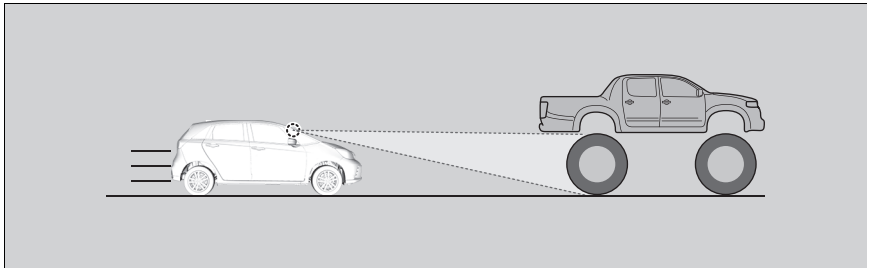
- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両



❶ トラックの上部を検知

- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき

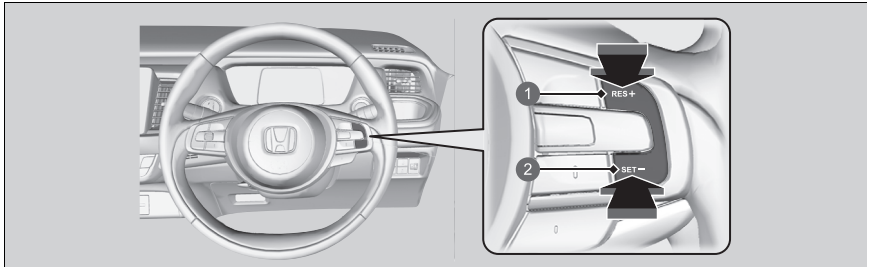


- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと SET/– スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げることができます。



❶ RES/+ スイッチ
❷ SET/– スイッチ

RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/– スイッチ

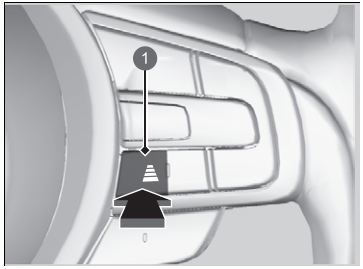
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

≫設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを押すと、現在の車速が設定車速になります。

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

❶ ディスタンススイッチ

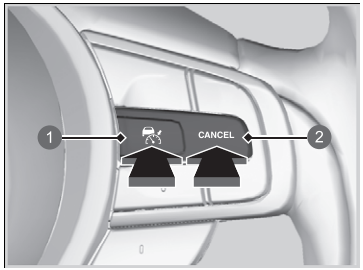
次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 27m	約 33m
中		約 35m	約 43m
長		約 44m	約 55m
最長		約 54m	約 67m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■解除するには



❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶メーター内の(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
  ▶メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、先行車を検知している場合、停車状態でも RES/+ スイッチを押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+ スイッチを押した場合、この車速で作動が開始されます。また、(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+ スイッチを押した場合は、SET/– スイッチと同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

次ページに続く

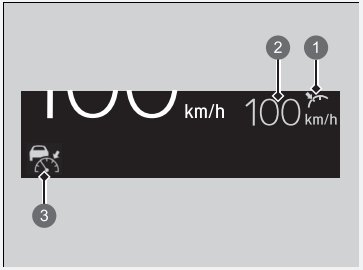
■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージ表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、衝突軽減ブレーキ（CMBS）または踏み間違い衝突軽減システムや急アクセル抑制機能* が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▶解除するには



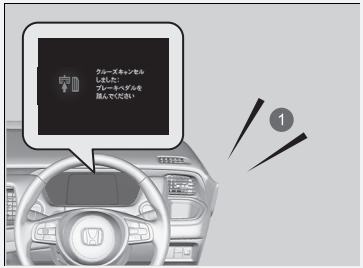
❶ 設定状態インジケーター（グレー）
❷ 解除前の設定車速（グレー）
❸ （ホワイト）

- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKASが作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

解除するには

停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

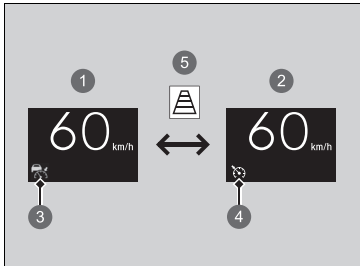


❶警告音

すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

次ページに続く

■クルーズモードへの切換え



❶ 渋滞追従機能付 ACC ON
❷ クルーズモード ON
❸ (ホワイト)
❹ (ホワイト)
❺ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。
マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。
同時に、メーター内の(ホワイト)が(ホワイト)に変わります。
再度ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

クルーズモードへの切換え

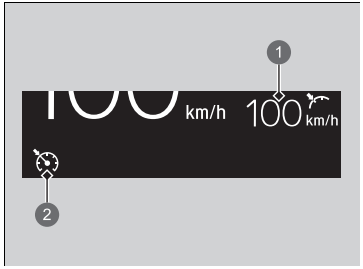
現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。
- 車速をセットしているとき
- スイッチが OFF のとき

クルーズモードへ切り換えた状態でもスイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、 RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを押します。
RES/+ スイッチまたは SET/– スイッチを離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに(グリーン)と設定車速が表示されます。

❶ 設定車速
❷ (グリーン)

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

次ページに続く

■車速を調節するには

RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/– スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：
自動定速走行を解除したあとでも、30km/h 以上の車速で走行中に RES/+ スイッチを押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

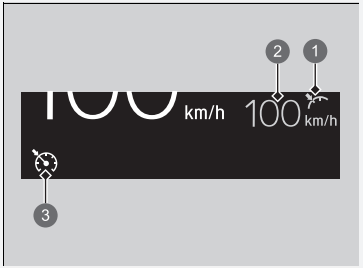
CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+ スイッチを押した場合、この車速で作動が開始されます。また、(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+ スイッチを押した場合は、SET/– スイッチと同様に現在の車速が設定されます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
- スイッチで OFF 操作をしたとき

次ページに続く

≫解除するには



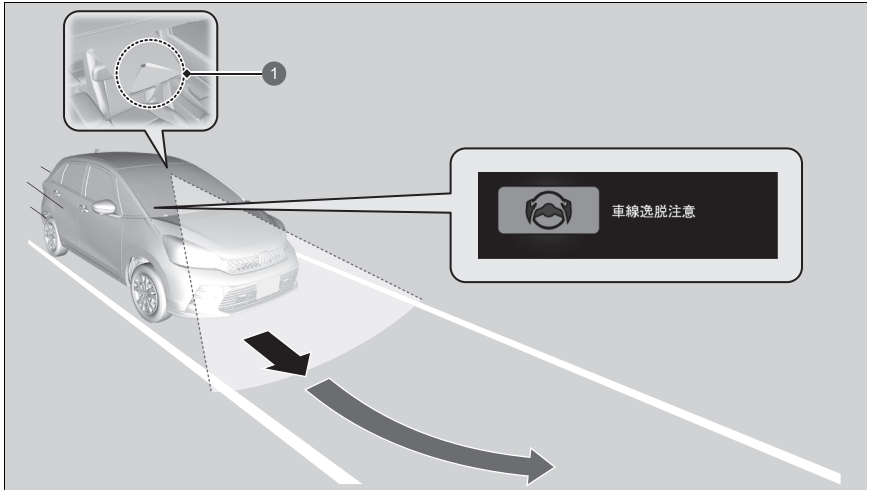
❶設定状態インジケーター（グレー）
❷解除前の設定車速（グレー）
❸(ホワイト)

車速が 25km/h 以下になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

次ページに続く

車線維持支援システム(LKAS)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

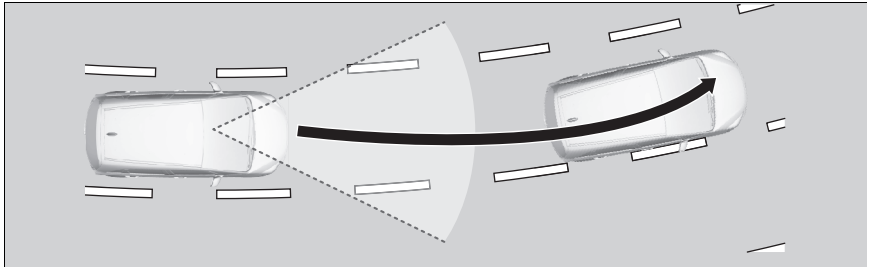
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知したときのみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

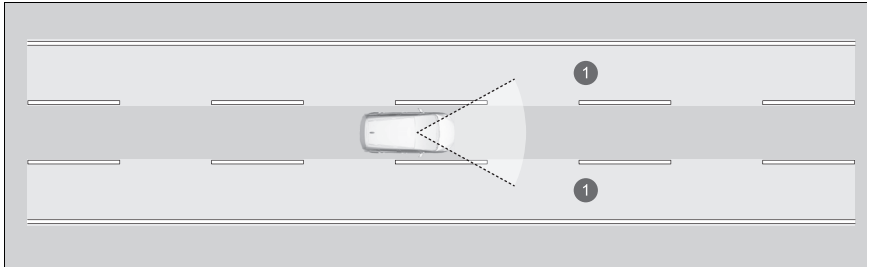
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



❶ 警報エリア

▶車線維持支援システム(LKAS)

LKASは、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKASは、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323

LKASは条件により正常に作動しない場合があります。
➔ **LKAS の条件と制限** P.299

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき
- 急ブレーキをかけていないとき

LKAS を作動させるには

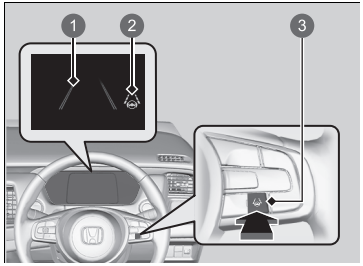
システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.299

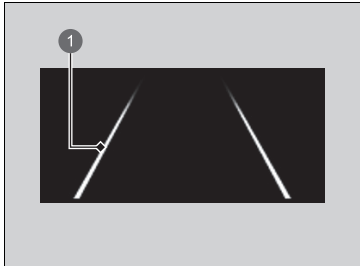
次ページに続く

■システムの作動方法



❶ 車線表示（二重線）
❷ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（グリーン）
❸ 車線維持支援システム（LKAS）スイッチ

1. LKAS スイッチを押す。
▶ LKAS が待機状態になります。メーターに車線表示（二重線）と LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。



❶ 車線表示（実線）

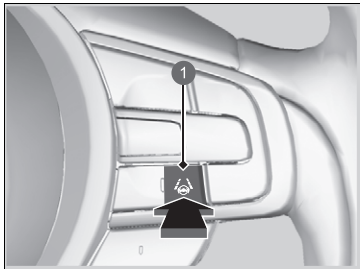
2. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。
▶ メーターに車線表示（実線）が点灯します。

LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

システムが作動可能状態のときにLKASスイッチを押すと、LKAS は待機状態にはならずに制御を開始します。

■解除するには



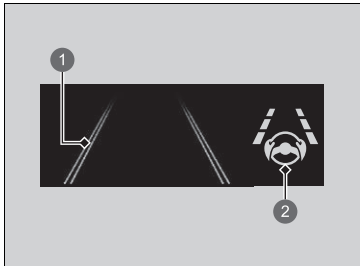
LKAS スイッチを押すと、LKAS が解除されます。
前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFFモードにする度にLKASはOFFになります。

❶ LKAS スイッチ

次ページに続く

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

次の場合、メーターに車線表示が二重線で表示され、LKAS が自動解除されます。



❶ 車線表示（二重線）
❷ LKAS 表示灯（グリーン）

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- ABS、VSA が作動しているとき
- 急ブレーキをかけたとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、メーターに車線表示が二重線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

≫LKAS が自動的に一時解除されるとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

運転

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

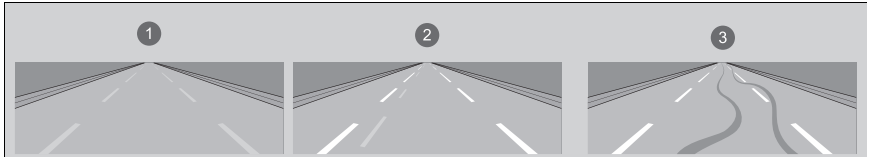
■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

次ページに続く

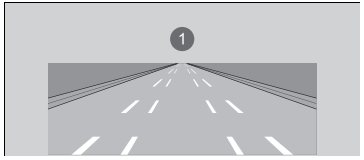
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



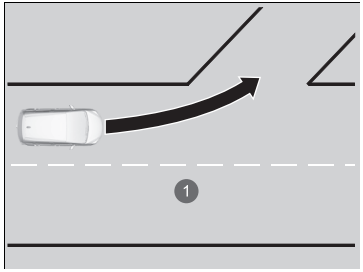
❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

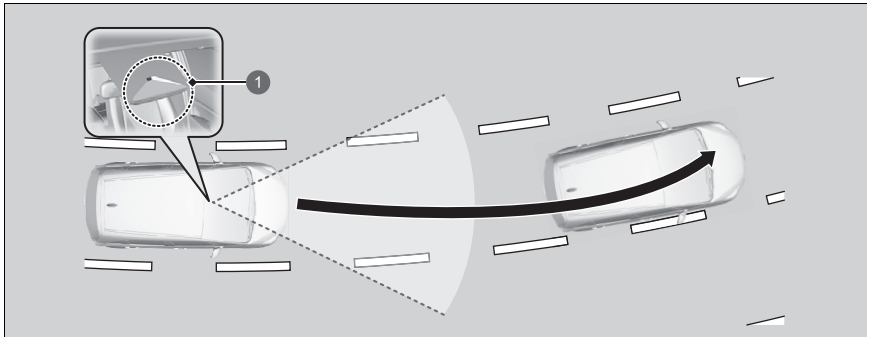
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

■トラフィックジャムアシストの作動

車線維持支援システム(LKAS)作動中の渋滞時に白線(黄線)を検知すると、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。



❶ フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとトラフィックジャムアシストが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行し白線(黄線)を検知すると機能が自動復帰します。

▨トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

⚠警告

トラフィックジャムアシストは補助機能として使用してください。トラフィックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

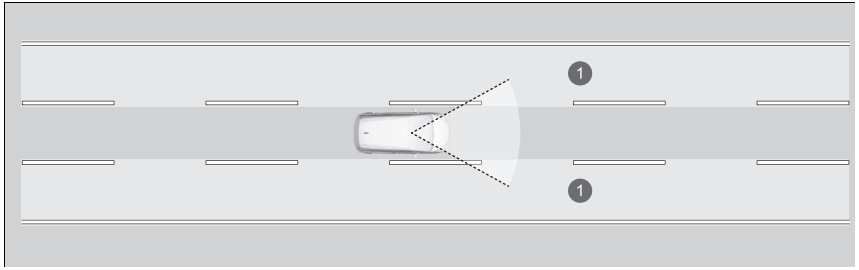
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323

次ページに続く

機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

■車線逸脱警報機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音とディスプレイ表示で行います。



❶ 警報エリア

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知したときのみ警告します。
トラフィックジャムアシストは、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが正しく機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

トラフィックジャムアシストは条件により正常に作動しない場合があります。

トラフィックジャムアシストの条件と制限
P.308

■トラフィックジャムアシストを作動させるには

トラフィックジャムアシストは、以下の条件で作動します。

- LKAS が ON のとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速が約 0 ～ 65km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ハンドル操作をしているとき
- シフトポジションが D または B のとき

下記の状況のときは、トラフィックジャムアシストを使用しないでください。

- 急カーブのある道のとき
  ▶ 道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
  ▶ タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

トラフィックジャムアシストを作動させるには

LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。

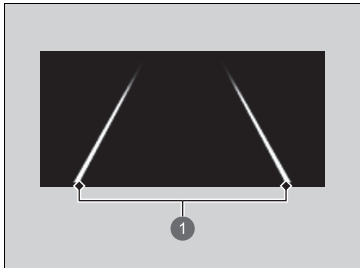
➡ **車線維持支援システム（LKAS）** P.293

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

➡ **各機能を作動させるためのスイッチと表示** P.232

次ページに続く

■トラフィックジャムアシストの作動方法



車線の中央付近を走行する。

▶両側の白線(黄線)を検知するとシステムが作動を開始します。

▶メーターに車線表示(実線)が点灯します。

❶ 車線表示(実線)

トラフィックジャムアシストの作動方法

トラフィックジャムアシストが作動しているときに、白線(黄線)の左右に寄って走行してしまう場合は、トラフィックジャムアシストを停止し、Honda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

トラフィックジャムアシストの条件と制限
P.308

作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ハンドルの操作量が少ない場合は下記の警告を表示します。



繰り返し上記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り作動が解除されます。

■解除するには

車線維持支援システム（LKAS）スイッチを押すとトラフィックジャムアシストが解除されます。

■トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ステアリングの操作量が少ないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 急ブレーキをかけたとき

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。

■トラフィックジャムアシストが自動的に解除されるとき

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

自動的に解除されると、メーターに車線表示が二重線で表示されて警報音が鳴ります。

» トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

マルチインフォメーションディスプレイ*/オーディオ / インフォメーション画面* のカスタマイズ機能「レーンキープアシストシステム制御解除警報音」で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➲ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■トラフィックジャムアシストの条件と制限

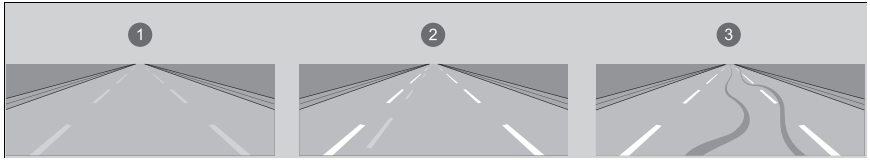
以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、トラフィックジャムアシストが正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短いときや交差点などで、車線や路面が見えないとき
- 強い光が路面に反射しているとき

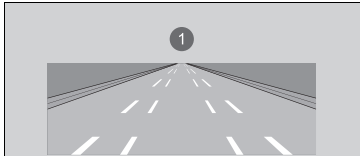
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

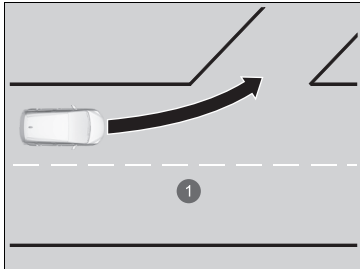
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

次ページに続く

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



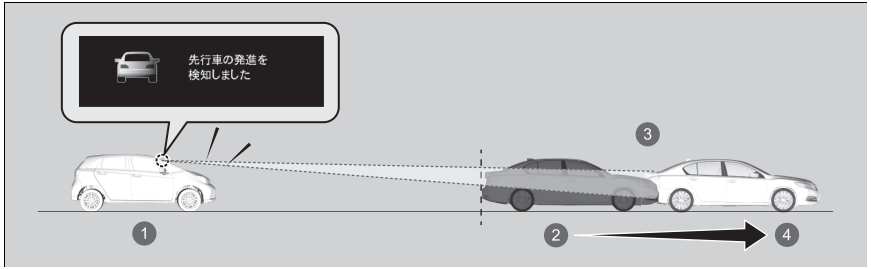
❶ 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



❶ 停止
❷ 停止
❸ 先行車
❹ 発進

≫先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.323

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがBの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、またはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

■シフトポジションがDの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているまたは渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動中で停車している。

■シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➲ 時計*/ 車両設定 P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

✣：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

⨠先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➲ 時計*/ 車両設定 P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

(オレンジ)が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➲ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) P.271

■システムの作動状態



システムが作動すると、警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

❶ 警告音

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

次ページに続く

■先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで先行車が片側点灯または無灯火のとき

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

■その他、作動できない事例

- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

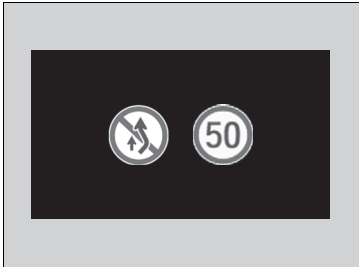
標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。



▨標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323

次ページに続く

標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。

≫標識認識機能

標識認識機能表示は、ON/OFF の設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

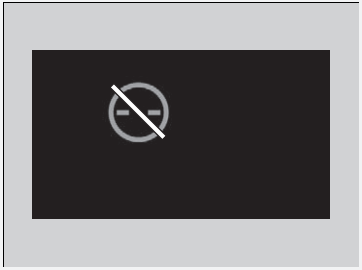
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はメーターに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識 (終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

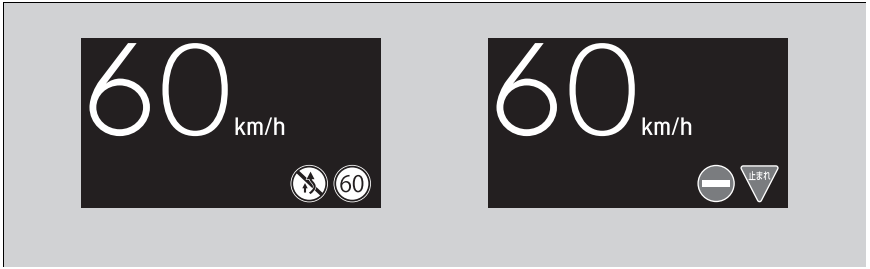
- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

次ページに続く

■メーターの表示

同時に2つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例

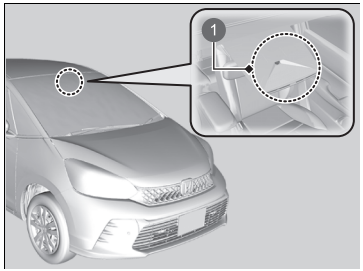


左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

メーターの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

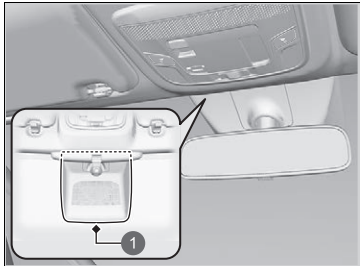
フロントワイドビューカメラ



❶ フロントワイドビューカメラ

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

フロントワイドビューカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
➡ **車内の清掃** P.402

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合はHonda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

次ページに続く

フロントワイドビューカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

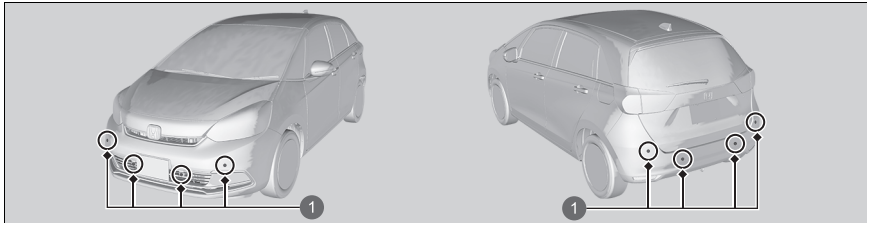
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できませんカメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合：

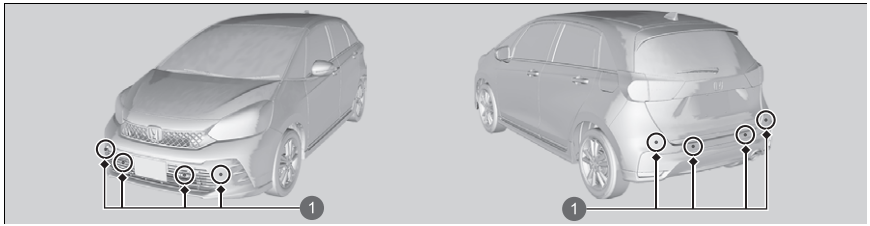
- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

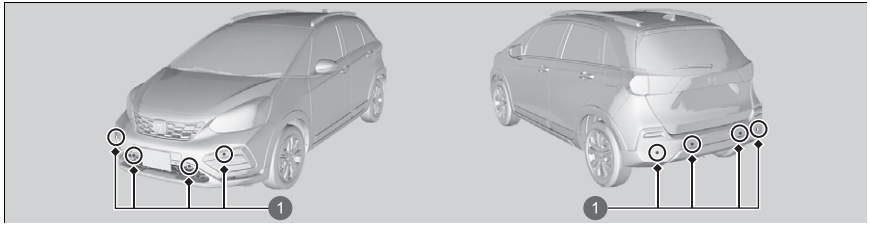
ソナーセンサー

■センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーはフロントバンパーおよびリヤバンパーに設置されています。







❶ ソナーセンサー

ソナーセンサー

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

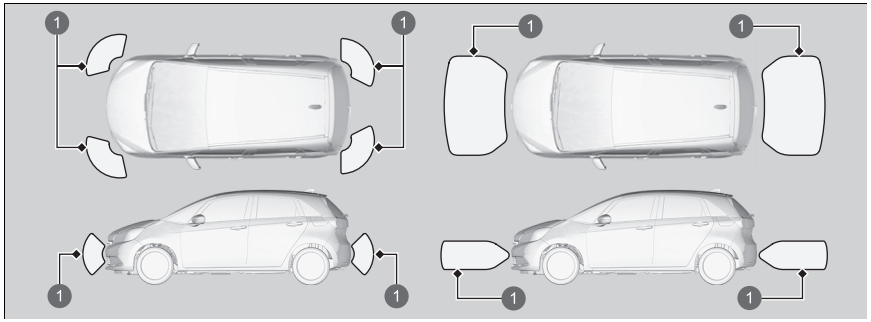
次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントバンパーおよびリヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

次ページに続く



❶ センサーの検知範囲

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。

»ブレーキ操作

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

»電子制御パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ 12V バッテリーがあがったとき P.433

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

次ページに続く



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。
   ▶パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

■自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき：
パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。
パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➡ **自動作動機能を ON/OFF するには** P.330

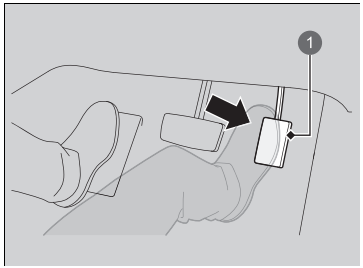
≫電子制御パーキングブレーキ

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- アイドリングストップ中を除き、渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



❶ アクセルペダル

アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが P 、 N 以外のとき

自動解除するとき

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- パワーシステム警告灯
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

次ページに続く

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードがONモードのときに以下の操作で ON と OFF を切り換えることができます。

1. シフトレバーを P に入れる。

2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。

3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
「ピーッ ピーッ ピーッ ・・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。

4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
▶ 自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
▶ 自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的に OFF することもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。

2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
▶ 自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
▶ 渋滞追従機能付 ACC およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能が OFF になっている状態で行ってください。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

≫電子制御パーキングブレーキ

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。
また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.338

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.336

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。

減速セレクター非装備車

アクセルペダルから足を離すと回生ブレーキが強くなります。

減速セレクター装備車

アクセルペダルから足を離し、減速セレクターを使用すると、回生ブレーキの強さが調整できます。

➔ **減速セレクター*** P.215

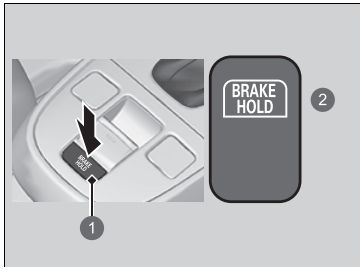
次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

▶▶オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

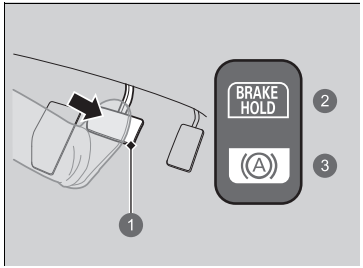
⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

■ブレーキを保持させるには



❶ ブレーキペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯点灯

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

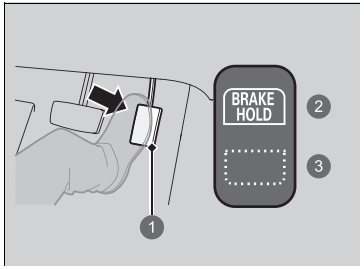
システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。
駐停車操作 P.340

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

次ページに続く

■車両を発進させるには



❶ アクセルペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

シフトポジションがP N以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

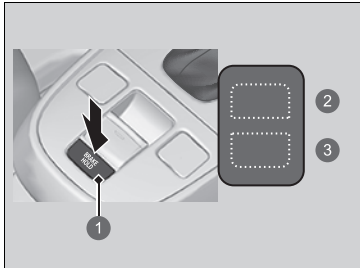
■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯消灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

オートマチックブレーキホールドシステム表示灯のみ点灯しているとき：

- オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
  ▶オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が同時に点灯しているとき：

- ブレーキペダルを踏みながら、オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
  ▶オートマチックブレーキホールドシステム表示灯およびオートマチックブレーキホールド表示灯が消灯します。

⊠機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転を心がけてください。

また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

ABS（アンチロックブレーキシステム）

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

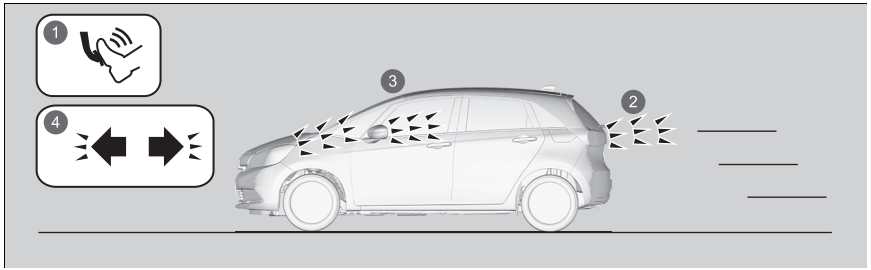
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.223

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



❶ 急ブレーキをかける
❷ 制動灯点灯
❸ 非常点滅表示灯が高速で点滅
❹ メーター内の方向指示器表示灯が左右同時に高速で点滅

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを[P]にする。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車操作

⚠注意

駐車時はパワーシステムを停止する。
万一、シフトポジションが[P][N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションが[P][N]以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

駐車する

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに P に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

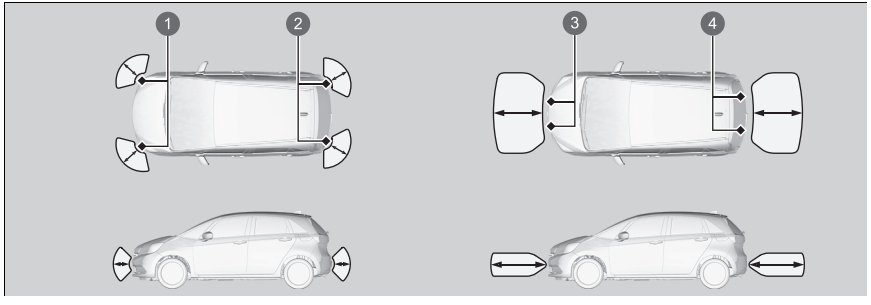
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイとオーディオ / インフォメーション画面* で知らせます。

➔ **ソナーセンサー** P.325

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



❶ フロントコーナーセンサー
❷ リヤコーナーセンサー
❸ フロントセンターセンサー
❹ リヤセンターセンサー

パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.96

➡ **安全支援情報** P.106

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P R 以外で、車速が8km/h 以下のとき障害物を検知します。

パーキングセンサーシステム

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動するおそれがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイ* またはオーディオ / インフォメーション画面* を使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.111

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

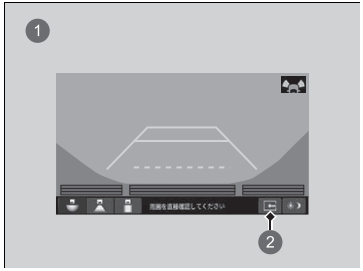
次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

■画面操作

マルチビューカメラシステム非装備車



❶ 通常表示
❷ アイコン



❶ 分割表示
❷ アイコン

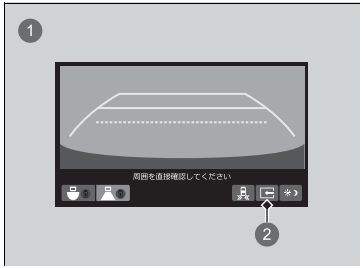
アイコンをタッチして、ディスプレイを通常表示または分割表示に切り換えることができます。

パーキングセンサーの ON と OFF

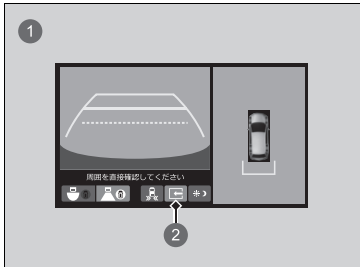
パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の近距離衝突軽減ブレーキが作動しません。

踏み間違い衝突軽減システム P.244

マルチビューカメラシステム装備車



❶ 通常表示
❷ アイコン



❶ 分割表示
❷ アイコン

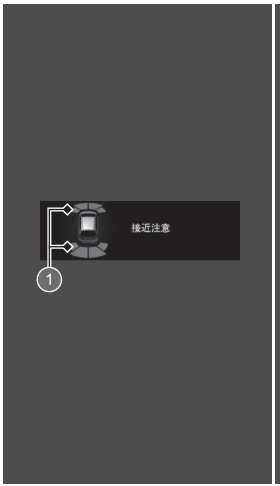
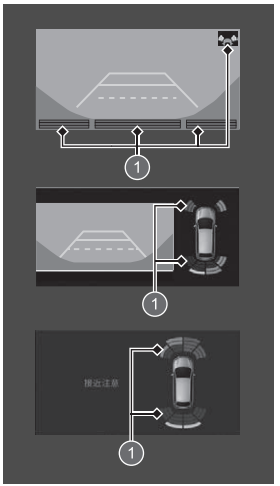
次ページに続く

■障害物を検知したときの作動状態

パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

▶ システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ	オーディオ / インフォメーション画面*
	コーナーセンサー	センターセンサー			
長い	—	約 110-60 cm	点灯(イエロー)※		
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点灯(オレンジ)		
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm			
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点灯(レッド)		

※：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

❶ 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警報音を一時的に OFF にするには、警報音がなっているときにレフトセレクターホイールを押してください。シフトポジションを切り換えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

後退出庫サポート*

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー側面にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

▶後退出庫サポート*

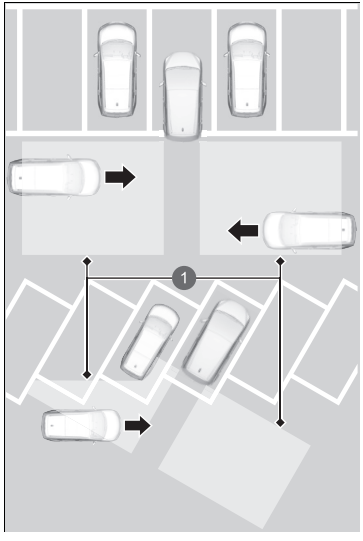
⚠注意

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。
状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■作動条件と作動タイミング



❶ 検知範囲

パワーモードがONモードでシフトポジションがRのときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約 5km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また、接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

⊠後退出庫サポート*

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がいないのに検知したりする場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。



❶ 接近方向矢印
❷ リアノーマルビュー+グラウンドビュー
❸ リアワイドビュー
❹ リアノーマルビュー

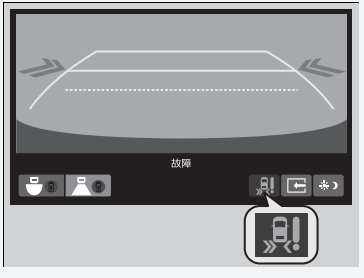
≫後退出庫サポート*

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

パーキングセンサーシステムが最短距離を検出しているときは、パーキングセンサーシステムのブザーが優先され、後退出庫サポートのブザーは鳴りません。

≫画面表示について

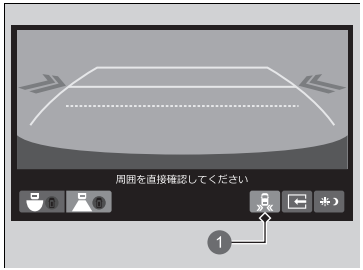
画面右下のアイコンが から (オレンジ)に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。



画面右下のアイコンが上記の表示に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■後退出庫サポートの ON と OFF



後退出庫サポートアイコンを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。
また、カスタマイズ機能を使用して、システムの作動 / 非作動を切り換えることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

❶ 後退出庫サポートアイコン

≫画面表示について

シフトポジションを R にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

リアワイドカメラシステム*

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マルチビューカメラシステム*

マルチビューカメラシステムは、運転席から死角となる部分を、オーディオ / インフォメーション画面に映る画像で確認するシステムです。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する
  見通しの悪い交差点で左右を確認するには P.362
- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  前方と前方側面の障害物を確認するには P.360
- 後方の障害物を確認する
  後方の障害物を確認するには P.364

マルチビューカメラシステム*

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■マルチビューカメラの画像を表示させるには



❶ CAMERAスイッチ

前方表示：

停車中または速度が 20km/h 以下のときに、CAMERAスイッチを押します。

CAMERAスイッチを押すと画像が切り換わります。

後方表示：

停車中にシフトポジションをRにします。

CAMERAスイッチを押すと画像が切り換わります。

表示設定はカスタマイズできます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

マルチビューカメラの画像を表示させるには

パーキングセンサーが障害物を検知すると、インジケーターが表示されます。
➡ **パーキングセンサーシステム** P.342

車両が後方から接近していることが検知されると、後退出庫サポートが警告します。
➡ **後退出庫サポート*** P.348

シフトポジションがRのときは、オーディオとナビゲーションシステムは操作できません。

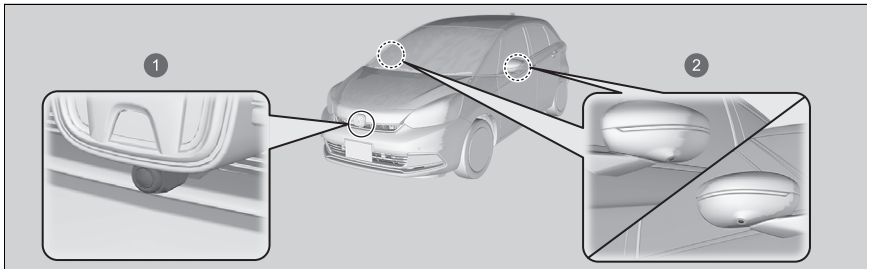
速度が25km/h以上のときにCAMERAスイッチを押すと、待機画面が表示されます。
速度が 20km/h 以下になると、画面がマルチビューカメラシステムの画像に切り換わります。

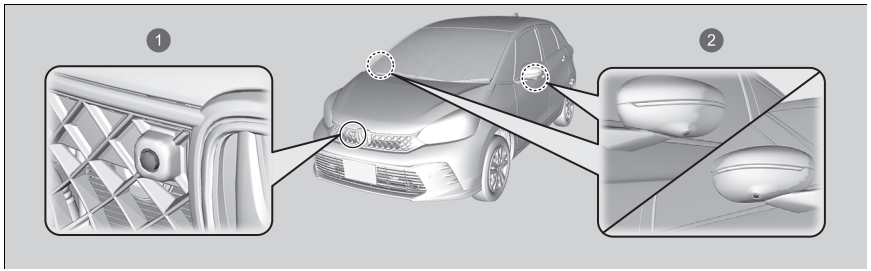
シフトポジションをRに入れたときに画面に後方の映像が表示されない場合は、システムの故障が考えられます。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

カメラ映像表示中に☼◑を選択すると画面の明るさを調整することができます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■カメラの設置場所と画像について

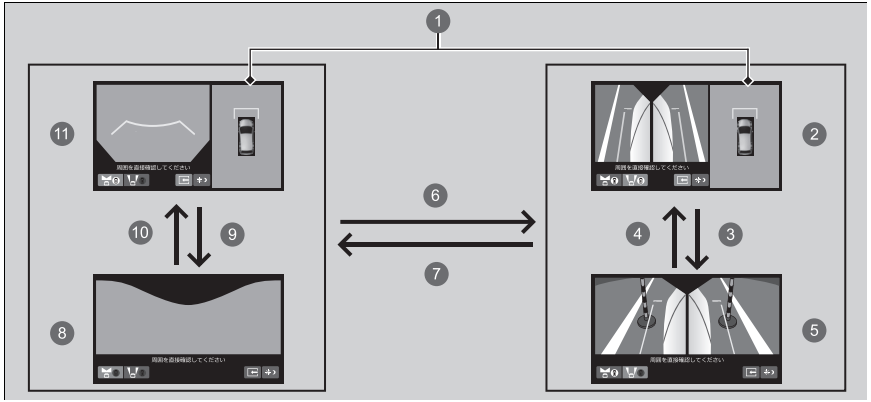




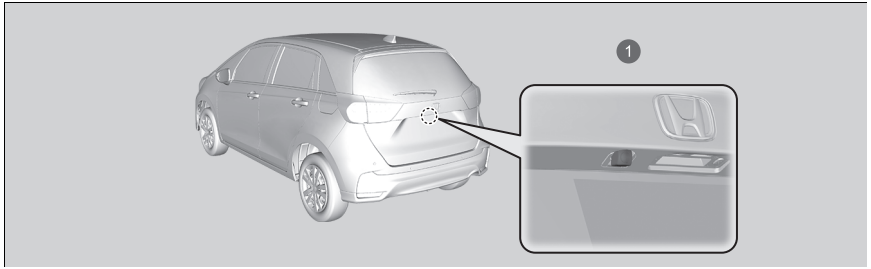
❶ フロントカメラ
❷ サイドカメラ

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

次ページに続く



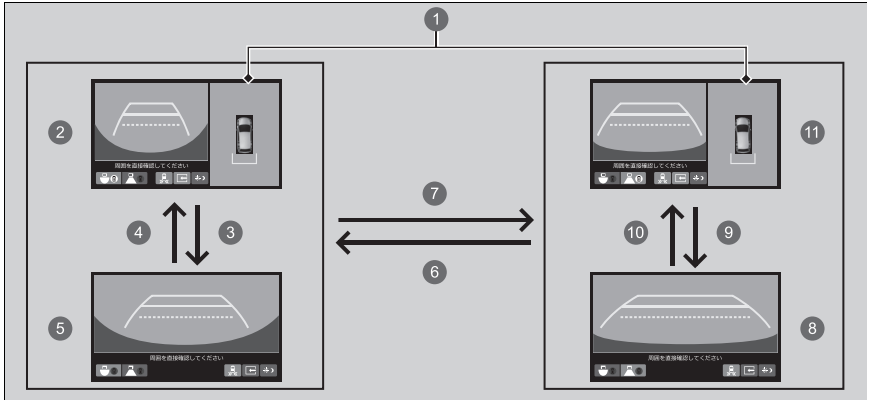
❶ グラウンドビュー：4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
❷ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
❸ or
❹ or
❺ 左右サイドビュー
❻ or or CAMERA スイッチ
❼ or
❽ フロントブラインドビュー
❾ or
❿ or
⓫ フロントビュー+ グラウンドビュー



❶ リアカメラ

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

次ページに続く



❶ グラウンドビュー：4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
❷ リアワイドビュー+ グラウンドビュー
❸ or
❹ or
❺ リアワイドビュー
❻ or or スイッチ
❼ or or スイッチ
❽ リアビュー
❾ or
❿ or
⓫ リアビュー+ グラウンドビュー

■目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。
目安ガイド線：車両からの距離を表示することができます。この距離は、実際の距離とは異なる場合があります。
予測ガイド線：ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

目安ガイド線と予測ガイド線表示

目安ガイド線および予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。
目安ガイド線および予測ガイド線はあくまでも参考としてお使いください。

目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示/ 非表示を切り換えることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

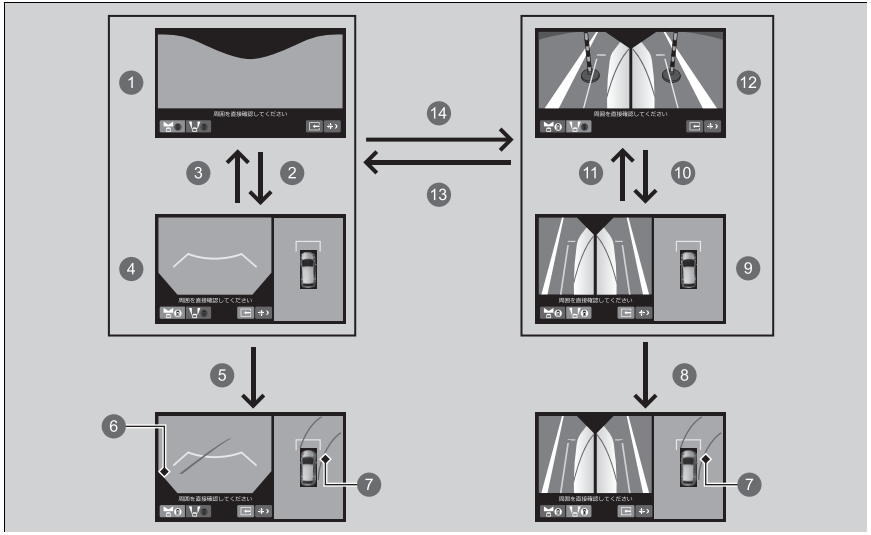
目安ガイド線および予測ガイド線を OFF にした場合、再度 ON にするまで OFF の状態が維持されます。

次ページに続く

■マルチビューカメラの使いかた

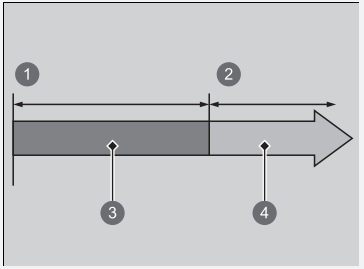
■前方と前方側面の障害物を確認するには

CAMERA スイッチを押すと前方画面表示が表示できます。車速が 20km/h 以下のときに CAMERA スイッチを押すと、画像が以下のように切り換わります。



▨前方と前方側面の障害物を確認するには

車速が 25km/h 以上になるとフロントビューまたはサイドビュー画面は自動的にオーディオ / インフォメーション画面に切り換わります。

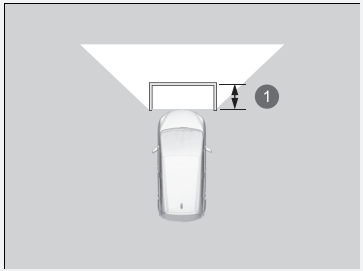


❶0 km/h
❷25 km/h
❸カメラ画面
❹オーディオ / インフォメーション画面

❶ フロントブラインドビュー
❷ or
❸ or
❹ フロントビュー+ グラウンドビュー
❺ ハンドルを 90 度以上切る
❻ 死角になる部分は黒く表示されます。
❼ 予測ガイド線は、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。
❽ ハンドルを 90 度以上切る
❾ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
❿ or
⓫ or
⓬ 左右サイドビュー
⓭ or
⓮ or or スイッチ

前方と前方側面の障害物を確認するには

ガイド線の距離は、おおよその距離です。

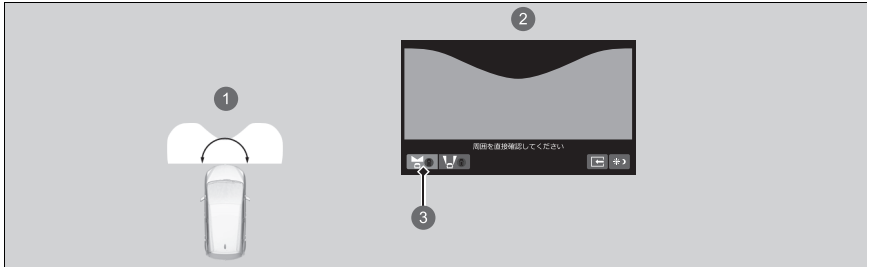


❶約 1m

次ページに続く

■見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は見通しの悪い交差点などで左右を確認する際に使用すると便利です。



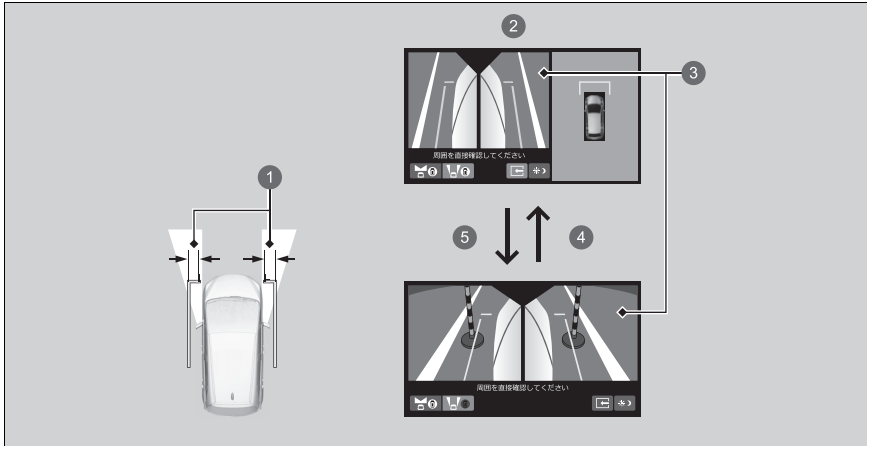
❶ フロントブラインドビュー画面に表示される範囲は 180 度です。
❷ フロントブラインドビュー
❸ カメラボタンとフロントビューアイコンに触れたとき。

≫見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は広い範囲を写すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

■前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビュー画面は路肩や料金所に幅寄せしたり、狭い道でのすれ違いの際に使用すると便利です。

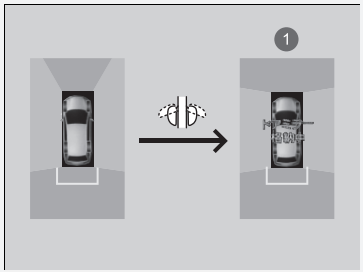


❶ 約 30cm
❷ サイドビュー画像
❸ サイドビュー：サイドカメラの画像です。
❹ or
❺ or

≫前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されます。ただし、ドアミラー格納中は表示エリアおよび死角が異なりますので注意してください。

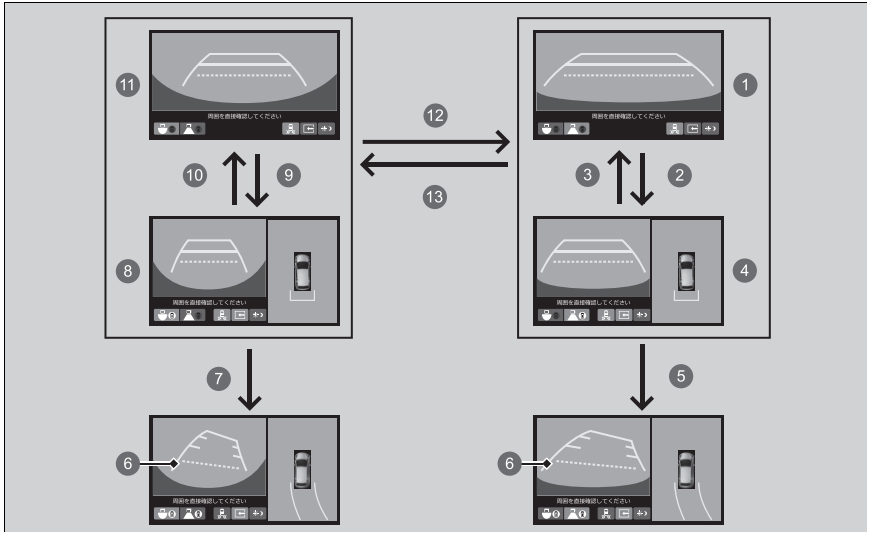


❶ 格納中の表示

次ページに続く

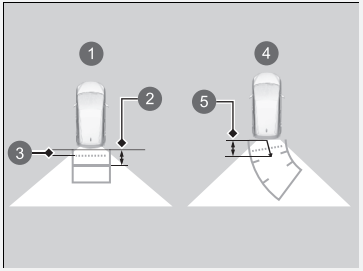
■後方の障害物を確認するには

シフトポジションを[R]にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。



≫後方の障害物を確認するには

シフトポジションを[R]に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。



おおよその距離

❶目安ガイド線の距離

❷約 1m

❸約 0.6m(テールゲートを開いたときの目安距離)

❹予測ガイド線の距離

❺約 1m

❶ リアビュー
❷  or
❸  or
❹ リアビュー+ グラウンドビュー
❺ ハンドルを 90 度以上切る
❻ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
❼ ハンドルを 90 度以上切る
❽ リアワイドビュー+ グラウンドビュー
❾  or
❿  or
⓫ リアワイドビュー
⓬  or or スイッチ
⓭  or or スイッチ

マルチビューカメラシステムの制限

次の状態では、システムは適切に働きません。

状態		対処のしかた
予測ガイド線が不正確		Honda 販売店で点検を受けてください。
カメラの画像が不鮮明	• 雨、霧、雪などの悪天候のとき、または周囲が暗い場合 • カメラが高温になった場合 • トンネルの出入り口などで明るさが変化した場合 • 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行する場合 • カメラのレンズに傷がついた場合	システムが適切に作動するまでマルチビューカメラシステムを使用せず、目視やミラーで直接周囲を確認してください。
	• カメラのレンズが汚れ、水滴、ちりなどでおおわれている場合 • 水滴や虫などがついた場合	レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどを含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
	• 画面が指紋などで汚れている場合	オーディオ / インフォメーション画面の汚れを柔らかい布で拭き取ってください。
カメラの位置がずれた	カメラもしくは、その周囲に強い衝撃が加わったことが考えられます。	マルチビューカメラシステムの使用をやめて、Honda 販売店にご相談ください。
マルチビューカメラシステムを使用中に画面にエラーメッセージが表示された		
20km/h 以下で走行中に、画面に映像が表示されない		

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量 40 リットル

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席ノブで運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
➔ **車内での施錠 / 解錠** P.134

次ページに続く

⩙指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。
- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

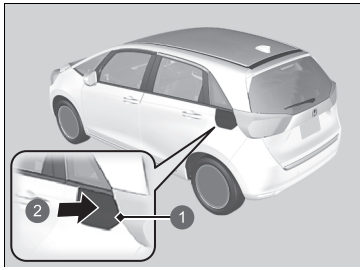
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

⩙給油のしかた

⚠警告

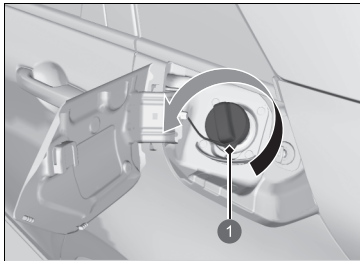
燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



❶ フューエルリッド
❷ 押す

4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。



❶ キャップ

5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

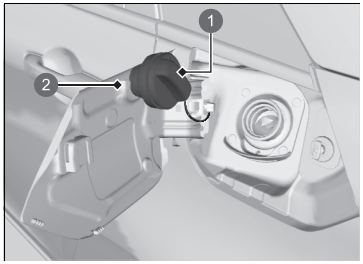
⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



❶ キャップ
❷ ホルダー

6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

⚠注意

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 371
- メンテナンスを安全に行うために 372
- メンテナンスに関する注意事項..... 372

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 373
- ボンネットを開ける..... 374
- 推奨エンジンオイル..... 376
- ウィンドーウォッシャー液の補給 377

電球の交換..... 378

ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 385

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 390
- タイヤとホイールの交換 394
- タイヤのローテーション 395
- 冬期のタイヤ 396

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 397

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 399

アンテナ
- マイクロアンテナ* 401

清掃
- 車内の清掃 402
- 車外の清掃 404

アクセサリーと改造 408

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

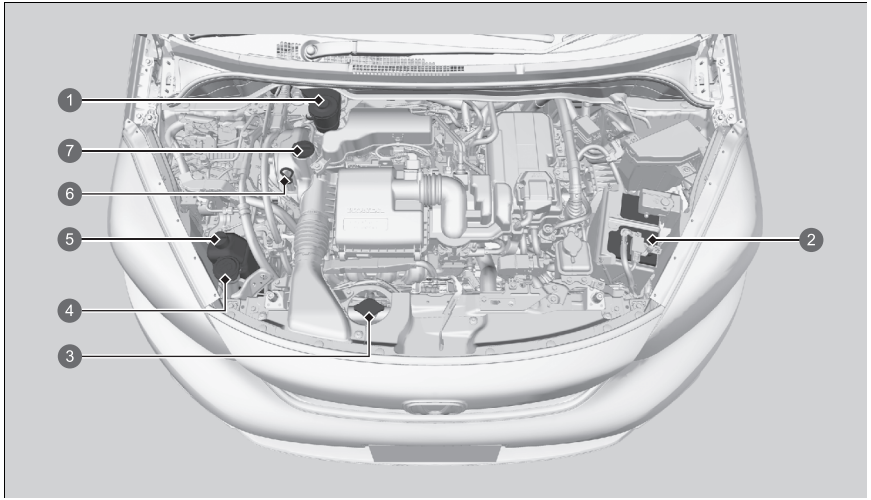
▩メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

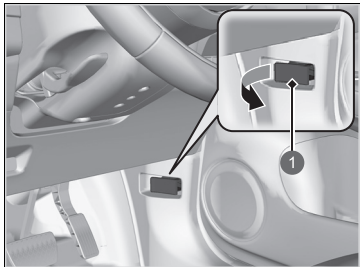
エンジンルーム内のメンテナンス項目



❶ ブレーキフルードリザーブタンク※
❷ 12V バッテリー※
❸ ラジエーターキャップ※
❹ ウィンドーウォッシャー液注入口
❺ 冷却水リザーブタンク※
❻ エンジンオイルレベルゲージ※
❼ エンジンオイル注入口※

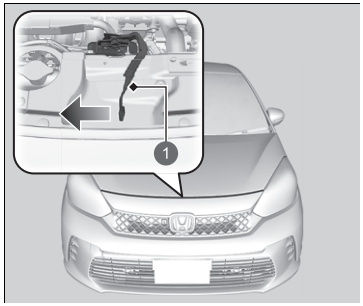
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



❶ ボンネット解除ノブ

1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



❶ レバー

3. ボンネット中央のレバーを左に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

▨ボンネットを開ける

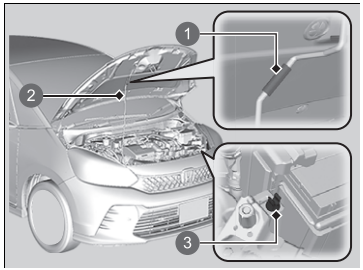
⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。



❶ グリップ
❷ ステー
❸ クランプ

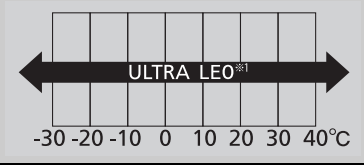
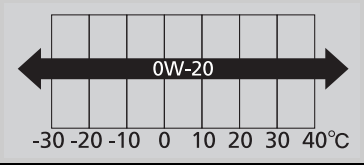
4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について以下の表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO※1	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル
	
外気温	外気温

※1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

▶推奨エンジンオイル

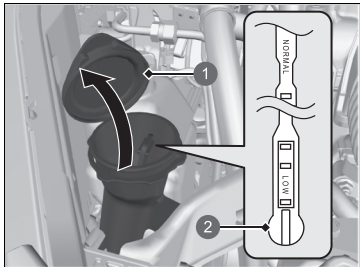
冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。



ウィンドーウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、ウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

❶ キャップ
❷ レベルゲージ

ウィンドーウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

車幅灯 / デイタイムランニングライト電球

車幅灯 / デイタイムランニングライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

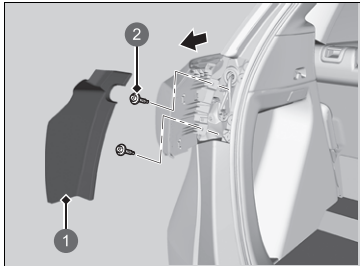
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯

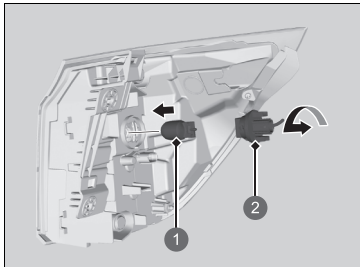
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 ：12V−21W（橙色）



❶ カバー
❷ ボルト

1. カバーを取り外す。
2. ボルトを外す。
3. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



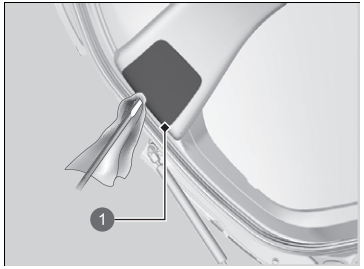
❶ 電球
❷ ソケット

4. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
5. 新しい電球を差し込む。

後退灯電球

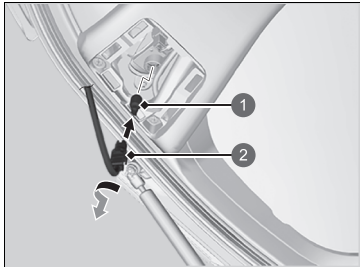
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯	：12V−16W



❶ リッド

1. リッドの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



❶ 電球
❷ ソケット

2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

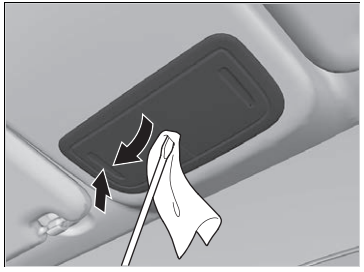
■マップランプ電球*

下記の電球をご使用ください。

マップランプ ：12V―8W

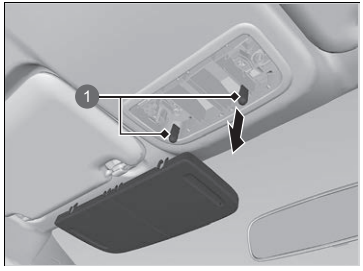
1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。



❶ 電球

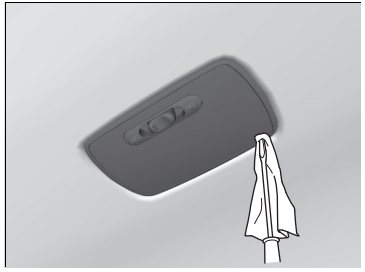
■室内灯電球*

下記の電球をご使用ください。

室内灯 ：12V―8W

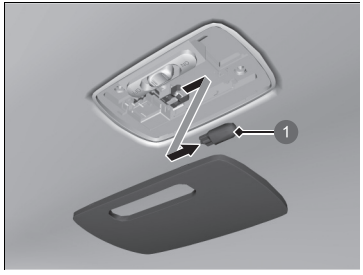
1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。



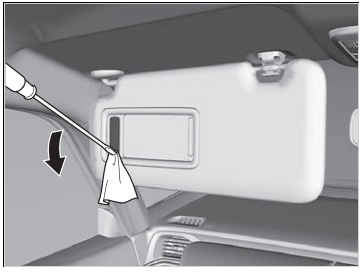
❶ 電球

■バニティミラー照明灯電球*

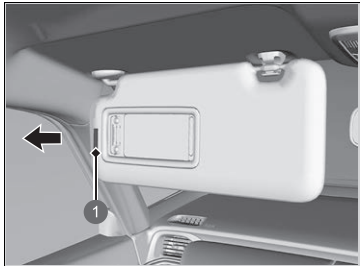
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯 ：12V−2W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。



❶ 電球

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

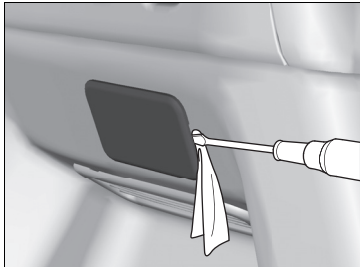
■カーゴスペース照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯	：12V−5W

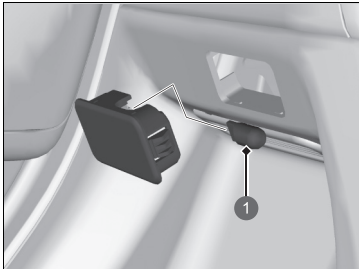
1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

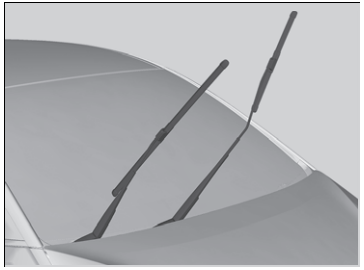


❶ 電球

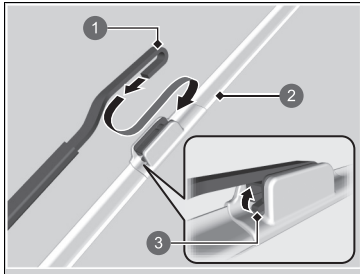
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。

❶ ワイパーアーム
❷ ブレード
❸ ノブ

次ページに続く

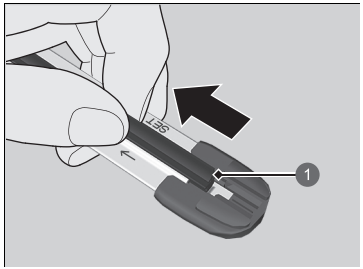
フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

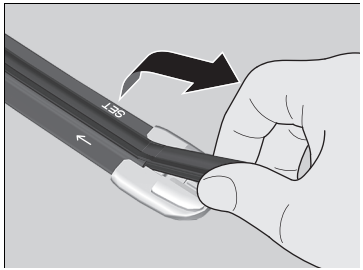
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

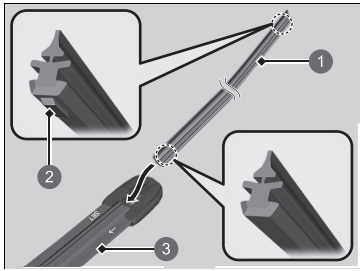
ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



❶ ラバー



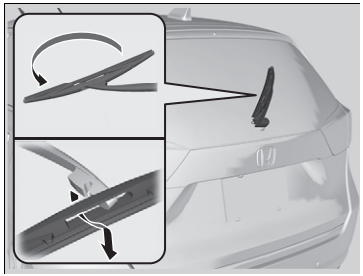
3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



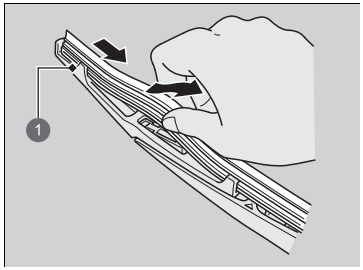
❶ ラバー
❷ 突起部
❸ ブレード

4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。
5. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

リヤワイパーブレードラバーの交換



1. ワイパーアームを起こす。
2. ワイパーブレードの底部を回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。

❶ ブレードのツメ

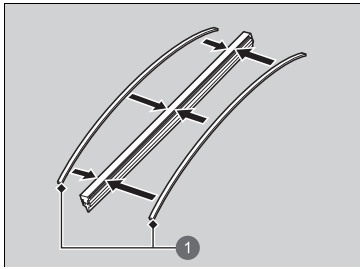
≫リヤワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

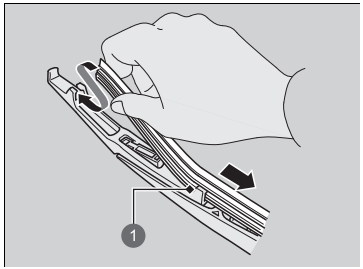
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



❶ リテーナー

5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。



❶ 中央のツメ

6. ブレード中央部のツメからラバーを挿入し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

▶タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

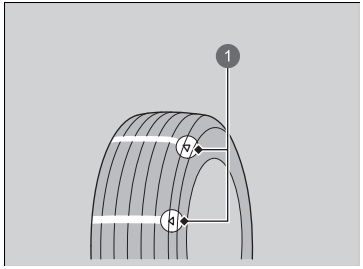
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ **資料** P.462

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



❶ ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

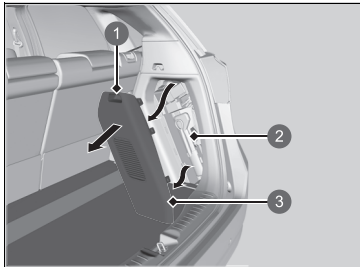
ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

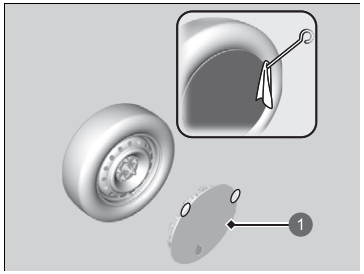
次ページに続く

■ホイールカバー* の脱着方法



❶ 取っ手
❷ 工具袋
❸ リッド

1. ジャッキハンドルバー(別売り)を取り出す。



❶ ホイールカバー

2. ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒の先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

▶ ホイールカバーが傷つかないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒に布などを巻き付けてください。

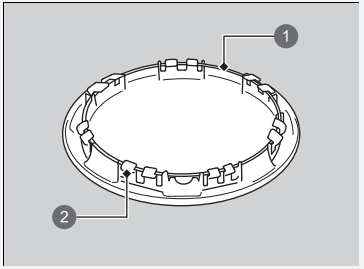
▶ 場所を変えて 2、3 カ所繰り返すと楽に外れます。

≫ホイールカバー* の脱着方法

⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

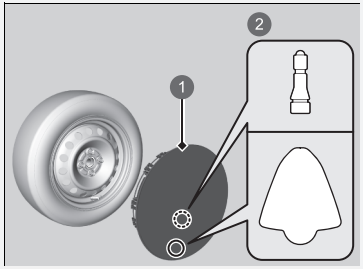
ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。
正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



❶ リング
❷ 爪

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ホイールカバー* の脱着方法



❶ホイールカバー
❷バルブマーク

ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

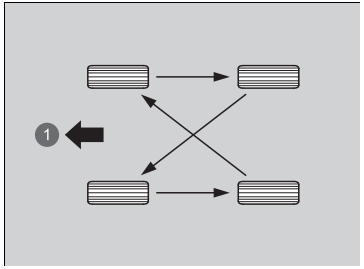
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

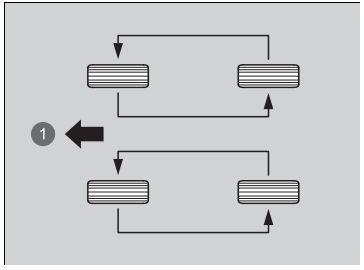
■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

■回転指示マークがあるタイヤの場合

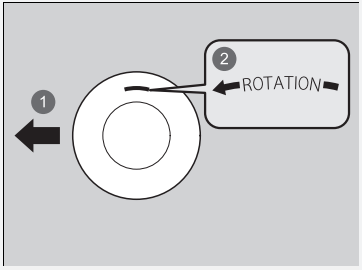


図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



❶ 前
❷ 回転指示マークの代表例

締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- タイヤチェーンの取扱説明書にしたがって、前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

メンテナンス

≫冬期のタイヤ

アドバイス

タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールを傷つけるおそれがあります。
サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。
電池切れの場合、急アクセル抑制機能* が起動しない場合があります。

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

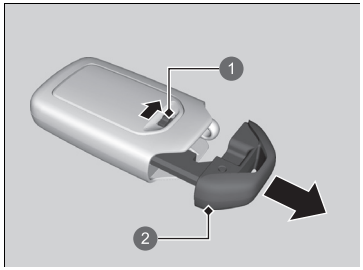
電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

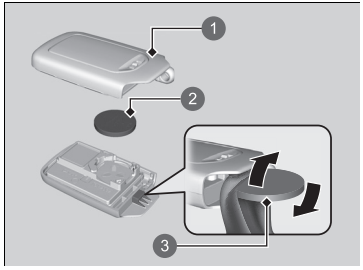
次ページに続く



❶ レバー
❷ 内蔵キー

ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



❶ カバー
❷ 電池
❸ コイン

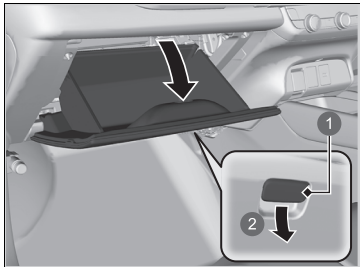
2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。
粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



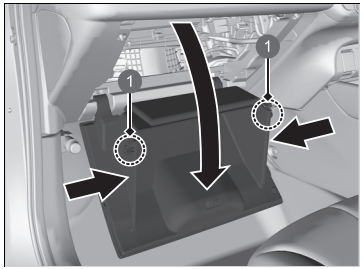
1. グローブボックスを開ける。

❶ ノブ
❷ 引く

エアクリーンフィルター

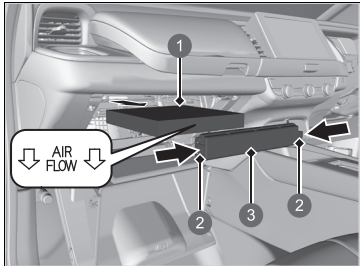
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

次ページに続く



❶ ストッパー

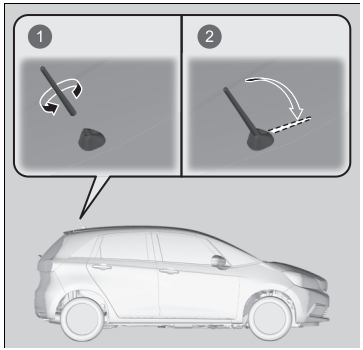
2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



❶ エアクリーンフィルター
❷ ツメ
❸ カバー

3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
4. エアクリーンフィルターを引き出す。
5. 新品と交換する。
▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

マイクロアンテナ*



❶ 取り外す
❷ 格納する

マイクロアンテナは格納、取り外しができます。
ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。

マイクロアンテナ*

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

≫車内の清掃

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■本革* のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■撥水加工された部分* のお手入れ

真水を含ませた布で汚れを落とします。その後、乾いたきれいな布で乾拭きを行ってください。洗剤を使用すると撥水効果が低下します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UV カット膜* や IR カット膜* を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

フロントワイドビューカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

➔ **フロントワイドビューカメラ** P.323

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

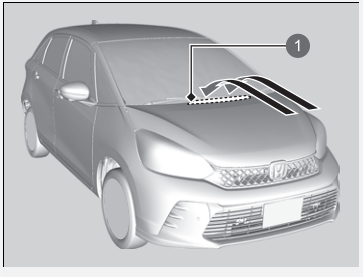
- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- マイクロアンテナ* を取り外す

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

車外の清掃

故意にエンジンルームや空気取り入れ口に水をかけないでください。
電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



1 空気取り入れ口

洗車するときは、運転席ドア（フューエルリッド）を施錠してください。
フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

洗車について

洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。
ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■アルミホイール* のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

▶▶アルミホイール* のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合はHonda販売店で点検を受けてください。

■親水ミラー* のお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

⨳親水ミラー* のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

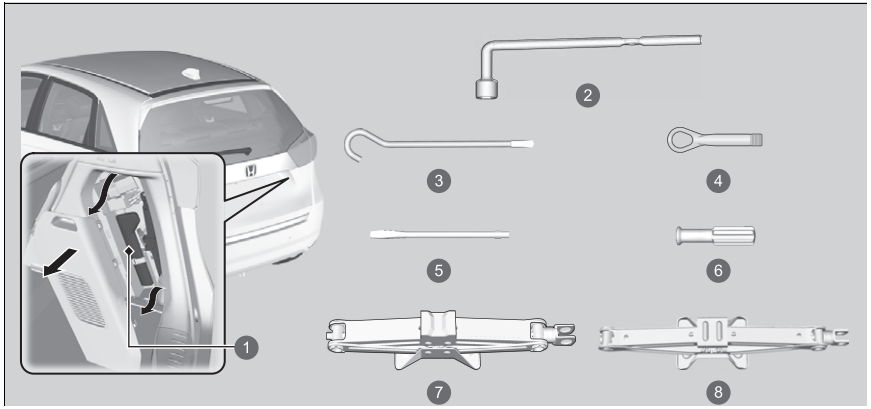
万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



工具、発炎筒 411
パンクしたとき 413
ジャッキの取り扱い
　ジャッキのかけかた 427
パワーシステムが起動しない
　パワーシステムの確認 430
12V バッテリーがあがったとき 433
シフトレバーが動かない 437
オーバーヒート 438
警告灯の点灯 / 点滅 441
ヒューズ
　ヒューズの設置場所 446
　ヒューズの点検と交換 453
けん引 454
フューエルリッドが解錠できないとき 456
テールゲートが開かないとき 457
緊急時や車両トラブルのとき 458

工具の種類



❶ 工具袋
❷ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❸ ジャッキハンドルバー（別売り）
❹ アイボルト
❺ マイナスドライバー
❻ グリップ
❼ ジャッキ（4WD 車）（別売り）
❽ ジャッキ（2WD 車）（別売り）

»工具の種類

工具はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

≫発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

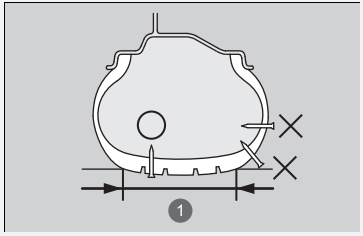
スペアタイヤの装備はありません。
タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトレバーを[P]に入れる。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



❶接地面

釘やネジなど	直径 4mm 以下 ○
	直径 4mm より大きい ×

- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

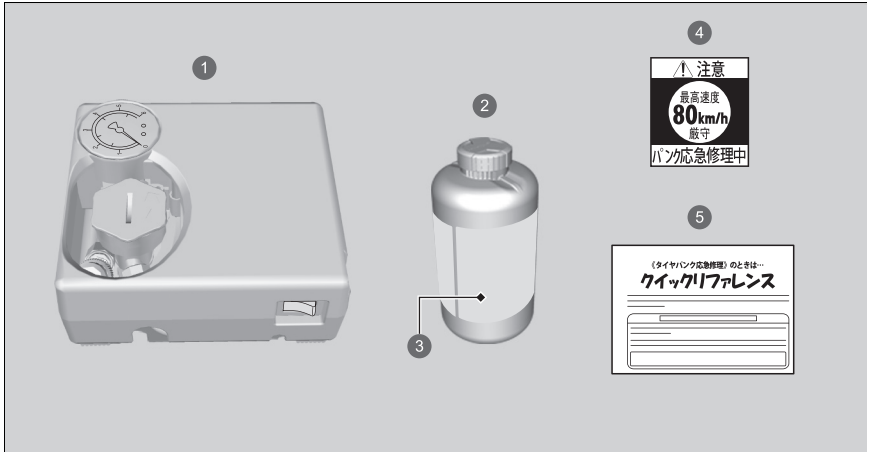
次ページに続く

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備

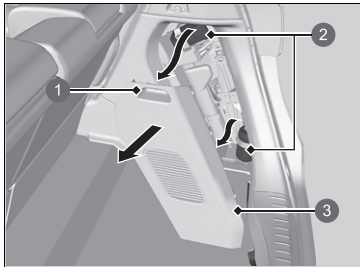


❶ エアコンプレッサー
❷ タイヤパンク応急修理剤
❸ 有効期限年月
　〇〇月 / 〇〇〇〇年
❹ 制限速度シール
❺ 説明書

▨タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

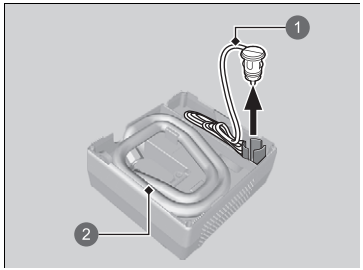
次ページに続く



❶ 取っ手
❷ タイヤパンク応急修理キット
❸ リッド

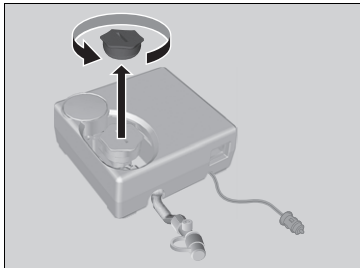
1. カーゴスペース右側の取っ手を引きながらリッドを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
2. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

■応急修理剤とエアの注入



❶ 電源コード
❷ エアコンプレッサーホース

1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。



2. エアコンプレッサーキャップを外す。

⩺応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

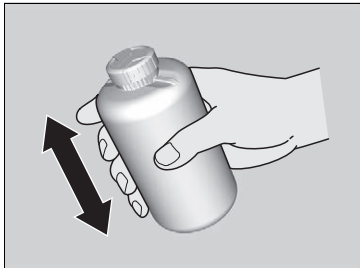
目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

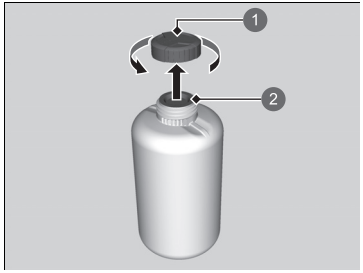
外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

次ページに続く



3. 応急修理剤のボトルをよく振る。



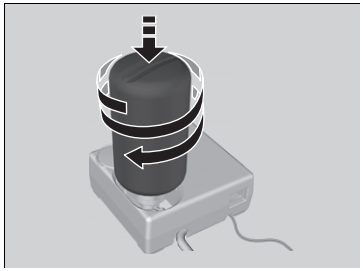
4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。

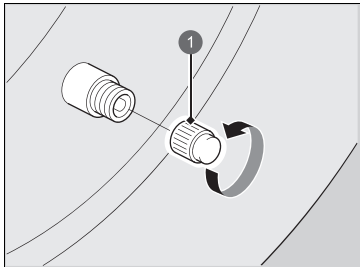
❶ キャップ
❷ 内ブタは外さずに

▶▶応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。





❶ バルブキャップ

5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ込んでください。

6. バルブからバルブキャップを取り外す。

応急修理剤とエアの注入

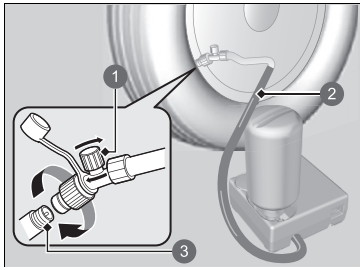
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

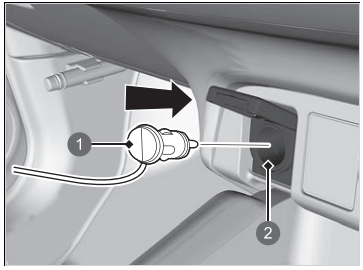
エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

次ページに続く



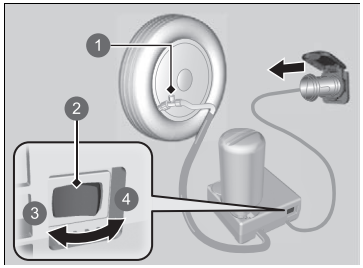
❶ 排気バルブ
❷ エアコンプレッサーホース
❸ バルブ

7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。
▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認してください。



❶ プラグ
❷ アクセサリーソケット

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.185
9. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.75



❶ 排気バルブ
❷ スイッチ
❸ OFF
❹ ON

10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧まで高める。

11. エアコンプレッサーのスイッチをOFFにする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取付ける。
▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。
▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

応急修理剤とエアの注入

エアコンプレッサーのスイッチをONにすると、振動して音が聞こえます。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

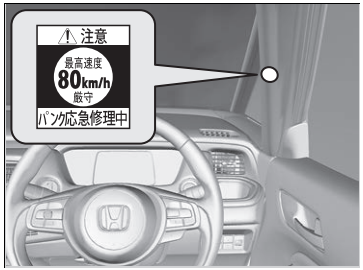
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

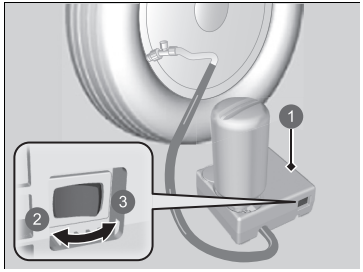
Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。10 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

次ページに続く

■点検走行





❶ エアコンプレッサー
❷ OFF
❸ ON

1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにエアコンプレッサーホースをきつく締め付ける。
5. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
▶ エアコンプレッサーのスイッチをONにしないでください。

≫点検走行

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
  応急修理剤では修理はできません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧の場合：応急修理は完了です。
- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合：エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

6. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。

7. キットを車両に戻す。

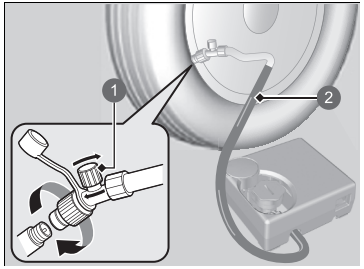
点検走行

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

次ページに続く

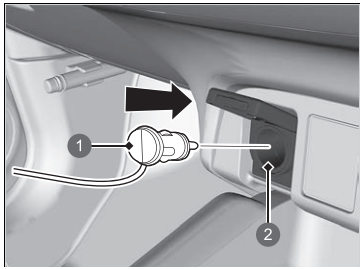
■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



❶ 排気バルブ
❷ エアコンプレッサーホース

1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーホースを確実に取り付ける。
   ▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。



❶ 電源プラグ
❷ アクセサリーソケット

5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.185
6. パワーシステムを起動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.75

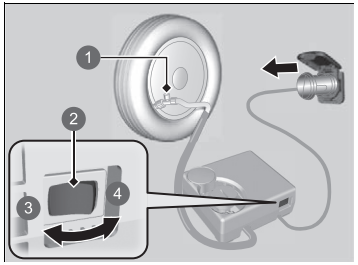
▶タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえます。



❶ 排気バルブ
❷ スイッチ
❸ OFF
❹ ON

7. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、指定の空気圧まで高める。
8. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。
9. パワーシステムを停止し、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. エアコンプレッサーホースを外す。

タイヤ空気圧の補充

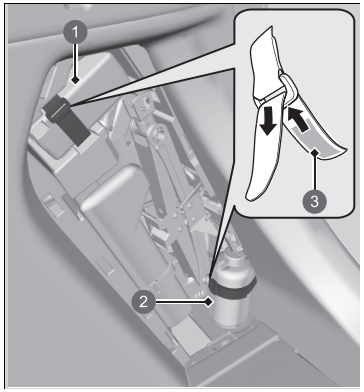
アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。10 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

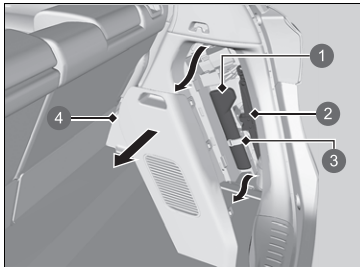
次ページに続く



❶ エアコンプレッサー
❷ 応急修理剤
❸ マジックファスナー

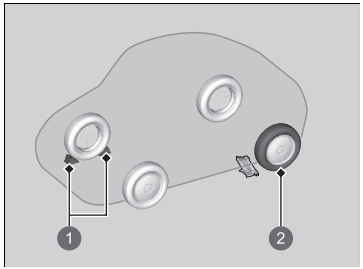
11.エアコンプレッサーをカーゴスペースに収納する。
▶ エアコンプレッサーと応急修理剤を収納するときは、図のようにベルトをマジックファスナーで固定します。

ジャッキのかけかた



❶ 工具袋
❷ ジャッキ(別売り)
❸ ベルト
❹ リッド

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトレバーを P に入れる。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. リッドを引いて取り外し、ジャッキ(別売り)をゆるめて外す。
6. ベルトを外し、工具袋を取り外す。



❶ 輪留め
❷ 交換タイヤ

7. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

次ページに続く

≫ジャッキのかけかた

⚠警告

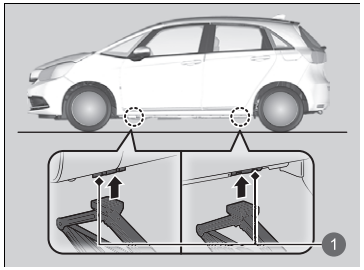
車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

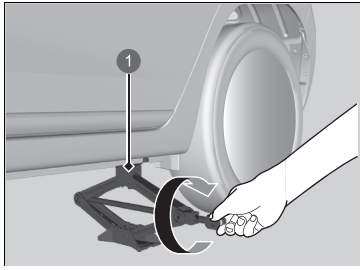
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



❶ ジャッキポイント

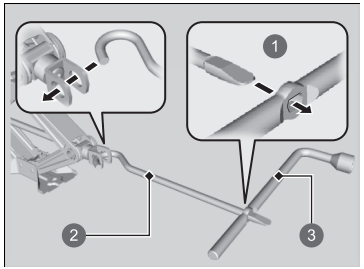
8. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



❶ ジャッキポイント

9. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



❶ 奥まで差し込む
❷ ジャッキハンドルバー(別売り)
❸ ジャッキハンドル(別売り)

10. ジャッキハンドル(別売り)とジャッキハンドルバー(別売り)を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

パワーシステムの確認

パワーシステムが起動しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯かメッセージが表示されるかどうかを確認する	「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されている	ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.431
	「外気温が低いために起動できません」のメッセージが表示されている	ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。
パワーシステム起動の手順を実行する		もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。 ➡ **パワーシステムの起動** P.205
セキュリティアラームシステム作動表示灯を確認する	セキュリティアラームシステム作動表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➡ **イモビライザーシステム** P.140 ➡ **イモビライザーシステム表示灯** P.88 ➡ **セキュリティアラームシステム作動表示灯*** P.88
ヒューズを点検する		全てのヒューズを確認してください。 ➡ **ヒューズの点検と交換** P.453

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

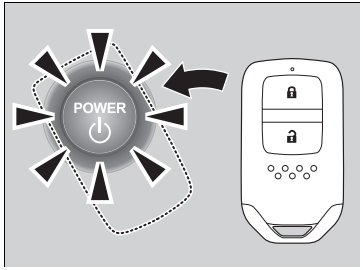
すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

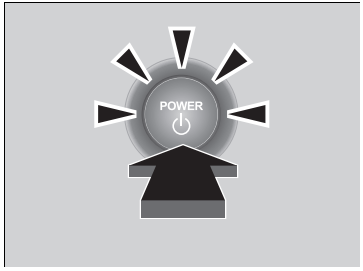
➡ **ジャンプスタートの方法** P.433

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、 POWER が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。





1. POWER を押す。
▶ ブザーが鳴り、 POWER が約 30 秒間点滅します。
2. POWER が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ ブザーが鳴り、 POWER が約 10 秒間点灯します。
3. POWER が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、
POWER を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER ボタンは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- POWER を約 2 秒間押す
- POWER を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. シフトレバーを P に入れる
2. ブレーキペダルを踏まずに POWER を 2 回連続して押す

≫緊急時のパワーシステム停止方法

アドバイス

緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。
走行中に POWER を押すとブザーが鳴ります。

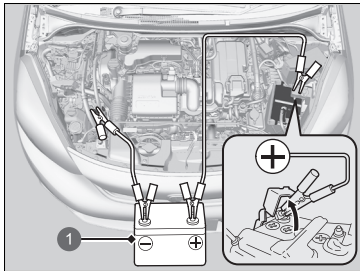
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



❶ 救援車のバッテリー

1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   - ▶救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   - ▶自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

次ページに続く

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

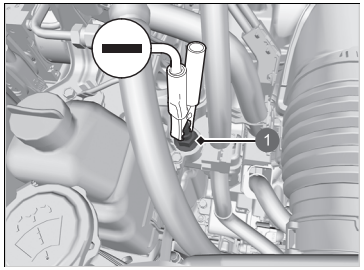
アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。

パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。



❶ スタッドボルト

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

ジャンプスタートの方法

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

次ページに続く

システム起動後の作業

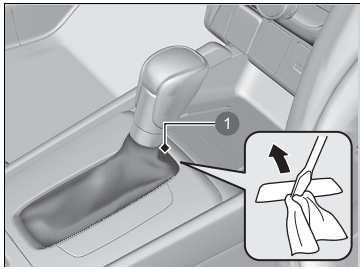
12V　バッテリーを外して再接続した後、POWER を押してパワーモードを ON にすると、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、VSA OFF警告灯が一時的に点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

シフトレバーが動かない

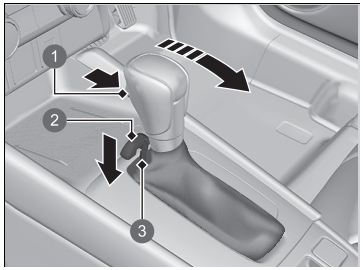
シフトレバーが、 P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



❶ カバー

1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。
▶ マイナスドライバーの先端を、図のように差し込んで外します。



❶ ボタン
❷ 内蔵キー
❸ シフトロック解除穴

4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらシフトレバーのボタンを押し、シフトレバーを N に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温　急発進・急加速・高速走行を避けてください」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」と表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温　急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示された場合、加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温　急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されたとき

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温　急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されます。

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。

▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示されたとき

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れます。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

▶ **蒸気が出ていない場合：** パワーシステムを起動させたままボンネットを開ける。

▶ **蒸気が出ている場合：** パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

オーバーヒートしたときの対処方法

アドバイス

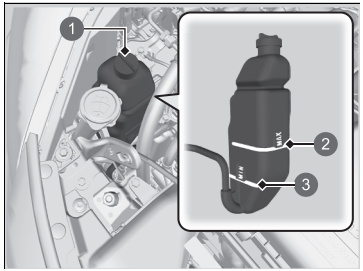
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温　急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されたとき

加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。

■次にすること



❶ リザーブタンク
❷ 上限
❸ 下限

1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- パワーシステムを起動しマルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」の表示が消えている場合は、運転を再開します。表示が残っているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。

2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止し、3 分間ほど放置する。

2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。

▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。

3. エンジンを始動する。

▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた：**運転を再開してください。

▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない：**パワーシステムを停止させ、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムまたはパワーシステムが異常のときに点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

- 燃料がなくなり、エンジンで発電できないときに点灯することがあります。その場合は給油してから、パワーモード ON、走行、パワーモード OFF を数回繰り返すと、警告灯は消灯します。警告灯が消灯しないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

≫12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

- 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

- パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

≫ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。

減速セレクター装備車

必要に応じて、回生ブレーキを用いて減速を手助けするために減速セレクターの[−]を引いてください。

減速セレクター非装備車

必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

➲ **ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した** P.445

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS システムが異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した


(オレンジ)


(レッド)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.327

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、シフトレバーを P にしてください。

- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

▨ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

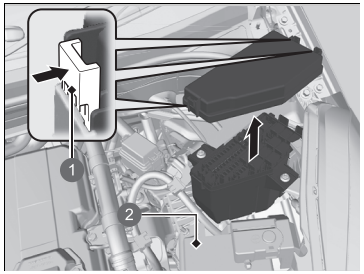
ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

電子制御パーキングブレーキを短時間にくり返し操作するとシステムの過熱防止のために作動が停止し警告灯が点滅します。
約 1 分経過すると元に戻ります。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



❶ タブ
❷ 12V バッテリー

■メインヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いている 12V バッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

≫エンジンルーム内のヒューズボックス

メインヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ワイパー	30A
2	—	—	—
3		非常点滅表示灯	10A
4		制動灯	10A
5		PCU EWP	15A
6		EVTC	(20A)
7		IMG	10A
8		IGP	15A
9		イグニッション コイル	(15A)
10		ドライブバイワイヤ	15A
11		ABS/VSA モーター	40A
12		冷却ファン	30A
13	—	—	—
14		ウォーターポンプ	30A
15		バッテリーセンサー	7.5A
16	—	—	—
17		バックアップ	10A
18		ホーン	10A
19		サブオーディオ*	(7.5A)
20		—	(10A)

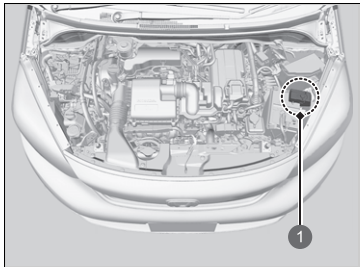
	表示	装備	容量
21		バックアップ	(15A)
22		バックアップ	10A
23		サブファン	(30A)
24		ABS/VSA FSR	40A
25		IGP2 サブ	7.5A
26		LAF	10A
27	—	—	—
28	—	—	—
29	—	—	—
30	—	—	—
31	—	—	—
32	—	—	—
33	—	—	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■サブヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いている、12Vバッテリーの⊕端子の隣にあります。



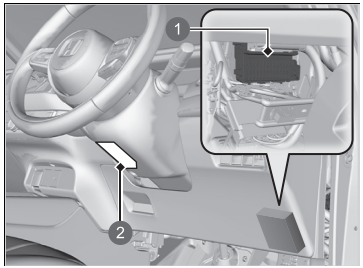
❶ ヒューズボックス

このヒューズの交換については、Honda 販売店にお問い合わせください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
a		バッテリーメイン	170A
b		バッテリーメイン（ファン）	60A
c		バッテリーメイン（エンジン）	80A
d		バッテリーメイン（サブヒューズボックス）	60A
e		EPS	70A
f		電動サーボブレーキ	40A

■室内運転席側のヒューズボックス



ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

❶ メインヒューズボックス
❷ ヒューズラベル

≫室内運転席側のヒューズボックス

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

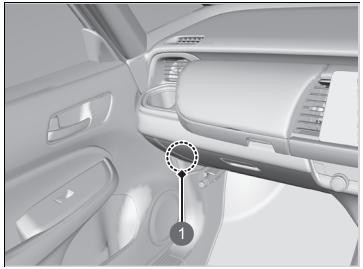
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示		装備	容量
1		ACC	7.5A
2		ACC キーロック	7.5A
3	—	—	—
4	—	—	—
5		オプション	10A
6		オプション 2	10A
7		メーター	10A
8		フューエルポンプ	15A
9		エアコンディショナー	10A
10	—	—	—
11		MON	5A
12		右側ドアロック	10A
13		左側ドアアンロック	10A
14	RR L	後席左側 パワーウインドー	20A
15	AS	助手席 パワーウインドー	20A
16		ドアロック	20A
17		トランスミッション	(10A)
18	—	—	—
19		—	(20A)
20		スターター	7.5A
21		ACG	10A
22		デイタイムランニング ライト	(7.5A)
23		—	(10A)
24		オプション	7.5A
25		—	(10A)
26		右側ドアアンロック	10A
27	RR R	後席右側 パワーウインドー	20A
28	DR	運転席 パワーウインドー	20A
29		フロント アクセサリーソケット	(20A)
30		Honda スマートキー システム	(10A)
31		USB チャージャー*	(10A)
32		シートヒーター*	(20A)
33	—	—	—
34		ABS/VSA	10A
35		SRS エアバッグシステム	10A
36	—	—	—
37		—	(10A)
38		左側ドアロック	10A
39		—	(10A)

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■室内助手席側のヒューズボックス

1 番のヒューズのみヒューズボックス側面にあります。



❶ ヒューズボックス

このヒューズの交換については、Honda 販売店にお問い合わせください。

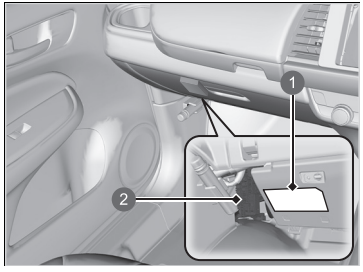
室内助手席側のヒューズボックス

アンダーカバーに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

1 番のヒューズ以外は発炎筒の上側にあります。



❶ ヒューズラベル
❷ 2 ～ 25

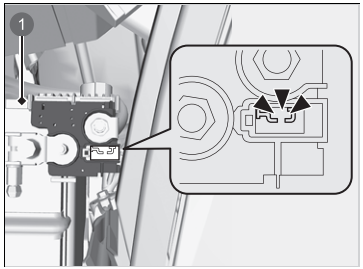
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		ヒューズボックス（メイン）	60A
2		イグニッション（メイン）	30A
3		イグニッション（メイン 2）	30A
4		リレーモジュール 1	30A
5		リレーモジュール 2	30A
6		ヒューズボックス（メイン 2）	(40A)
7		ヒューズボックス（メイン 3）	(40A)
8		A/C PTC 1*	(40A)
9	—	—	—
10	—	—	—
11		A/C PTC 2*	(40A)
12		ヒーターモーター	30A
13		リヤデフロスター	(30A)
14		SRS エアバッグシステム	10A
15		IGB	(10A)
16		IGA	(10A)
17		Honda スマートキーシステム	(10A)
18		—	(20A)
19		フロントデアイサー*	(10A)
20		—	(20A)
21		ウォッシャー	15A
22		ヒーテッドステアリング*	(15A)
23		IGA 2	(15A)
24		ヒーテッドドアミラー*	(10A)
25	—	—	—

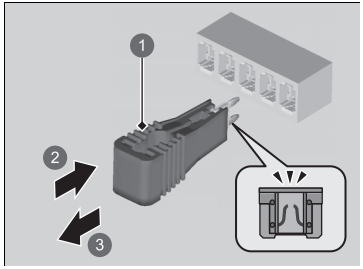
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換



❶ 12V バッテリー

1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. 12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。



❶ ヒューズプラー
❷ 取り付ける
❸ 外す

4. エンジンルーム内のメインヒューズボックスのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。
6. 室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

≫ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
➡ **各ヒューズの装備と容量** P.447

エンジンルーム内のメインヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

2WD 車

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

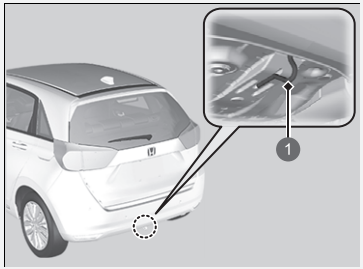
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.327

2WD 車

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

非常時のけん引

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。



❶フック

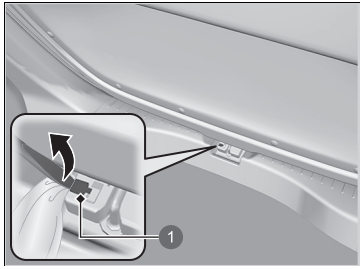
フューエルリッドが解錠できないとき

■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、お客様による対処はできません。
Honda 販売店にご相談ください。

■開かないときの対処方法

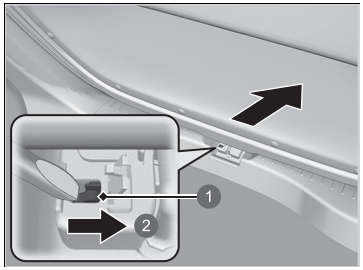
万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



❶ リッド

1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。

▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



❶ レバー
❷ 解錠

2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

≫開かないときの対処方法

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

緊急通報*

緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

緊急通報*

ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

緊急通報はパワーモードがONモードのときに利用可能です。

オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。
オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

緊急通報*

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

次ページに続く

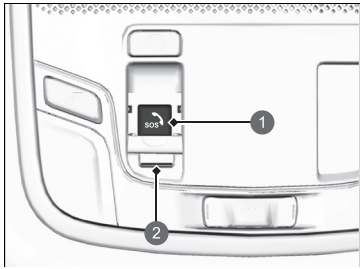
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報(場所、車両の状態など)がオペレーターに送信されます。

■手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



❶ 緊急通報ボタン(カバー付き)
❷ インジケーター

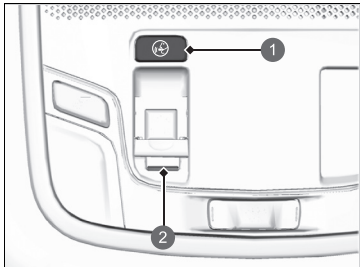
1. 緊急通報ボタンのカバーを開ける。
2. 緊急通報ボタンを押す。
▶ オペレーターに接続されます。
▶ オペレーターに接続中はインジケーターが緑色に点滅します。

≫自動通報機能

エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

トラブルサポート*

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときに HondaTotal Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



❶ トラブルサポートボタン
❷ インジケーター

パワーモードがONモードのときにトラブルサポートボタンを押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。

▶ 接続中はインジケーターが緑色に点滅します。
▶ 再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

トラブルサポート*

ご利用には、Honda Total Careプレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様 463
オープンソースライセンス 464

仕様

■仕様

名称	フィット
排気量	1,496 cm³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	5 名

■点火プラグ

NGK	DILZKAR7C11H

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	9.0-17.5mm
	床板とのすき間	90.3mm 以上※1 88.4mm 以上※2 [約 196N (20kgf) の力]

※1 ： RS エンブレム非装備車
※2 ： RS エンブレム装備車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン
	レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	40 L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	32AH(5), 40AH(20)/44B19L

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0 L

■電球

ヘッドライト (ハイ / ロービーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯 / デイタイムランニングライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W 橙色 (WY21W)
後退灯	12V-16W (W16W)
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
室内灯	12V-8W※1 LED※2
マップランプ	12V-8W※1 LED※2
カーゴスペース照明灯	12V-5W
バニティミラー照明灯*	12V-2W

※1 ： 緊急通報ボタン非装備車
※2 ： 緊急通報ボタン装備車

■デファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 L (交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF DW-1	
規定量	2WD 車	1.8 L (交換時)
	4WD 車	2.3 L (交換時)

■エンジンオイル

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・API SN 級以上 0W-20	
規定量	オイル交換時	2.9 L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.1 L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.85 L (交換時 : リザーブタンク 0.45 L 含む)

■タイヤ

サイズ※1	185/60R15 84H	
	185/60R15 88H	
	185/55R16 83V	
	185/60R16 86H	
空気圧 kPa (kgf/cm²)	前輪	220 (2.2)※5 240 (2.4)※2, ※3, ※4
	後輪	210 (2.1)※5 230 (2.3)※2, ※3, ※4
リムサイズ	15×6J※2, ※3	
	16×6J※4, ※5	

※1 ： タイヤの指定サイズは、運転席横の車体に貼ってあるラベルをご覧ください。
※2 ： 185/60R15 84H タイヤ装着車
※3 ： 185/60R15 88H タイヤ装着車
※4 ： 185/55R16 83V タイヤ装着車
※5 ： 185/60R16 86H タイヤ装着車

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オープンソースライセンス

TCU オープンソースライセンス✤

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software (FOSS) を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/

マルチビューカメラシステムオープンソースライセンス✤

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software(FOSS) を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
http://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

数字

12Vバッテリーがあがったとき 433
12Vバッテリー充電警告灯 80, 442
4WD(四輪駆動機構) 226

A

A/C(エアコン) 194, 399
ABS(アンチロックブレーキシステム)
ABS警告灯 81, 336
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)
ACC警告灯 83
ACC表示灯 90

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 234

E

e:HEV 6
ECONスイッチ 218
ECONモード 220
ECOスコア 117
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 83, 444
EV表示灯 90

H

Honda SENSING 20, 231
Honda Total Careプレミアム 5
Hondaスマートキー 124, 125
Hondaスマートキー持ち去り警告 149
緊急時のパワーシステム停止方法 432
電池交換 397

I

ISOFIX/i-Size 69

L

LKAS(車線維持支援システム) 293
LKAS警告灯 83
LKAS表示灯 90

M

MIST 158

N

NORMALモード 220

P

PGM-FI警告灯 80, 442
POWERスイッチ 147

R

READY表示灯 90

S

SPORTモード 220
SRSエアバッグ 49
エアバッグシステム警告灯 57, 82

U

USBジャック 186

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 223
VSA OFF警告灯 82, 224
VSA警告灯 82, 223

W

W(ワット)数 463

ア

アームレスト 176
フロントシート 176
リヤシート 176
明るさ設定 109
アクセサリー 408

アクセサリーソケット 185
アジャイルハンドリングアシスト 225
安全支援情報 106
安全支援情報警告灯(オレンジ) 85, 86
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) 91
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ) 84
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー) 91
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) 84
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 84
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 91
安全に関する表示 27
安全のための確認事項 33
アンチロックブレーキシステム(ABS) 336
ABS警告灯 81, 336

イ

一酸化炭素の危険性 75
イモビライザーシステム 140
インフォメーション表示灯 90

ウ

ウィンカー 150
ウィンドーウォッシャー
ウィンドーウォッシャー液の補給 377
ウィンドーウォッシャースイッチ 158
ウィンドーの開閉 142
ウェアインジケーター 391
運転
シフト操作 212
パワーシステムの起動 205
ブレーキ操作 327

エ

エアクリーナーエレメント 463
エアコン 194
エアクリーンフィルター 399
オートエアコンの使いかた 195
窓の曇りや霜の取りかた 197
エアバッグ 47
SRSエアバッグ 49
エアバッグシステム警告灯 57, 82
エアバッグのお手入れ 58
サイドエアバッグ 52
サイドカーテンエアバッグ 55
エマージェンシーストップシグナル 339
エンジンオイル 376
推奨エンジンオイル 376, 463
油圧警告メッセージ 441
エンジン作動表示 99
エンジンの始動
12V バッテリーがあがったとき 433
エンジンルーム内のメンテナンス 373
ウィンドーウォッシャー液の補給 377
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 373
推奨エンジンオイル 376, 463
ボンネットを開ける 374
冷却水の点検と補給 438
エンジン冷却水 463

オ

応急修理剤(タイヤパンク) 413
オーディオ 105
オートエアコン 195
オートハイビーム 155
オートハイビーム表示灯 87
オートマチックブレーキホールド 332
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 89
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 89
オーバーヒート 438
オドメーター 93
温度センサー 94

カ

カーゴスペース照明灯 179
電球の交換 384
カーゴフロアボックス 184
外気温表示 94
鍵(かぎ) 123
カスタマイズ表示 110
ガソリン 367, 463

キ

キー
- Hondaスマートキー 124, 125
- 解錠してもドアが開かない 25
- キー 123
- キー閉じ込み防止装置 133
- キーナンバータグ 124
- キーレスエントリー 131
- 後席ドアが開かない 24
- 電池交換のしかた 397
- 内蔵キー 124
- Hondaスマートキーの電池が切れたとき 431

キー閉じ込み防止装置 133
キーナンバータグ 124
キーレスエントリー 131
キックダウン 211
急アクセル抑制機能 250
給油 367
- 給油のしかた 367
- 指定燃料 367, 463

緊急通報 458

ク

空気圧 463
グラブレール 3
- コートフック 183

クリープ現象 211
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン） 91
車の改造 408
グローブボックス 180

ケ

経過時間表示 104
計器 76
警告灯 79
- 12Vバッテリー充電警告灯 80, 442
- ABS警告灯 81, 336
- EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯 83, 444
- PGM-FI警告灯 80, 442
- VSA OFF警告灯 82
- VSA警告灯 82, 223
- 安全支援情報警告灯（オレンジ） 85, 86
- エアバッグシステム警告灯 82
- シートベルト非着用警告灯 81
- 車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ） 83
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ） ... 83
- 衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） 84
- トランスミッション警告灯 81
- 燃料残量警告灯 81
- パーキングセンサー警告灯 83
- パワーシステム警告灯 80
- ブレーキ警告灯（レッド） 79, 443, 445
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 80, 445
- 油圧警告メッセージ 441
- 路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） 84
- 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 84

警告灯の点灯/点滅 441
警告メッセージ 110
けん引 454
減速セレクター 215

コ

交換
- カーゴスペース照明灯電球 384
- 後退灯電球 380
- 後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 379
- 室内灯電球 382
- 車幅灯/デイタイムランニングライト電球 378
- 制動灯/尾灯電球 378
- 前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 378
- 側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 378
- ハイマウントストップランプ電球 381
- バニティミラー照明灯電球 383
- 番号灯電球 381

ヘッドライト電球 378
マップランプ電球 382
ワイパーブレードラバー 385, 388
工具 411
航続可能距離 102
航続距離/燃費/トリップメーター 100
後退出庫サポート 348
後退灯 380
高電圧バッテリー残量計 93
高電圧バッテリーの特性 226
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 379
コートフック 183
コンソールボックス
センターコンソールボックス 181
コンビニフック 183

サ

サイドエアバッグ 52
サイドカーテンエアバッグ 55
サンバイザー 3

シ

シートの調節 165
アームレスト 176
フロントシート 165
ヘッドレスト 173
リヤシート 168
シートヒーター 192
シートベルト 35
アンカーポイント 46
シートベルトの着用 39
シートベルトの点検 46
シートベルト非着用警告灯 81
シートベルトプリテンショナー 37
シートベルトリマインダー 36
全席シートベルト 105
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 45
時刻の設定 120
室内装備品 177
室内灯 177
指定燃料 367, 463
シフト操作 212
シフトポジション 212
シフトポジション表示灯 88
シフトレバー
シフトレバーが動かない 437
シフトレバーの操作 213
車外の清掃 404
車線維持支援システム(LKAS) 293
車速/経過時間/トリップメーター 103
ジャッキ 427
車内の清掃 402
車幅灯 151, 378
車両接近通報装置 219
ジャンプスタート 433
渋滞運転支援機能(トラフィックジャムアシスト) 303
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール) 271
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 271
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ) 83
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン) 90
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)/トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)表示 95
充電専用USBジャック 186
収納装備 180
瞬間燃費表示 101
仕様 463
衝撃感知ドアロック解除システム 137
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 234
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ) 84
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー) 91
助手席アッパーボックス 180
ショルダーアンカー 41
親水ミラー 407
シンプル 98

ス

スイッチ
- ECONスイッチ 218
- POWERスイッチ 147
- エアコン 194
- シートヒーター 192
- 室内灯 177
- ステアリングヒーター 193
- ドアミラー 163
- ドライブモードスイッチ 220
- パーキングブレーキスイッチ 327
- パワーウィンドー 142
- ヒーテッドドアミラースイッチ 160
- フロントガラス熱線スイッチ 160
- ヘッドライトレベリングダイヤル 154
- ライトスイッチ 151
- リヤデフロスタースイッチ 160
- ワイパー/ウォッシャー 158
- ワイヤレス充電器 187

ステアリング 161
ステアリングヒーター 193
スノータイヤ 396
スパークプラグ 463
スピードメーター 92

セ

清掃 402
制動灯 378
セキュリティシステム 140
- イモビライザーシステム 140
- セキュリティアラームシステム 140
- 表示灯 88

先行車発進お知らせ機能 312
センターコンソールボックス 181
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 378

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 378
ソナーセンサー 325
その他の室内装備品 185
ソフトウェアに関する重要なお知らせ 464

タ

タイヤ 390
- ウェアインジケーター 391
- 指定空気圧 391, 463
- タイヤの点検 390
- タイヤのローテーション 395
- タイヤパンク応急修理キット 413
- 冬期のタイヤ 396
- パンク 413

タイヤチェーン 396
タイヤとホイールの交換 394

チ

チェーン 396
チャイルドシート
- ジュニアシート 73
- 乳児のチャイルドシート 60
- 幼児のチャイルドシート 61

チャイルドプルーフ 136
駐停車操作 340

テ

デイタイムランニングライト 153
テールゲート 138
- テールゲートが開かないとき 457
- ドア/テールゲート開閉警告 33

デフロスター 197
- リヤデフロスター 160

点火プラグ 463
電子制御パーキングブレーキ 327
電子制御ブレーキアシスト 338
電池交換 397
電話 105

ト

ドアの施錠と解錠 123
- Hondaスマートキー 124, 125
- 解錠してもドアが開かない 25
- キー 123

キー閉じ込み防止装置 133
キーナンバータグ 124
キーレスエントリー 131
後席ドアが開かない 24
車外でのドアの施錠/解錠 126
車内での施錠と解錠 134
衝撃感知ドアロック解除システム 137
チャイルドプルーフ 136
ドア/テールゲート開閉警告 33
ドアミラー 163
冬期のタイヤ 396
スノータイヤ 396
タイヤチェーン 396
時計 95
時計/車両設定 111
ドライブモードスイッチ 220
トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） 303
トラブルサポート 461
トラブルシューティング
12Vバッテリーがあがったとき 433
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 25
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 25
オーバーヒートした 438
解錠してもドアが開かない 25
緊急時や車両トラブルのとき 458
警告灯が点灯/点滅した 441
けん引してもらいたい 454
後席ドアが開かない 24
シフトレバーが動かない 437
走行するとブザーが鳴る 25
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 25
ハイオクガソリンは使える？ 26
パワーシステムが起動しない 430
パワーモードがOFFモードからアクセサリーモードにならない 24
パワーモードがOFFモードにならない 24
パンクした 413
ヒューズが切れた 446
ブレーキを踏むと音がする 26
ブレーキを踏むと振動する 24
トランスミッション 211
トランスミッション警告灯 81
トランスミッションフルード 463
トリップメーター 101
ドリンクホルダー 182

ナ

内蔵キー 124
ナビゲーション 105

ネ

燃費履歴 102
燃料 367, 463
燃料計 92
燃料残量警告灯 81

ハ

パーキングセンサーシステム 342
排気ガスの危険性 75
ハイビーム 152
電球の交換 378
ハイビーム表示灯 87
ハイマウントストップランプ 381
ハザードスイッチ 0
発炎筒 2, 411
バッテリー
12V バッテリーがあがったとき 433
12Vバッテリー充電警告灯 80, 442
容量/タイプ 463
バニティミラー 3
パワーウィンドーの開閉 142
パワーシステム
パワーシステムの起動 205
パワーシステム警告灯 80
パワーシステムの起動
12V バッテリーがあがったとき 433
パワーシステムが起動しない 430
パワーフロー 99
パワーモード
オートオフ機能 148
切り換えかた 147
警告ブザー 148
パンク 413

番号灯 381
ハンドル 161
ハンドル位置調節レバー 161

ヒ

ヒーテッドドアミラー 160
非常点滅表示灯スイッチ 0
尾灯 378
ヒューズ 446
ヒューズの設置場所 446
ヒューズの点検と交換 453
標識認識機能 317
標識認識機能表示 94
表示灯 87
ECONモード表示灯 89
EV表示灯 90
NORMALモード表示灯 89
READY表示灯 90
SPORTモード表示灯 89
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) 91
イモビライザーシステム表示灯 88
インフォメーション表示灯 90
オートハイビーム表示灯 87
オートマチックブレーキホールド
システム表示灯 89
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 89
急アクセル抑制機能表示灯 87
クルーズコントロール表示灯
(ホワイト/グリーン) 91
減速セレクター表示灯 89
シフトポジション表示灯 88
車線維持支援システム(LKAS)表示灯
(グリーン) 90
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ
コントロール(ACC)表示灯
(ホワイト/グリーン) 90
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯
(グレー) 91
セキュリティアラームシステム作動
表示灯 88
ハイビーム表示灯 87
方向指示器/非常点滅表示灯 87
ライト点灯表示灯 87
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 91

フ

ブースターケーブル 433
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 25
走行するとブザーが鳴る 25
踏み間違い衝突軽減システム 244
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき ... 456
フューエルリッドの開けかた 367
ブラインドスポットインフォメーション ... 227
ブレーキ警告灯 443
ブレーキシステム 327
ABS(アンチロックブレーキシステム).... 336
アクセルペダルを踏んでもパーキング
ブレーキが自動で解除できない 25
エマージェンシーストップシグナル 339
オートマチックブレーキホールド 332
電子制御パーキングブレーキ 327
電子制御ブレーキアシスト 338
パーキングブレーキスイッチを押しても
パーキングブレーキが解除できない 25
フットブレーキ 331
ブレーキ警告灯 443
ブレーキ警告灯(レッド) 79, 445
ブレーキシステム警告灯
(オレンジ) 80, 445
ブレーキを踏むと音がする 26
ブレーキを踏むと振動する 24
ブレーキフルード 463
ブレーキ警告灯 443
ブレーキ警告灯(レッド) 79
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 80
フレキシブルアタッチメントテーブル 181
フロントガラス熱線スイッチ 160
フロントシート 165
アームレスト 176
シートヒーター 192
ヘッドレスト 173
フロントワイドビューカメラ 323

へ

平均車速表示 104
平均燃費表示 101
ヘッドライト 151, 152, 407
　オートハイビーム 155
　電球の交換 378
　ハイビーム表示灯 87
　ライト点灯表示灯 87
ヘッドライトレベリングダイヤル 154
ヘッドレスト 173
　フロントシート 173
　リヤシート 174

ホ

ホイールサイズ 463
ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル） 427
方向指示器（ウィンカー） 150
　方向指示器表示灯 87
ホーンスイッチ 1
歩行者事故低減ステアリング 264

マ

マスタードアロックスイッチ 135
マップランプ 178
　マップランプ電球 382
マルチインフォメーションディスプレイ 96
　表示の切り換えかた 96
マルチビューカメラシステム 353

ミ

ミラー 162
　ドアミラー 163
　バニティミラー 3
　ルームミラー 162

メ

メーター 92
　オドメーター 93
　外気温表示 94
　標識認識機能表示 94
　高電圧バッテリー残量計 93
　スピードメーター 92
　燃料計 92
　マルチインフォメーションディスプレイ 96
メンテナンス 370
　Hondaスマートキー 397
　エンジンルーム内のメンテナンス 373
　清掃 402
　タイヤの点検と整備 390
　メンテナンスに関する注意事項 372
　メンテナンスを安全に行うために 372
　ライト類の点検と整備 378
　ワイパーブレードラバーの点検と整備 385

ユ

油圧警告メッセージ 441

ヨ

四輪駆動機構（4WD） 226

ラ

ライトスイッチ 151
　オートハイビーム 155
　オートハイビーム表示灯 87
　ハイビーム表示灯 87
　ライト点灯表示灯 87
ライト類の点検と整備 378
　カーゴスペース照明灯電球 384
　後退灯電球 380
　後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 379
　室内灯電球 382
　車幅灯/デイタイムランニングライト電球 378
　制動灯/尾灯電球 378
　前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 378
　側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 378
　ハイマウントストップランプ電球 381
　バニティミラー照明灯電球 383
　番号灯電球 381

ヘッドライト電球 378
マップランプ電球 382
ラジエーター 438, 440

リ

リアシートリマインダー 172
リムサイズ 463
リヤシート 168
アームレスト 176
ヘッドレスト 174
リヤデフロスター 160

ル

ルームミラー 162

レ

冷却水 438, 440, 463
オーバーヒート 438
補給 440

ロ

ロービーム 151
電球の交換 378
路外逸脱抑制機能 255
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) 84
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 84
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 91

ワ

ワイパー/ウォッシャー 158
ワイパーブレードラバー 385
ワイヤレス充電器 187

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名